

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

第5回折り紙の著作権に関する国際会議 報告(後編)

The 5th International Meeting on Origami Copyright Report (Part 2)

西川誠司 Nishikawa Seiji

新連載 New Series

蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

笠原邦彦

Kasahara Kunihiro



折り図 Diagrams

アフリカゾウ 宮本宙也

African Elephant

Miyamoto Chuya

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ラクダ 小菅章裕

Camel

Kosuge Akihiro

つまみおり Information

第13回折紙探偵団関西コンベンション参加募集開始

Registration Information on the 13th Origami Tanteidan Kansai Convention

通巻 **137** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

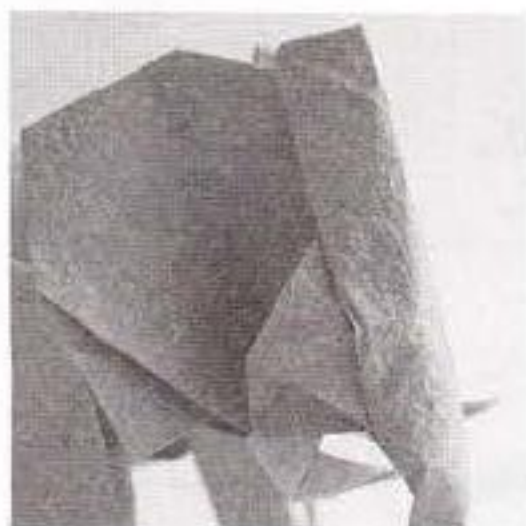
切る
Cut

アフリカゾウ
African Elephant

作: 宮本宙也 (P.22)
by Miyamoto Chuya (P.22)

■なんだか不思議な視線を感じて、吸い寄せられるような気がする。伊藤若冲の「鳥獣草花図屏風」に描かれている、あの丸くて白い象のような目つき。しかし本物とも絵とも違う目の位置。でもこの作品では、目がこの位置で、このバランスで存在することが必須のように思えます。
(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **137**



African Elephant: Miyamoto Chuya

クローズアップ / Close-up

P.11 第5回折り紙の著作権に関する国際会議 報告(後編)

The 5th International Meeting on Origami Copyright Report (Part 2)

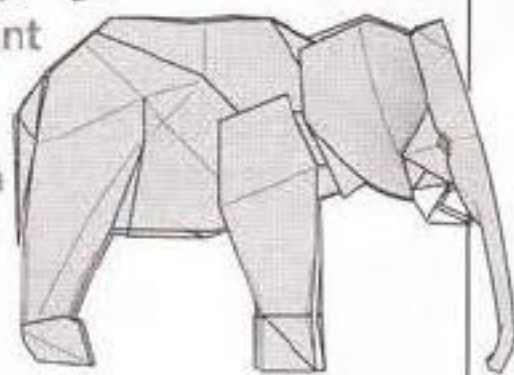
西川誠司
Nishikawa Seiji

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 アフリカゾウ

African Elephant

宮本宙也
Miyamoto Chuya



P.34 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

ラクダ

Camel

小菅章裕
Kosuge Akihiro

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 速報 2012 My Best
My Best 2012

川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

モンドリアン・ボックス

Mondrian Cube

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

60度の星のユニット

60 Degrees Star Modules

読み物 / Articles

P.14 蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

笠原邦彦

Kasahara Kunihiko

正5角形への歩み

Steps towards a Regular Pentagon

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

『Secrets of Origami』

"Secrets of Origami"

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

前川 淳

Maekawa Jun

紙飛行機について

Paper Darts and Planes

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

取材:羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

ホルヘ・パルド

Jorge Pardo

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

芳岡康寛

Yoshioka Yasuhiro

P.33 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 つまみおり Rabbit Ear

第13回折紙探偵団関西コンベンション参加募集開始

Registration Information on the 13th Origami Tanteidan

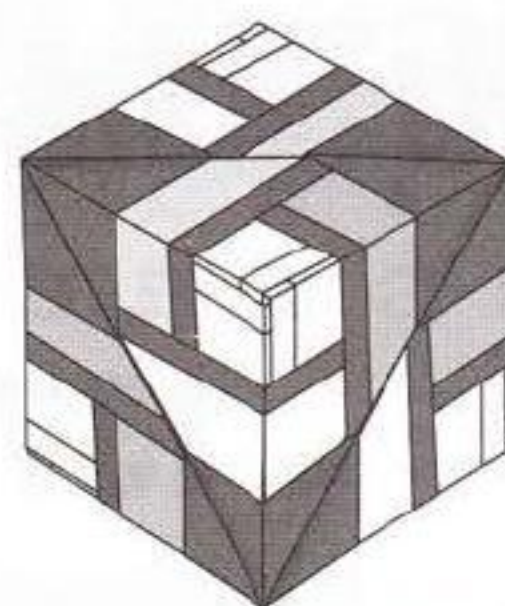
Kansai Convention

モンドリアン・ボックス

Mondrian Cube

©2012 川崎敏和 ©2012 KAWASAKI Toshikazu

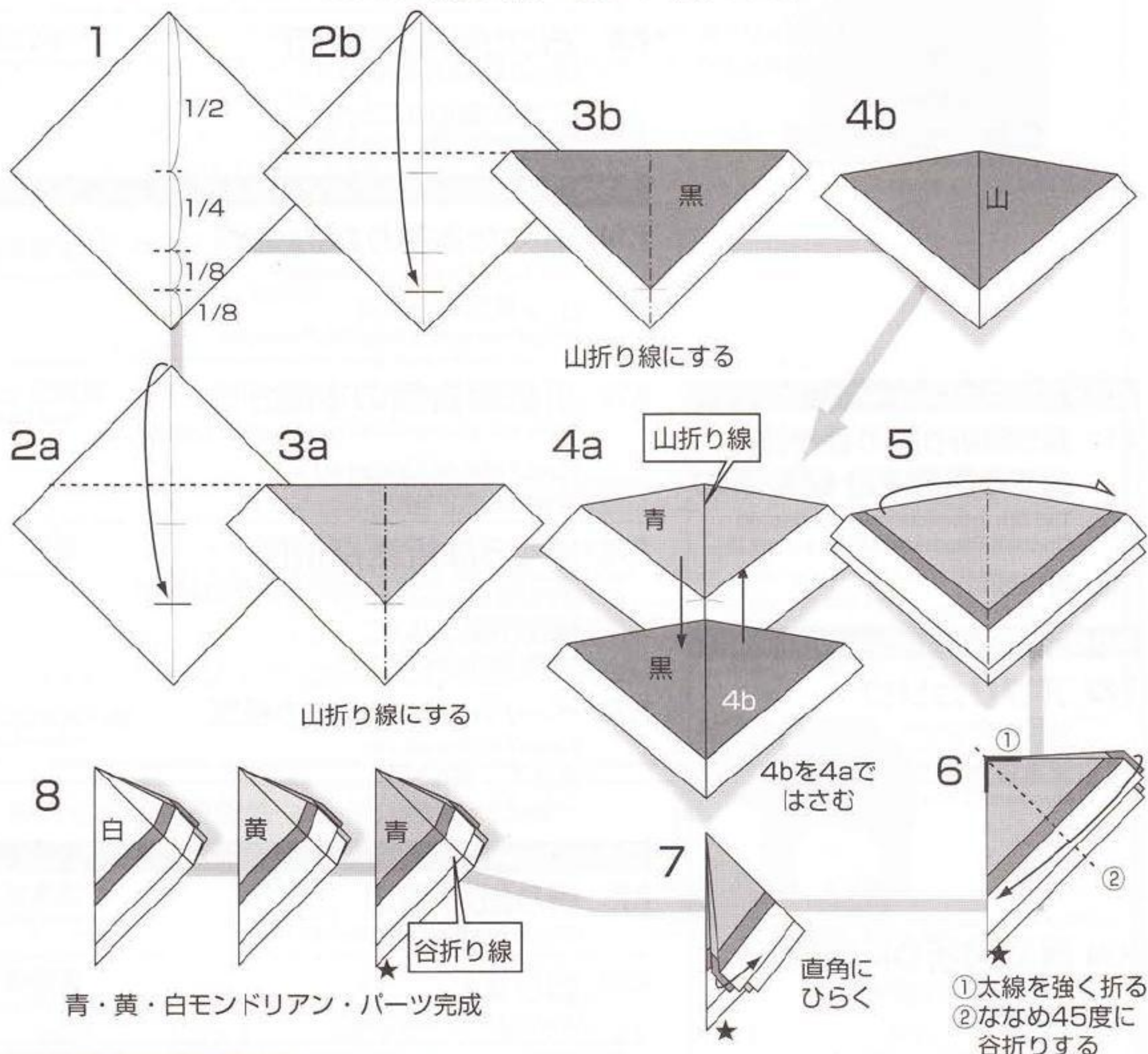
AKBシリーズの作品です。モンドリアン絵柄のSKE48のステージ衣装を折り紙にしました。欲張って2タイプを紹介します。



Found in 14/08/2012

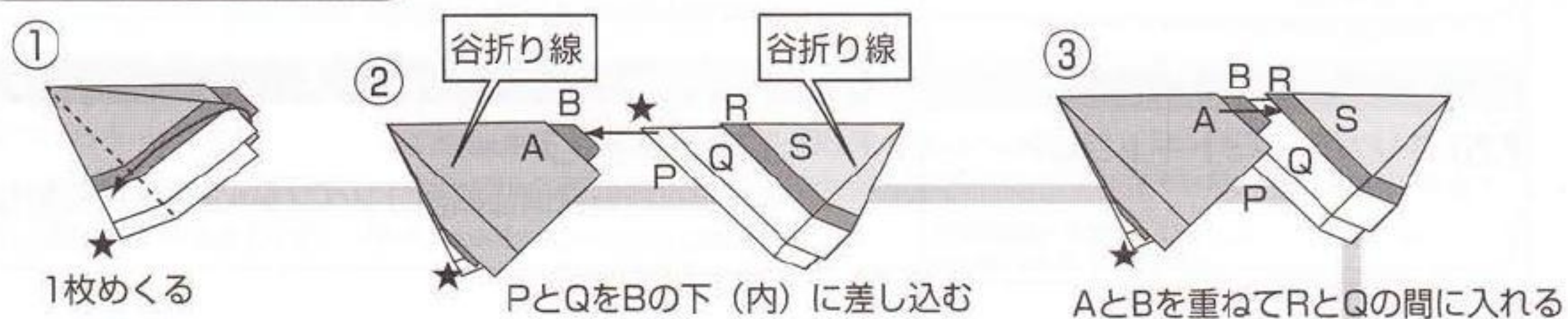
モンドリアン・パーツを作る

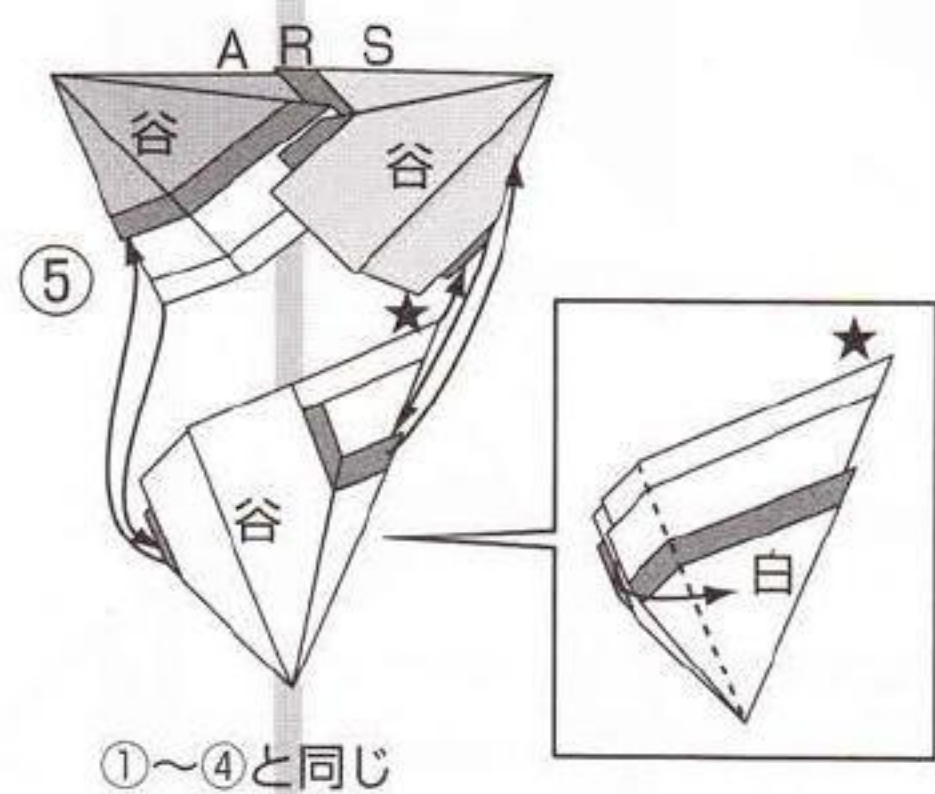
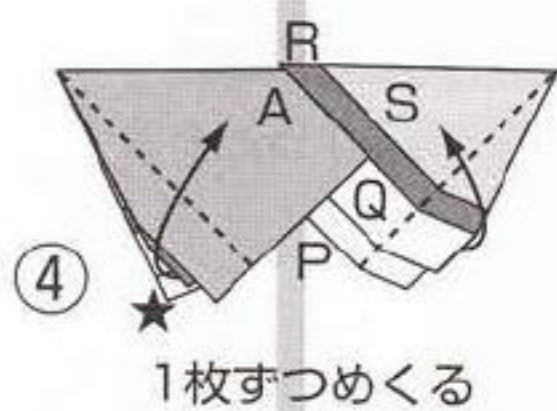
青・黄・白モンドリアン・パーツを作ります。
15cmの色紙を2枚ずつ使って3個作ります。



モンドリアン・ユニットを作る

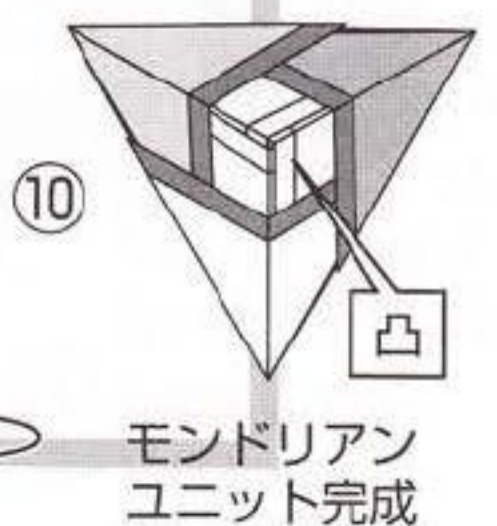
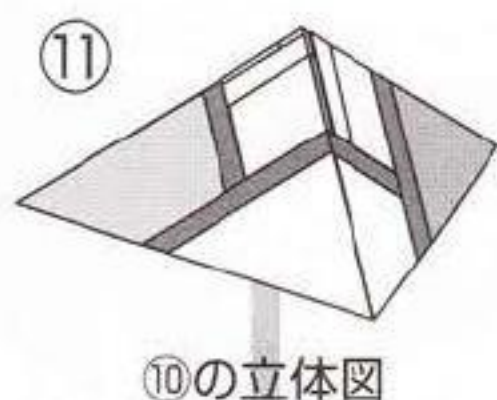
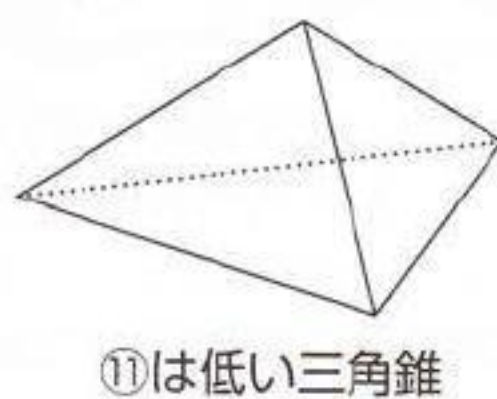
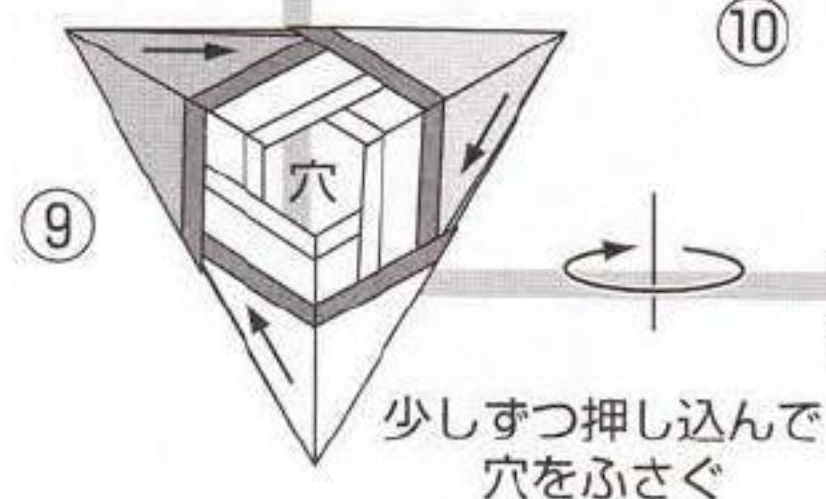
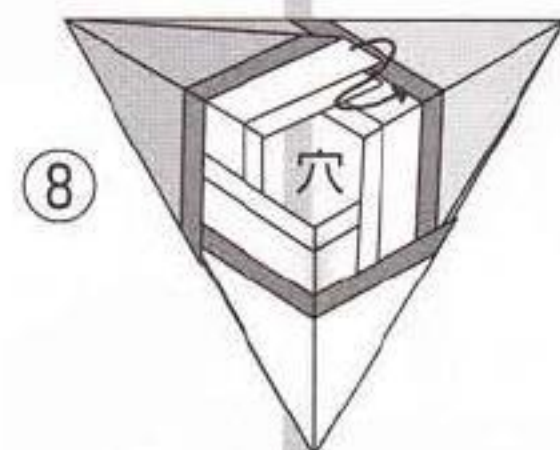
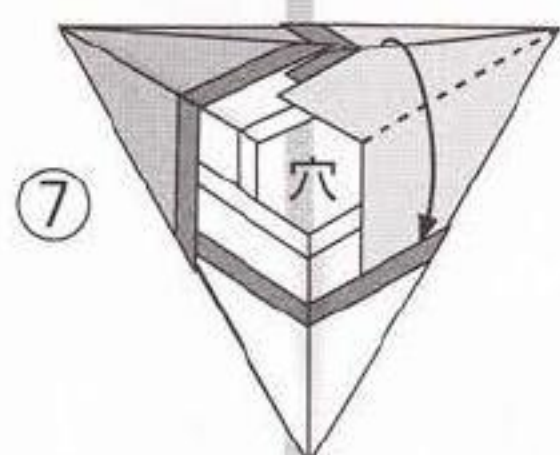
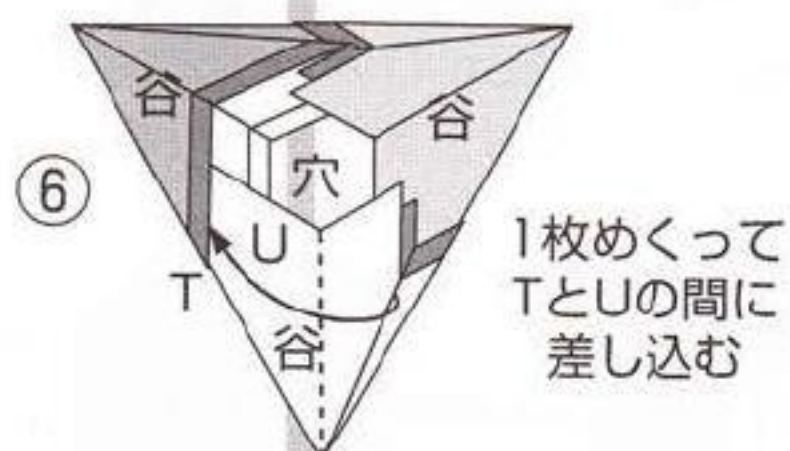
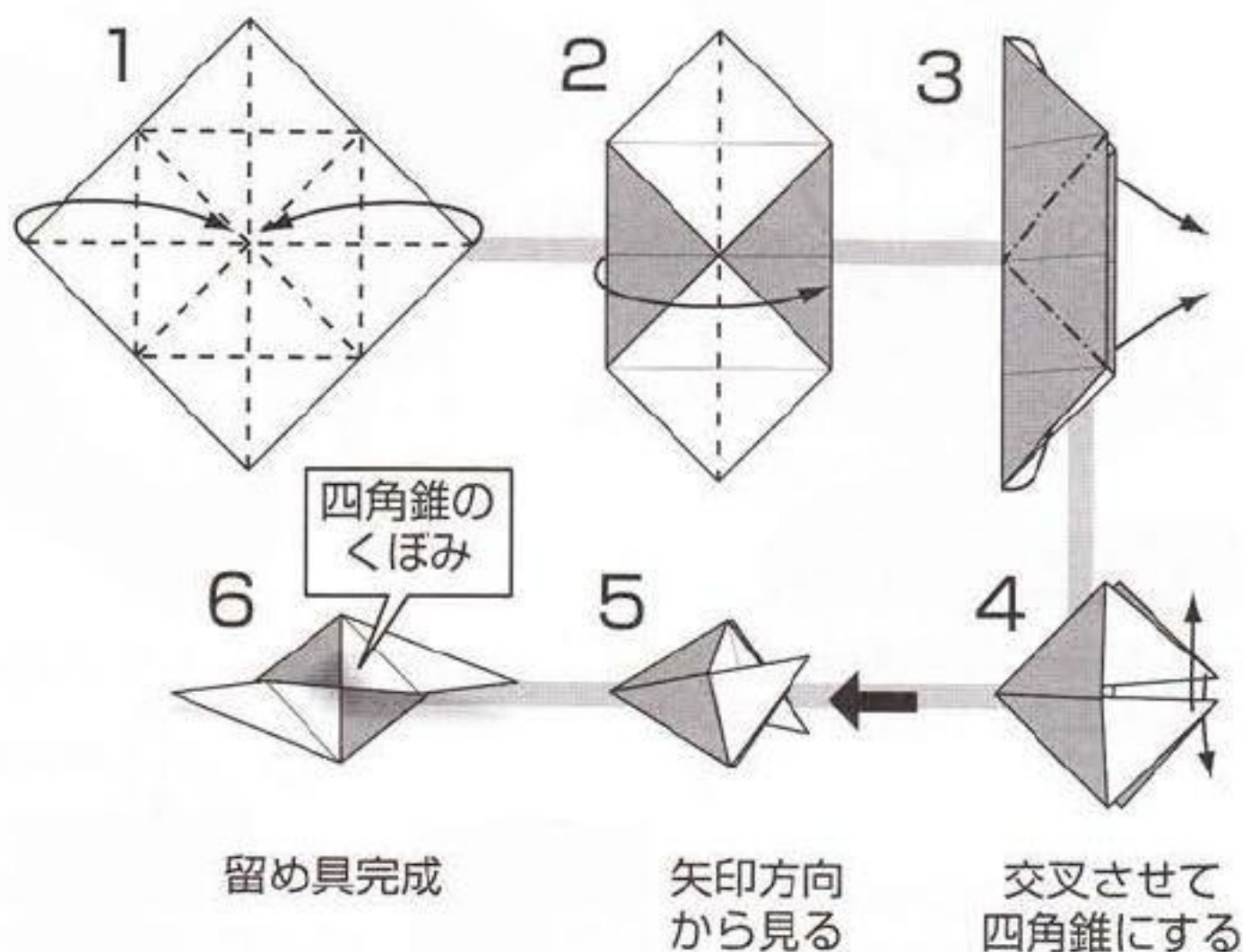
パーツ3個を組んで三角錐にします。





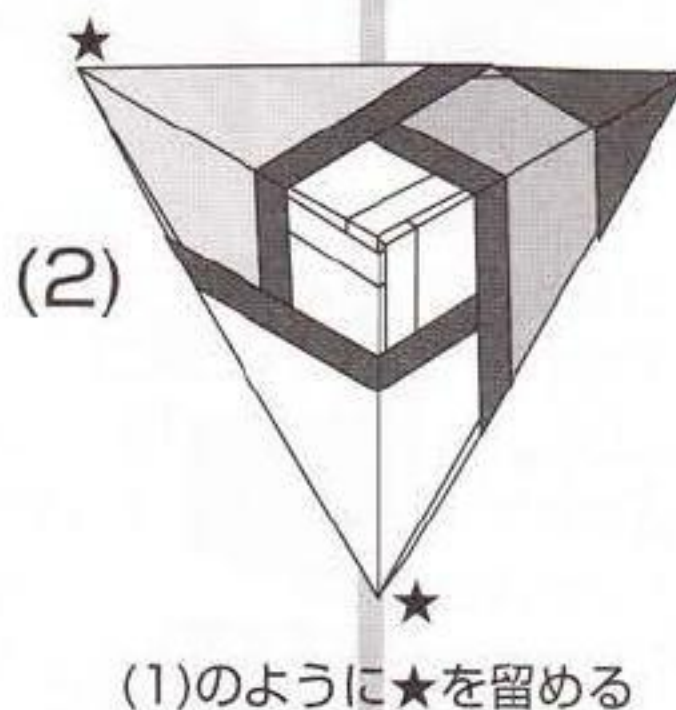
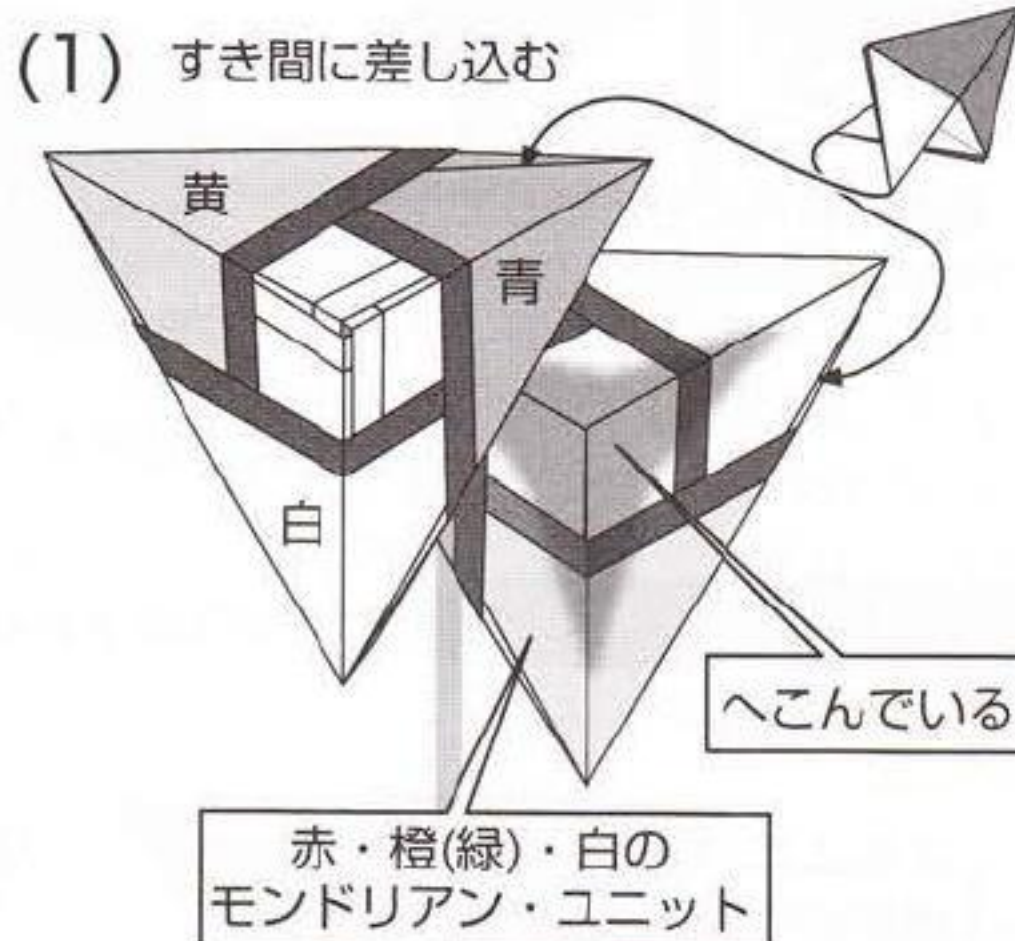
留め具を作る

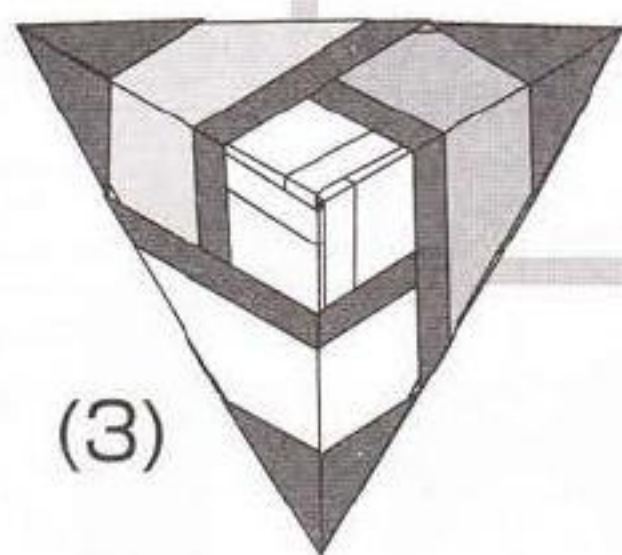
モンドリアン・ユニットを組むための部品です。
7.5cmの黒い色紙で3個作ります。



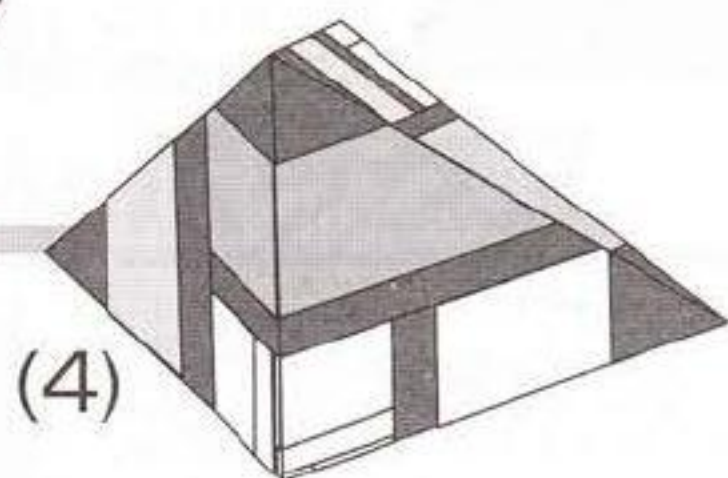
モンドリアン・デルタケースを作る

モンドリアン・ユニット2個を留め具3個で組みます。





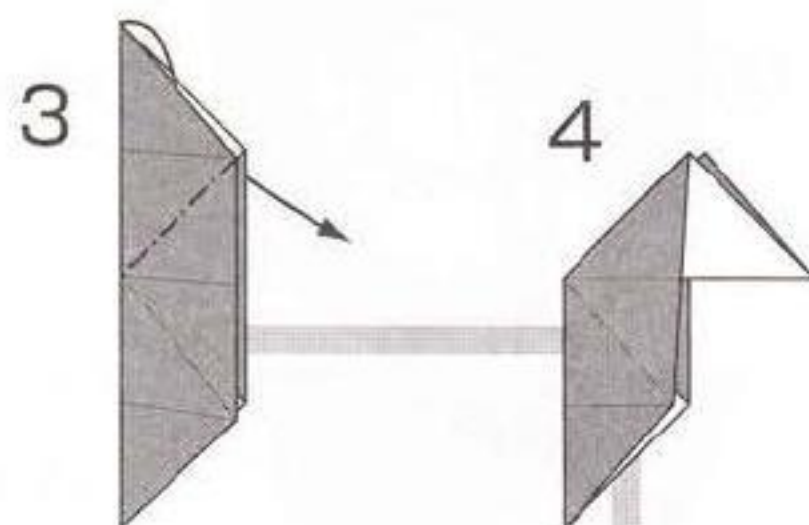
モンドリアン・デルタケース完成



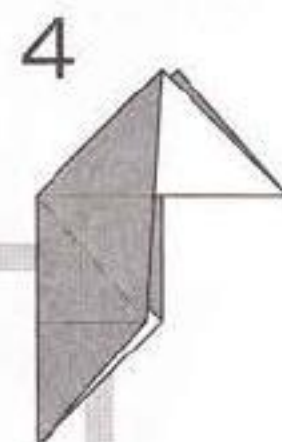
(3)の立体図

つなぎパーツを作る

留め具の工程3から始めます



中割り折り

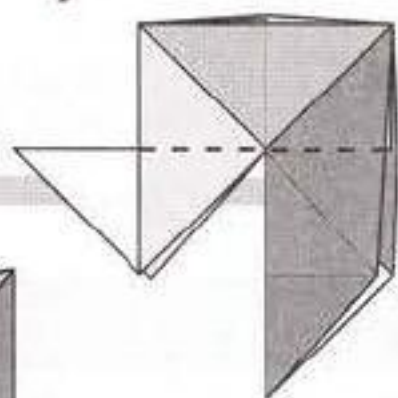


つなぎパーツ完成

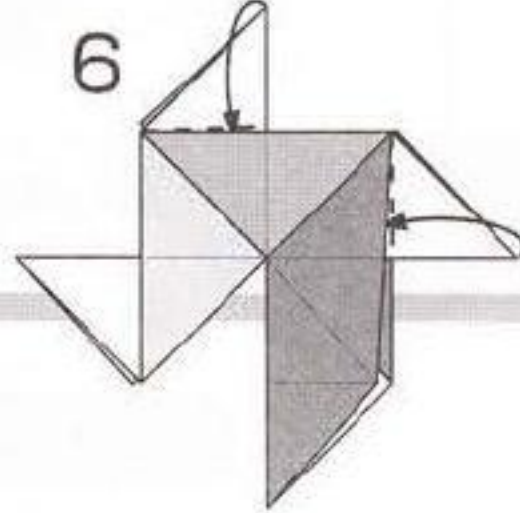
つなぎユニットを作る

つなぎパーツ3個を組んで
つなぎユニットを作ります。

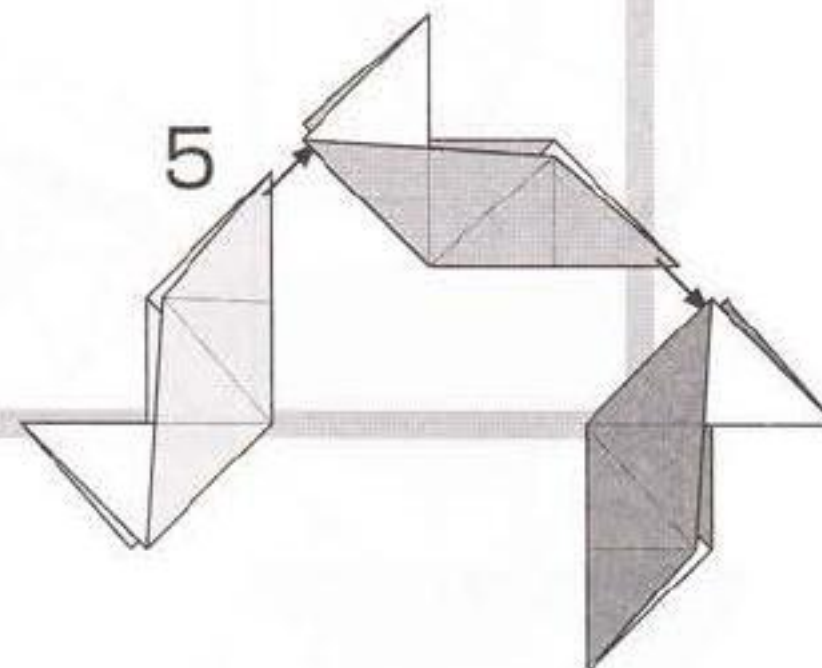
7



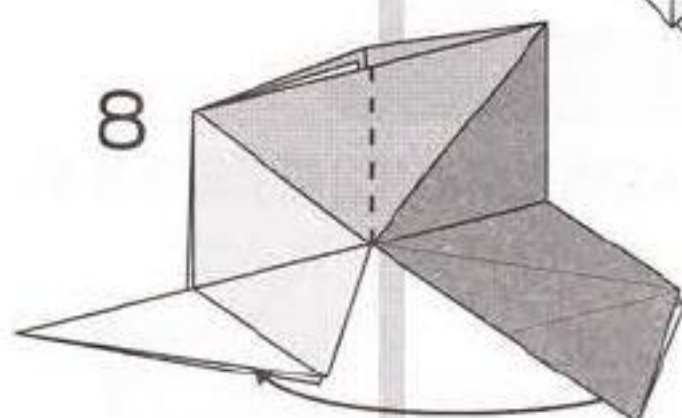
6



5

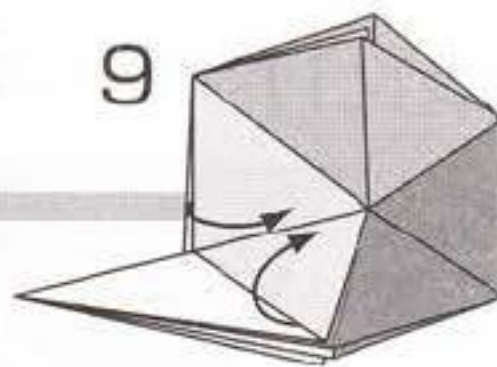


8



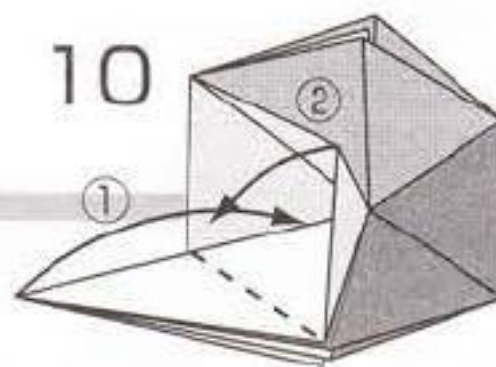
破線を直角に折る

9



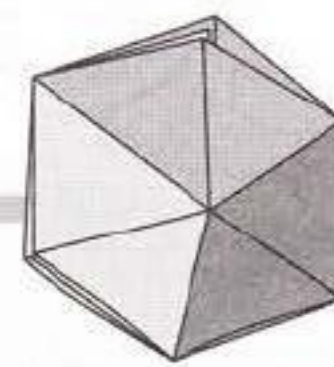
ひらく

10



①重ねて折る
②閉じる

11

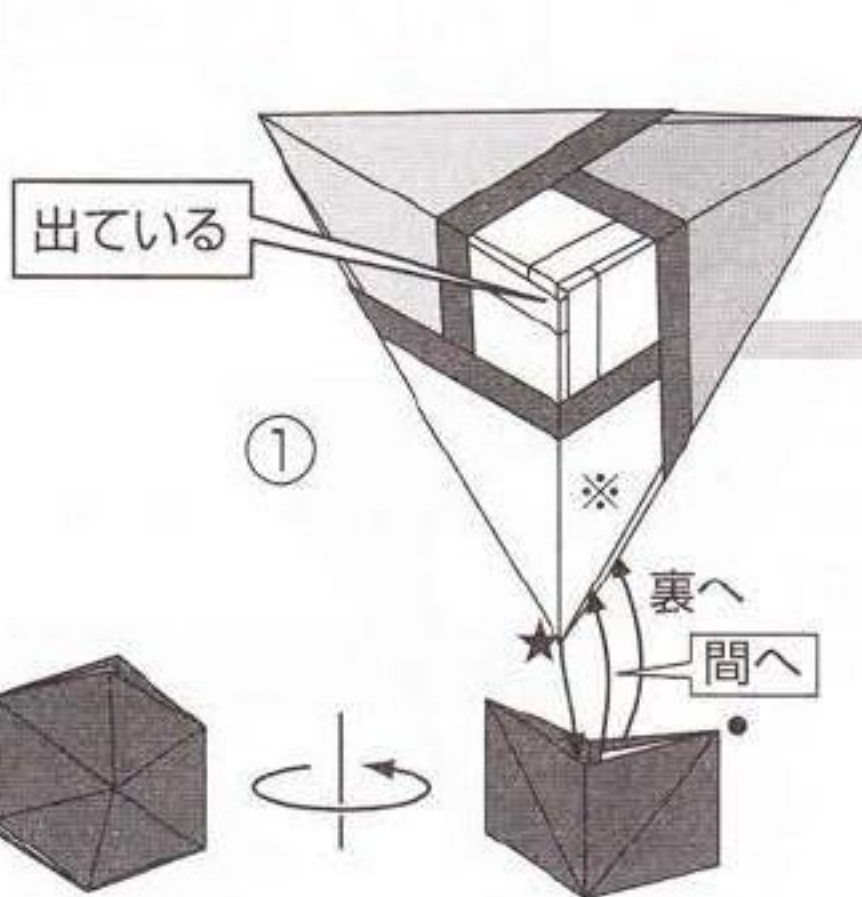


つなぎユニット完成

破線を直角に谷折りして
間に入れる

モンドリアン・ボックスを作る

つなぎユニット4個でモンドリアン・ユニット4個を組んで立方体にします。

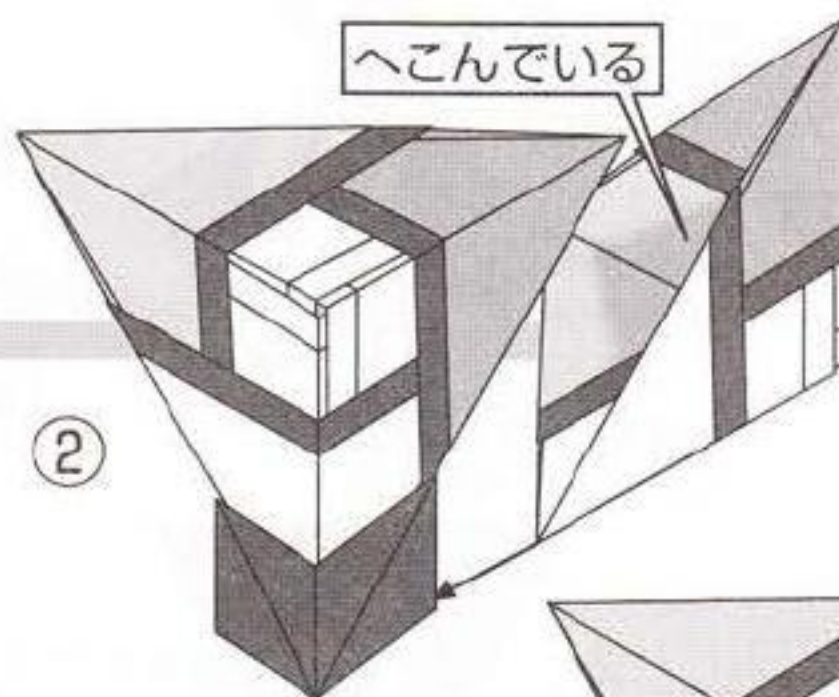


出ている

①

※のすき間に
白い三角を入れながら
★をつなぎユニットに差し込む

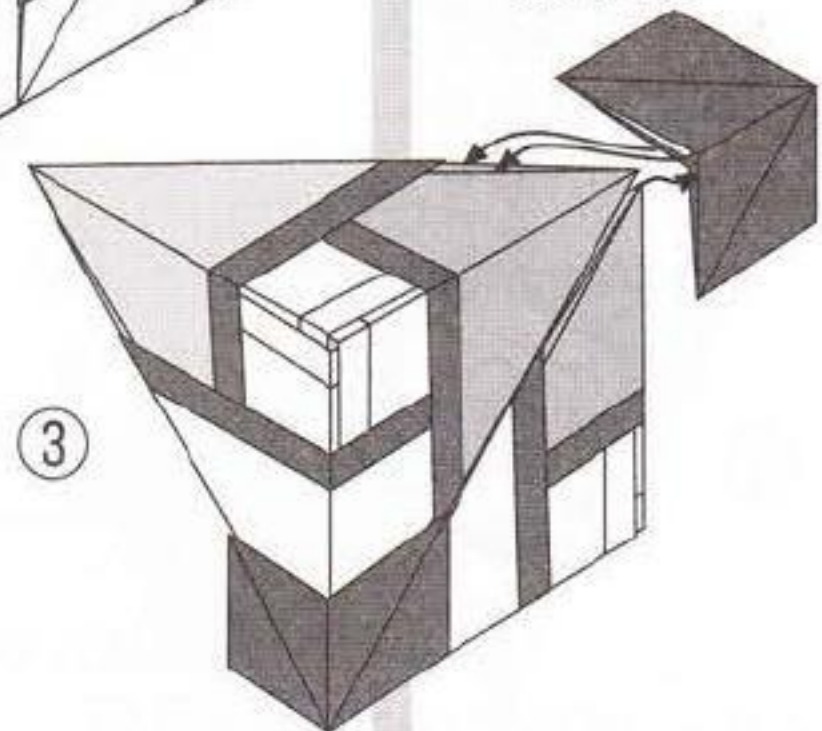
つなぎユニット



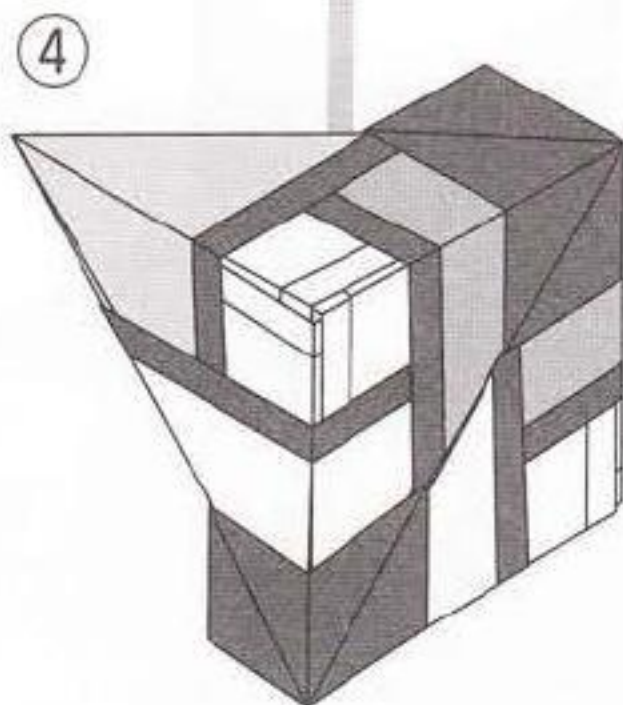
②

へこんでいる

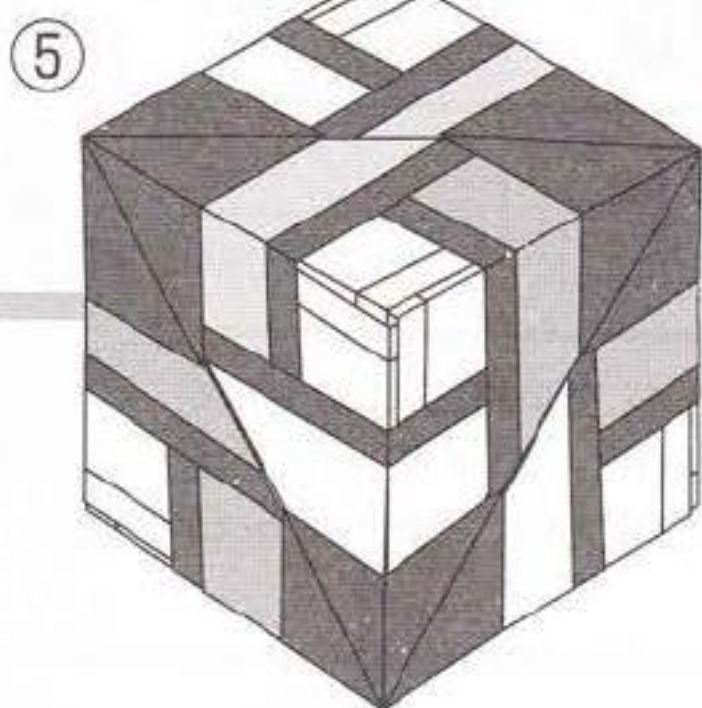
③



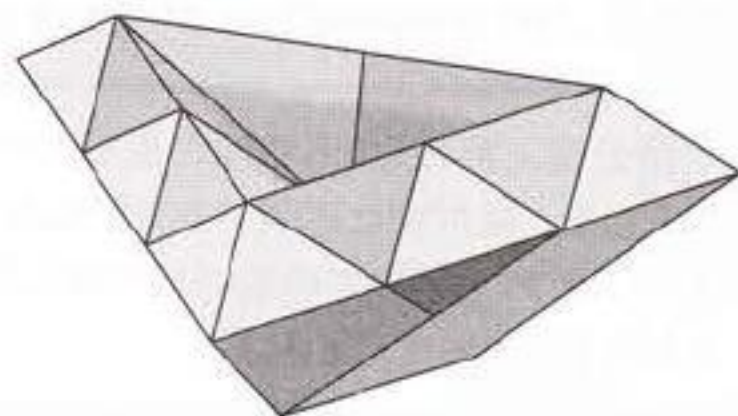
①と同じ



以下、①～④の要領で
ユニット4個を立方体に組む



モンドリアン・ボックス完成



モザイク小物入れ

©Toshikazu Kawasaki 2012 無断複写禁止

ずらして重ねた色紙を折って模様を出す折り紙にはまっています。重なることで紙は厚く丈夫になり
実用に供することができます。ユニット2個を平たく組めばコースター。アレンジは無尽蔵です。
さらに、100円ショップのマルチサイズ色紙を使えば、模様づくりはさらに簡単。
この技法による作品のうちの2つは、2012 WOD特別企画「My Best / My Favorite展」
<http://www.origamihouse.jp/event/wod2012/mybest.html>
で見ることができます。

折り紙の 周辺

第57回
雑誌
Origami Magazines

Origami and
its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

各国折り紙団体の雑誌がたまっている。『探偵団』の他、CDOとODは名誉会員になっており、BOSは会員なので、それぞれ隔月に届く。また、OSNやNOAは作品が掲載された号が届く。イスラエル、韓国、OUSAなどからも時折届く。それぞれ編集チームの苦勞と熱意がこもっているのだが、記事まではなかなか読めない。折り図と写真はざっとチェックする。

折り紙はどんどん進化している、

というより、停滞せず変化を続けている。これは喜ばしい。現代詩を書いている友人がいるが、現代詩は高齢化が進みこのままでは自然死を迎える、危機感を持っていると聞いた。折り紙は子供から大人まで幅広い層に浸透しており、未永く生き延びていくだろう。

各国雑誌を見ていると、一枚折りの動植物と並んでユニットは定席を得ており、時間の流れを感じる。また最近海外ではテッサレーションが定席を得る勢いだが、日本では「あじさい折り」が時折紹介される程度なのは、どうしてか。テッサレーションはやりだすとハマること請け合いなのは経験済み。今後日本でも確実に広がっていくだろう。

また独創性についても考える。瞬時に情報が飛び交うようになり、毎日膨大な折り紙作品が生まれて

おり、それらを追っていると目も頭もチラチラする。どこまでが独創でどこまでが脚色なのかわからない。情報とは適度に付き合い、自分の興味を追っていかうと思う。よいアイデアはなかなか生まれない。

鳥インフルエンザが席卷していたので、ここ2年ほど冬場に鳥のえさ台設置を遠慮していたが、今冬に再開した。警戒もせず、あっという間に集まってきた。忘れていなかったのだろうか、いやこの家そのものが自然と同化しているんだよ、などと話して新年の朝を鳥たちを見て連れ合いと楽しんだ。

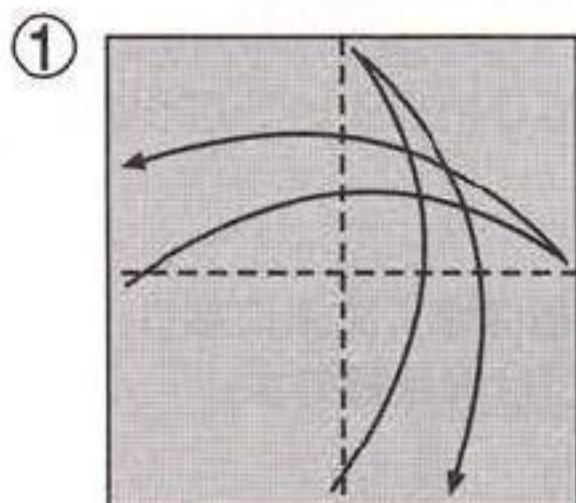
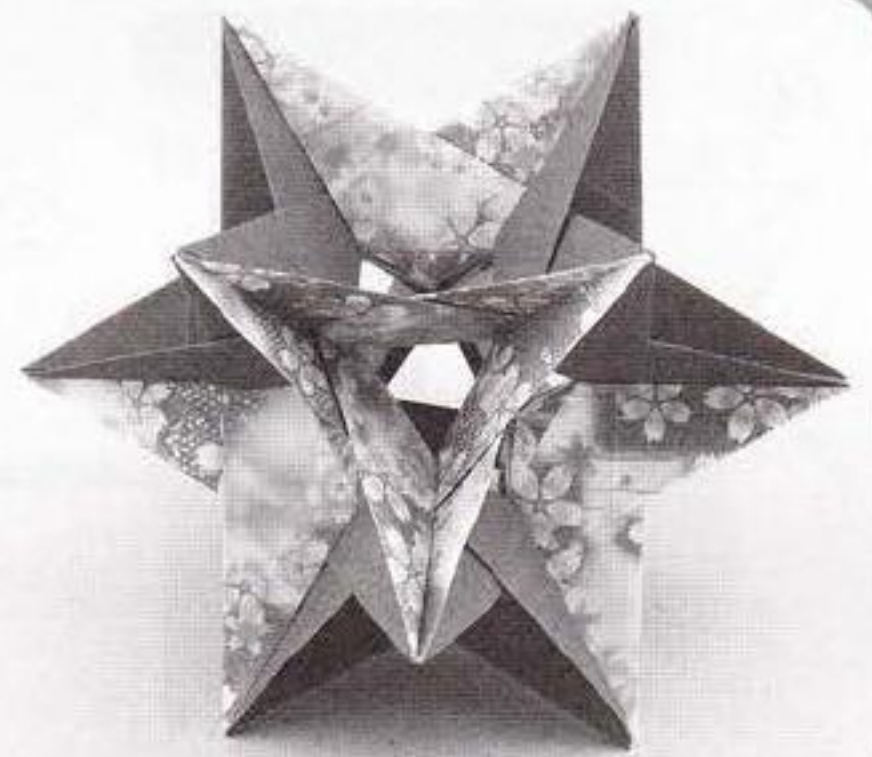
昨秋、家の側面と隣接の神社の木が相当数伐採されたので、新しい風の道ができて風の音が変わった。

今年はどんな年になるのだろう。

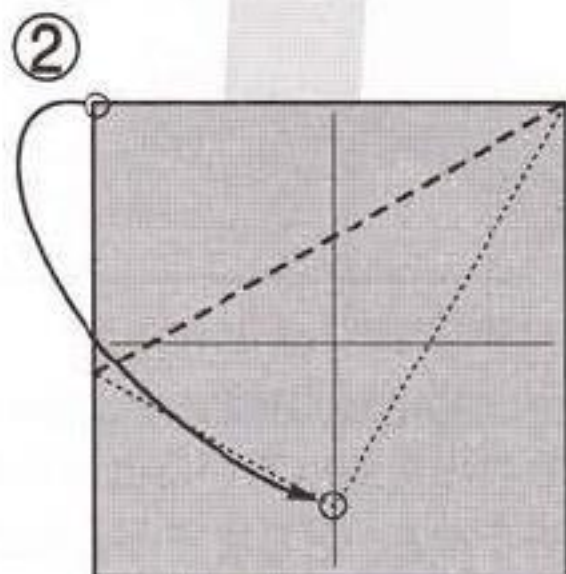
第58回 60度の星のユニット

60 Degrees Star Modules

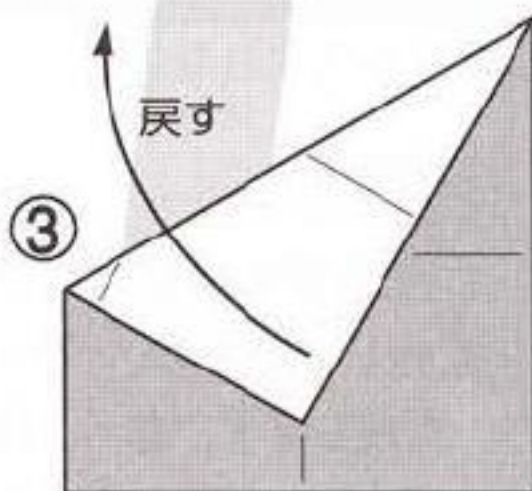
随分昔に創作した6枚組の星のパーツを使って、立体的にアレンジしてみました。糊付けは必須ですが、組み立てが簡単で、スッキリした形に仕上がります。8番までの紙の切り出し手順が面倒な方は、7.5cm×6.5cmの紙を使ってみてください。



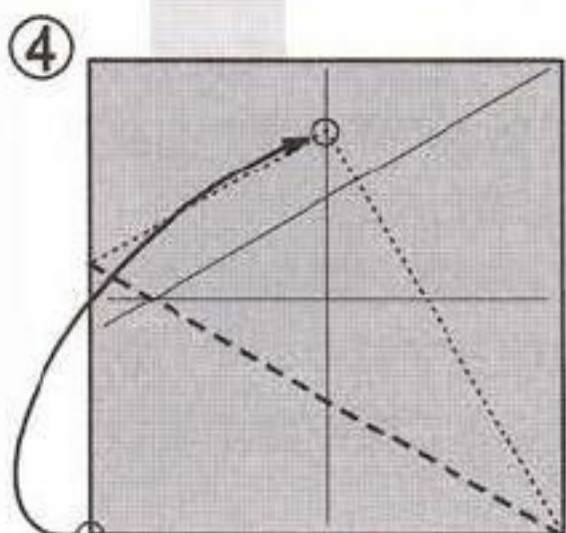
① 半分に折り筋をつける



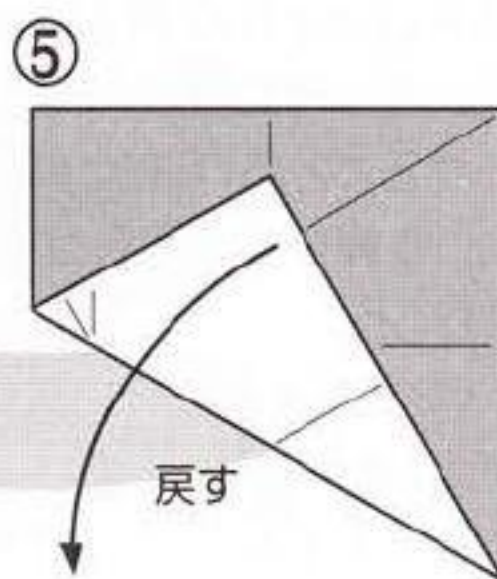
② カドを折り筋に合わせて折る(○と○を合わせる)



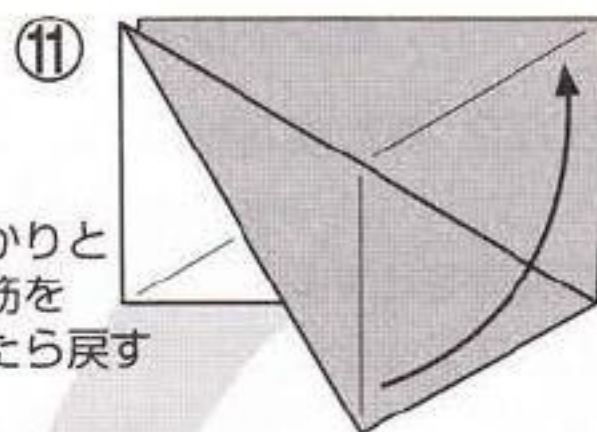
③



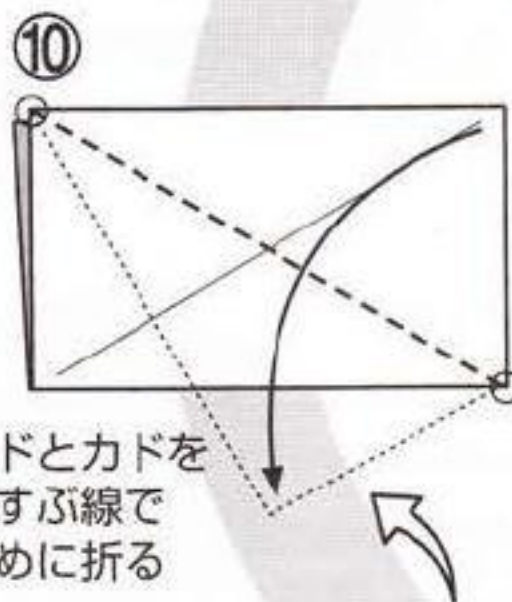
④ カドを折り筋に合わせて折る(○と○を合わせる)



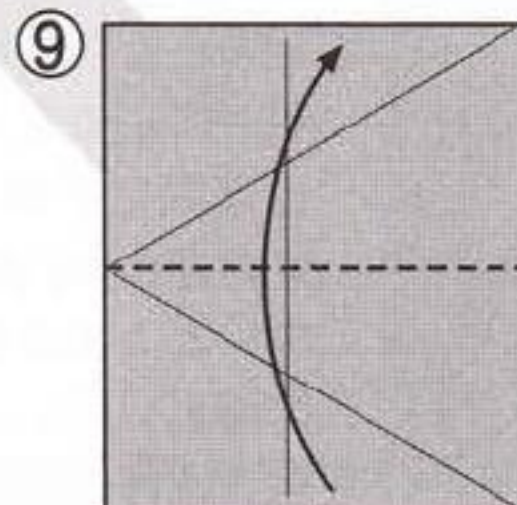
⑤



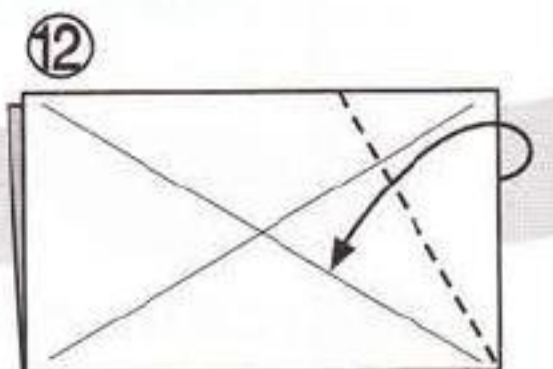
⑪ しっかりと折り筋をつけたら戻す



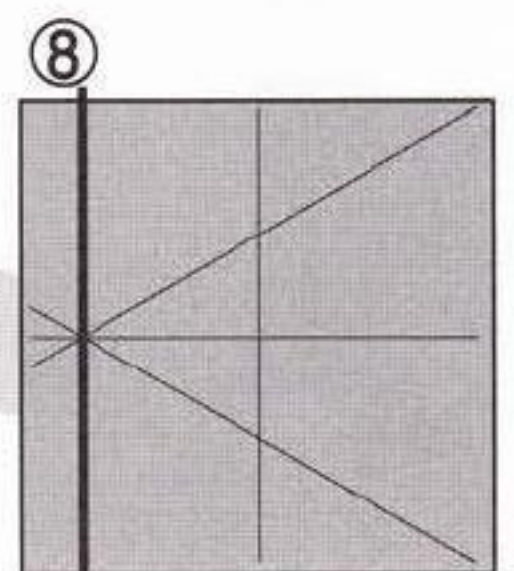
⑩ カドとカドをむすぶ線で斜めに折る



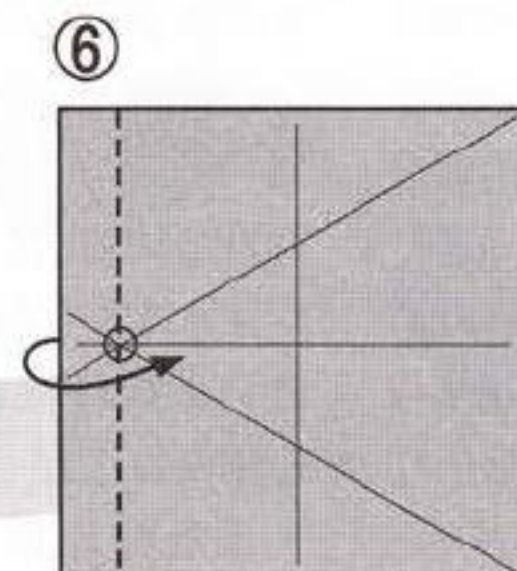
⑨ 半分に折る



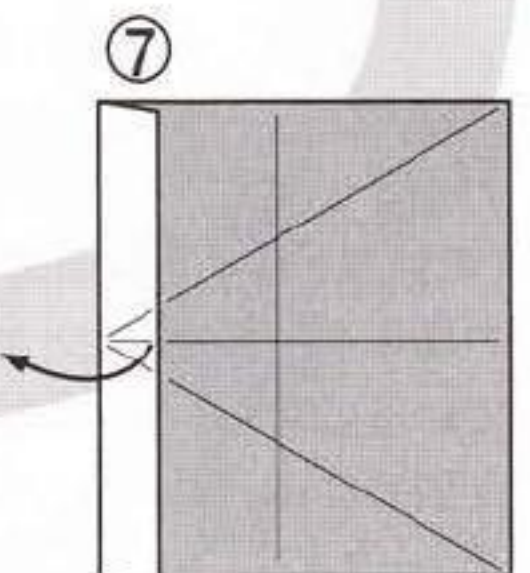
⑫ フチを折り筋に合わせて折る



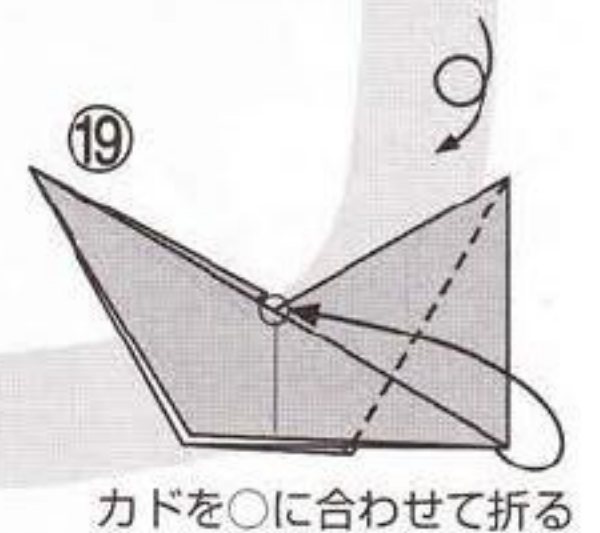
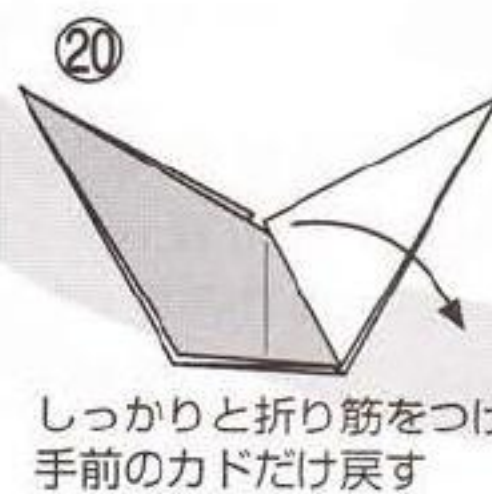
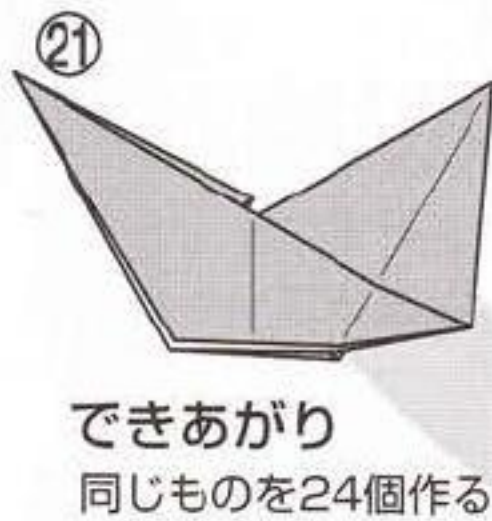
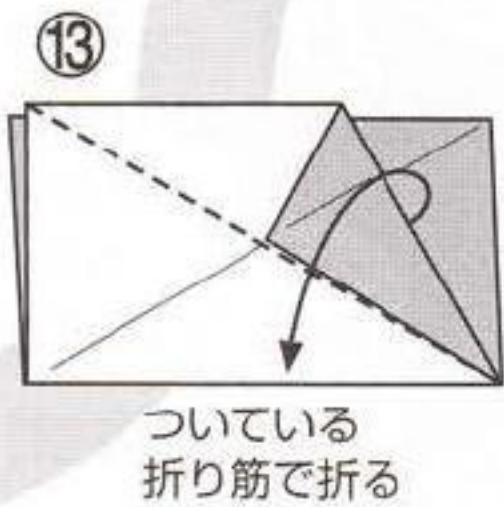
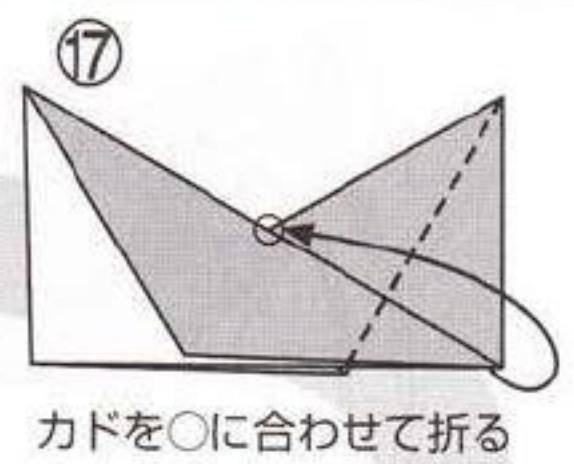
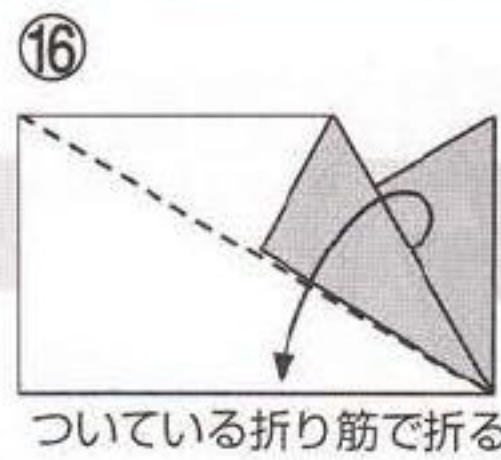
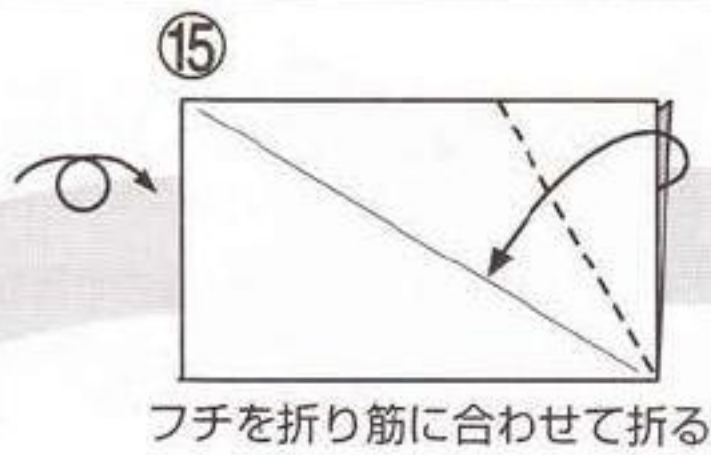
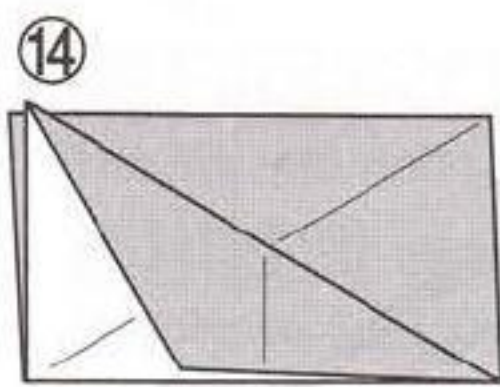
⑧ つけた折り筋で切りおとす



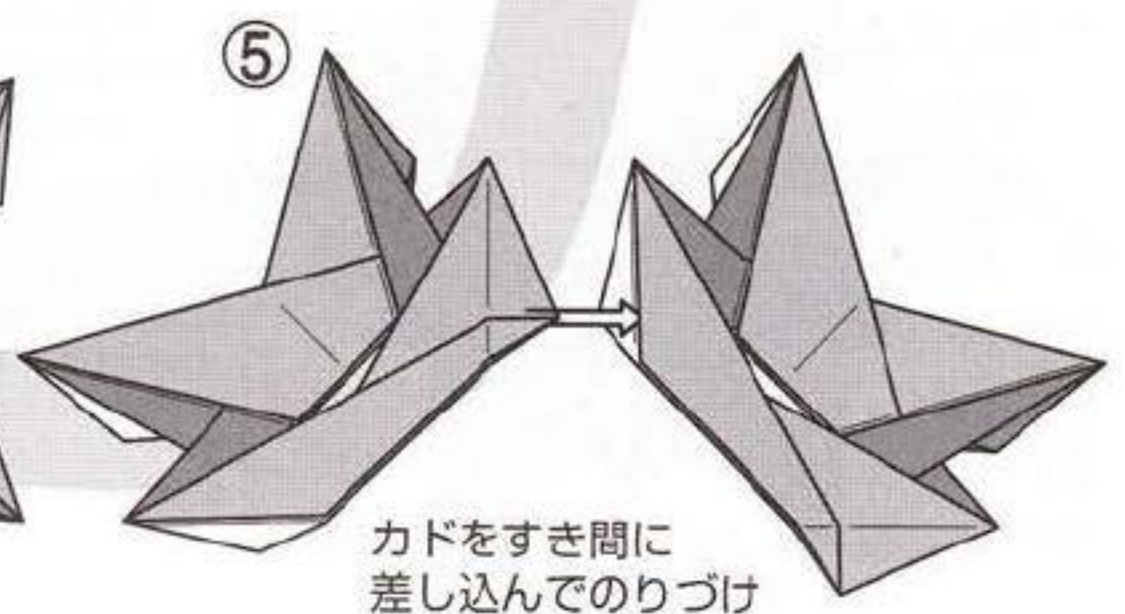
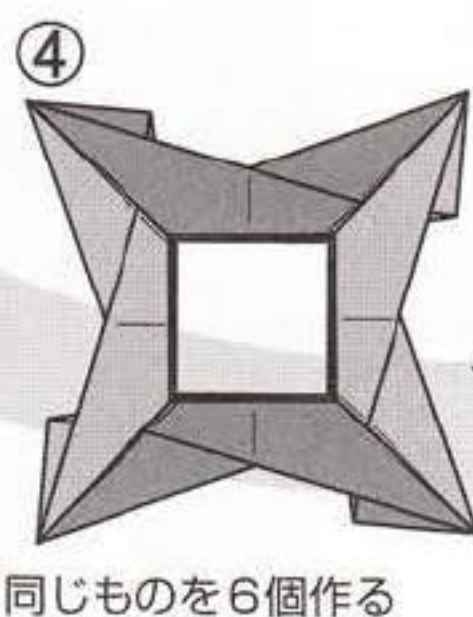
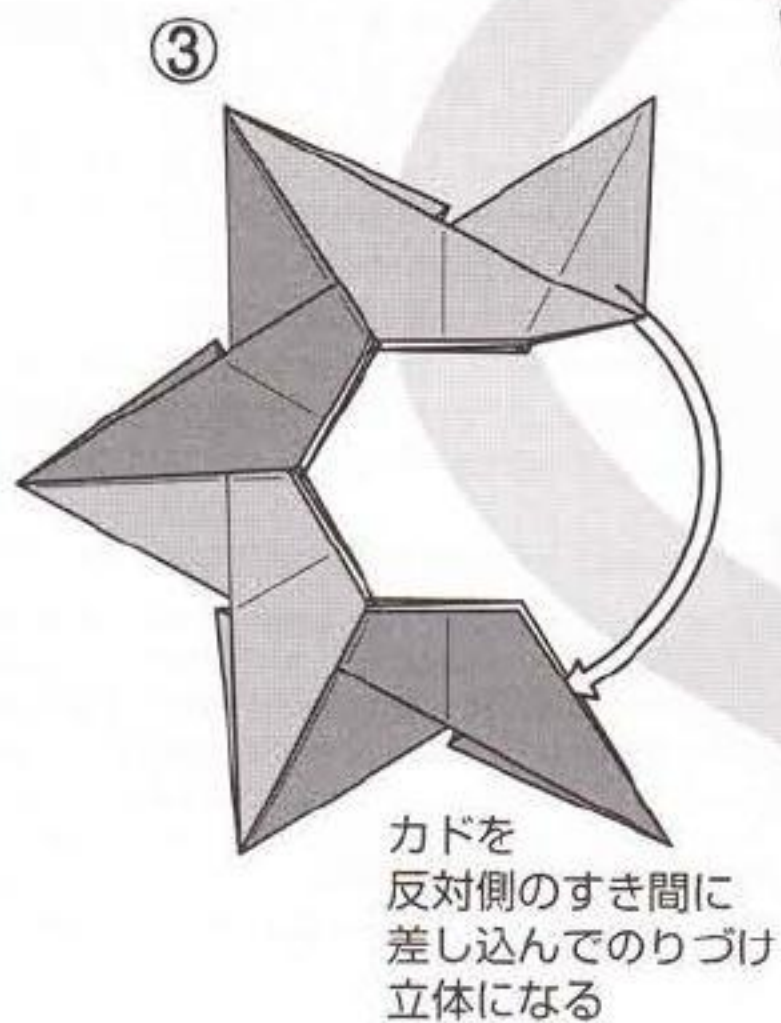
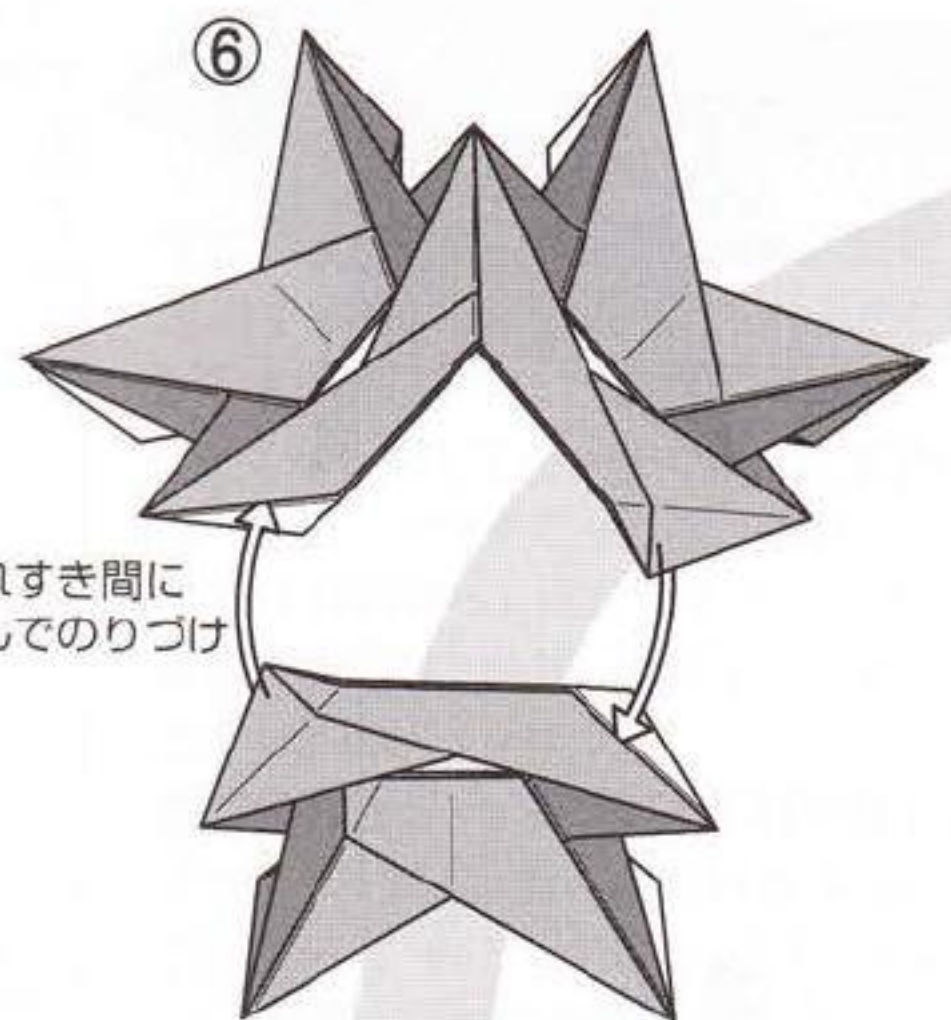
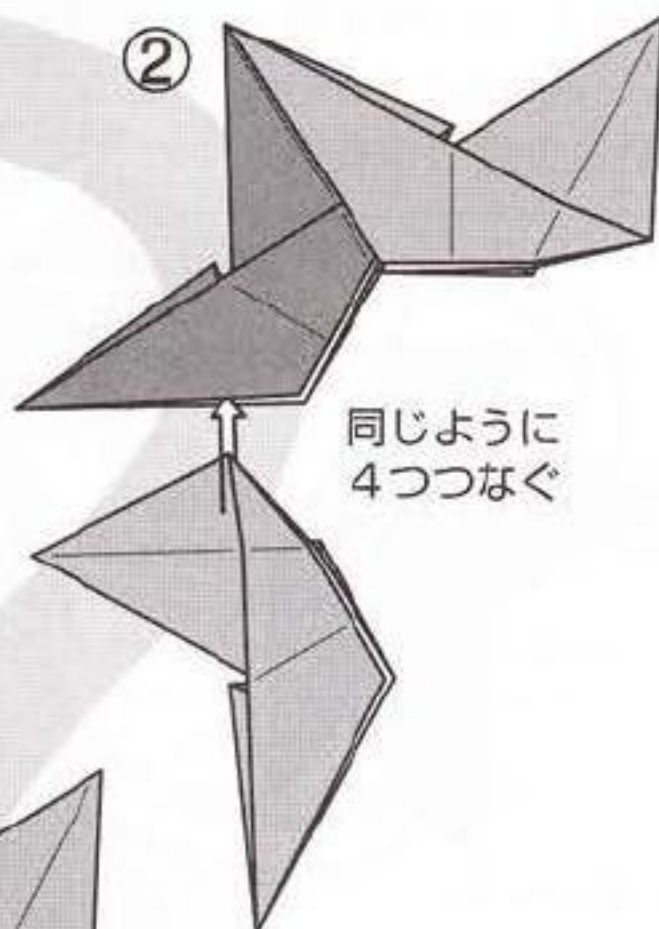
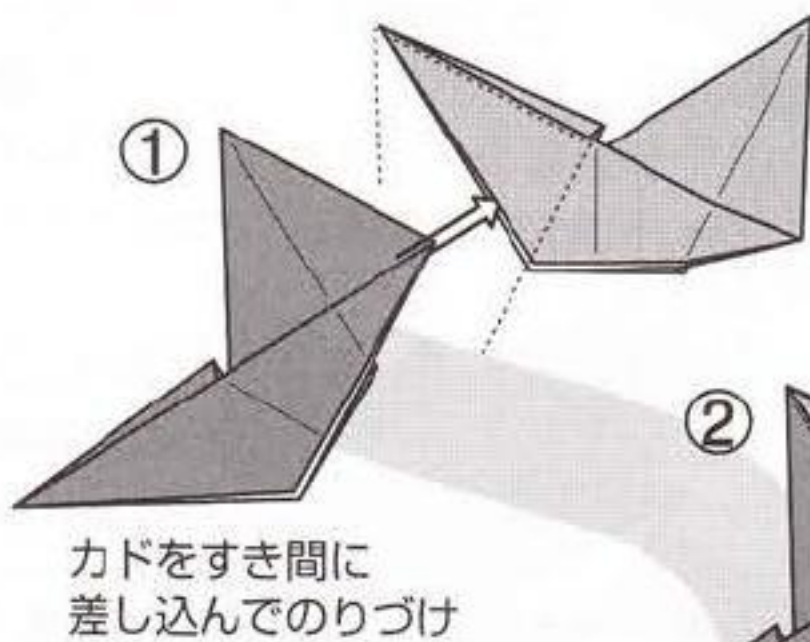
⑥ つけた折り筋が交わっている○のところで折る



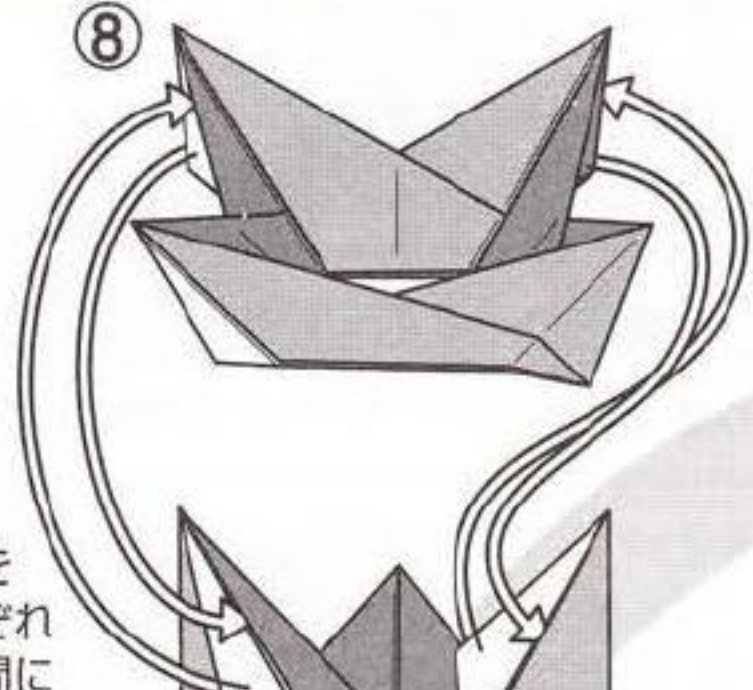
⑦ しっかりと折り筋をつけてから戻す



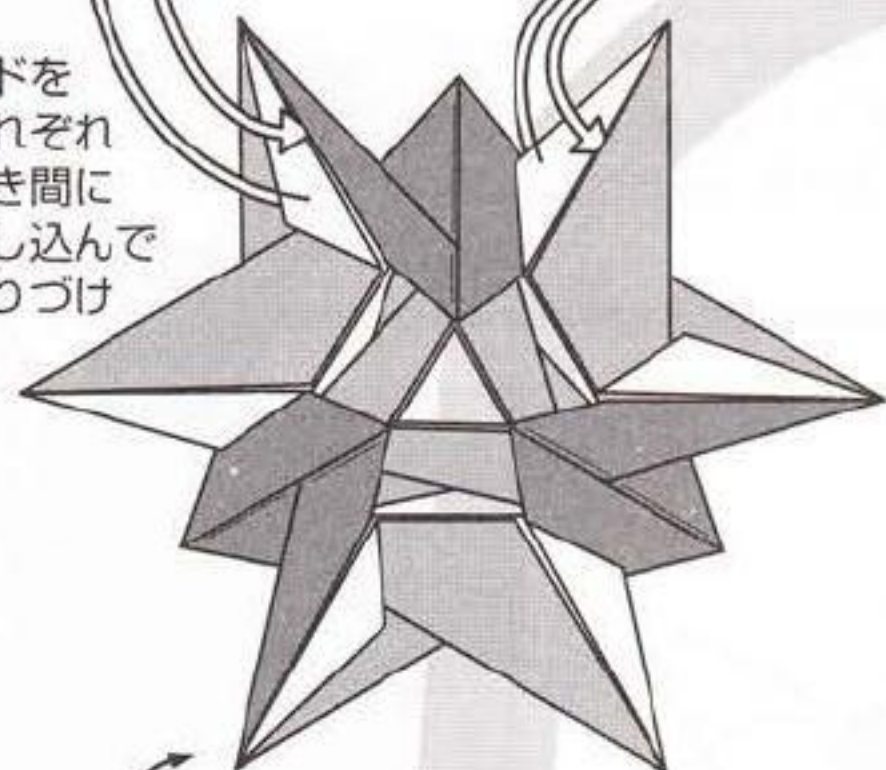
【組み立てかた】



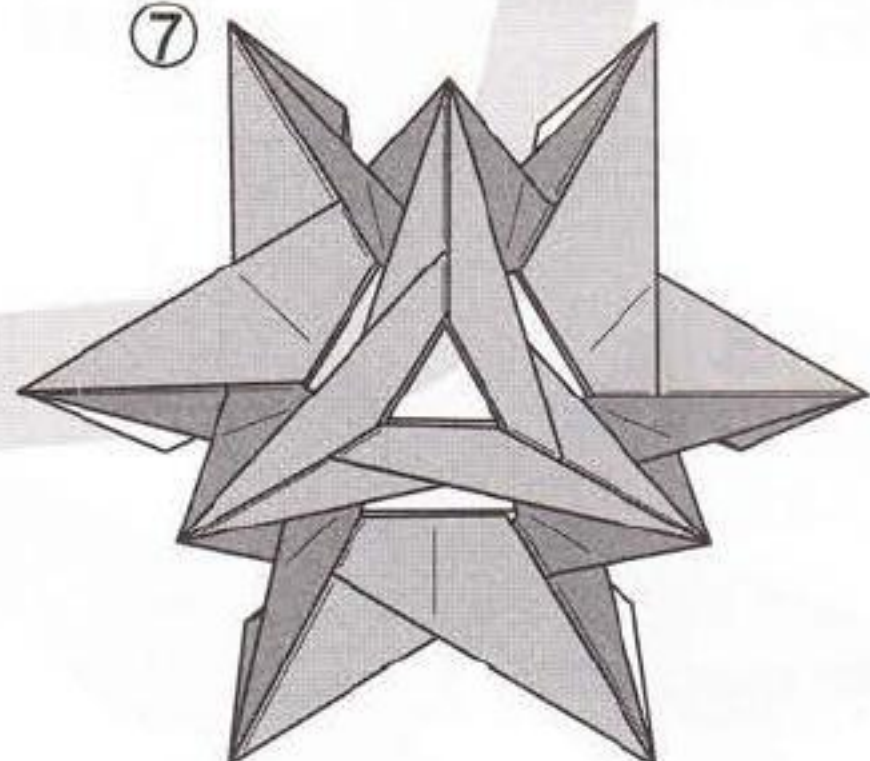
⑧



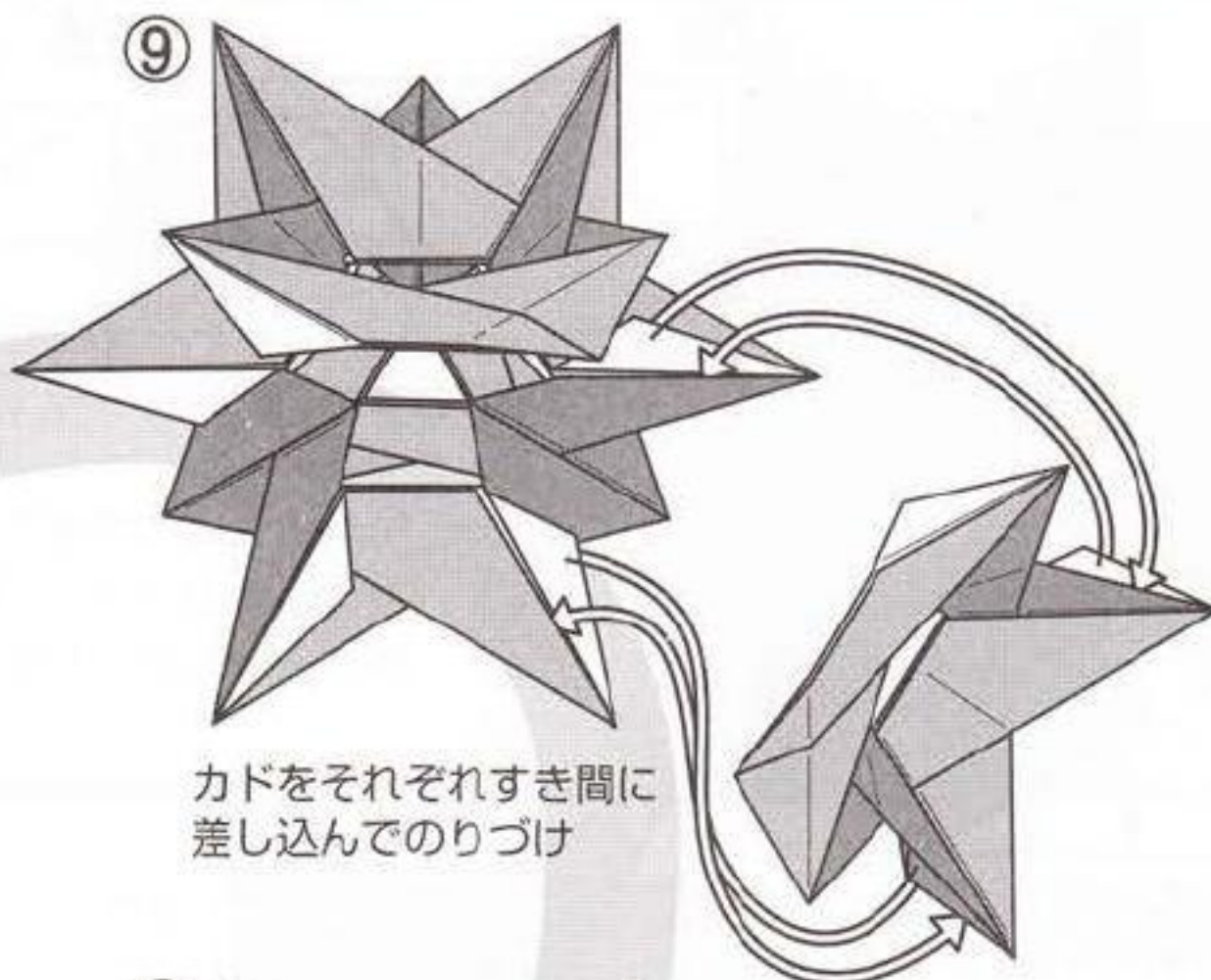
カドを
それぞれ
すき間に
差し込んで
のりづけ



⑦

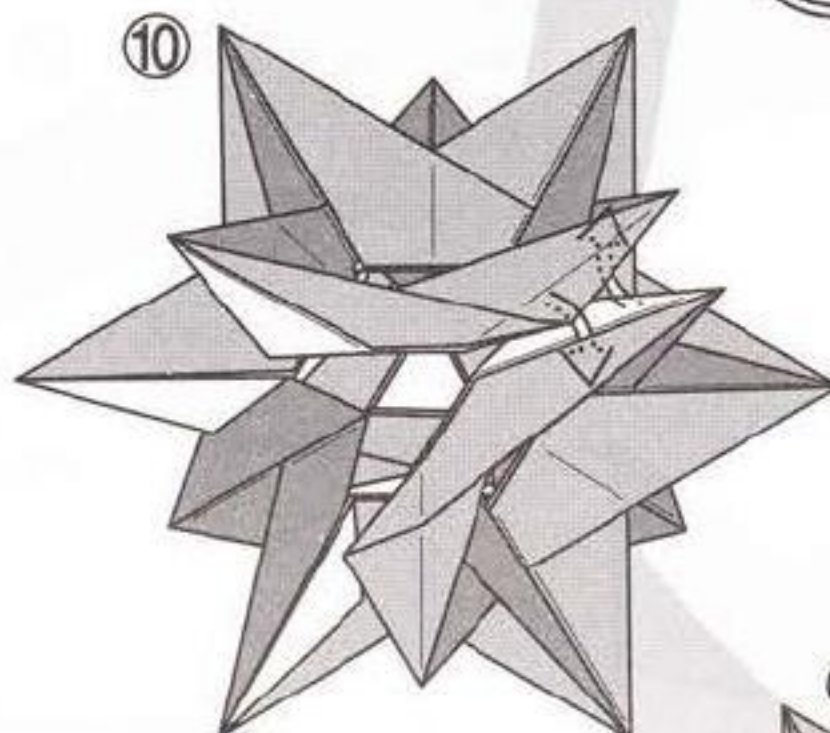


⑨



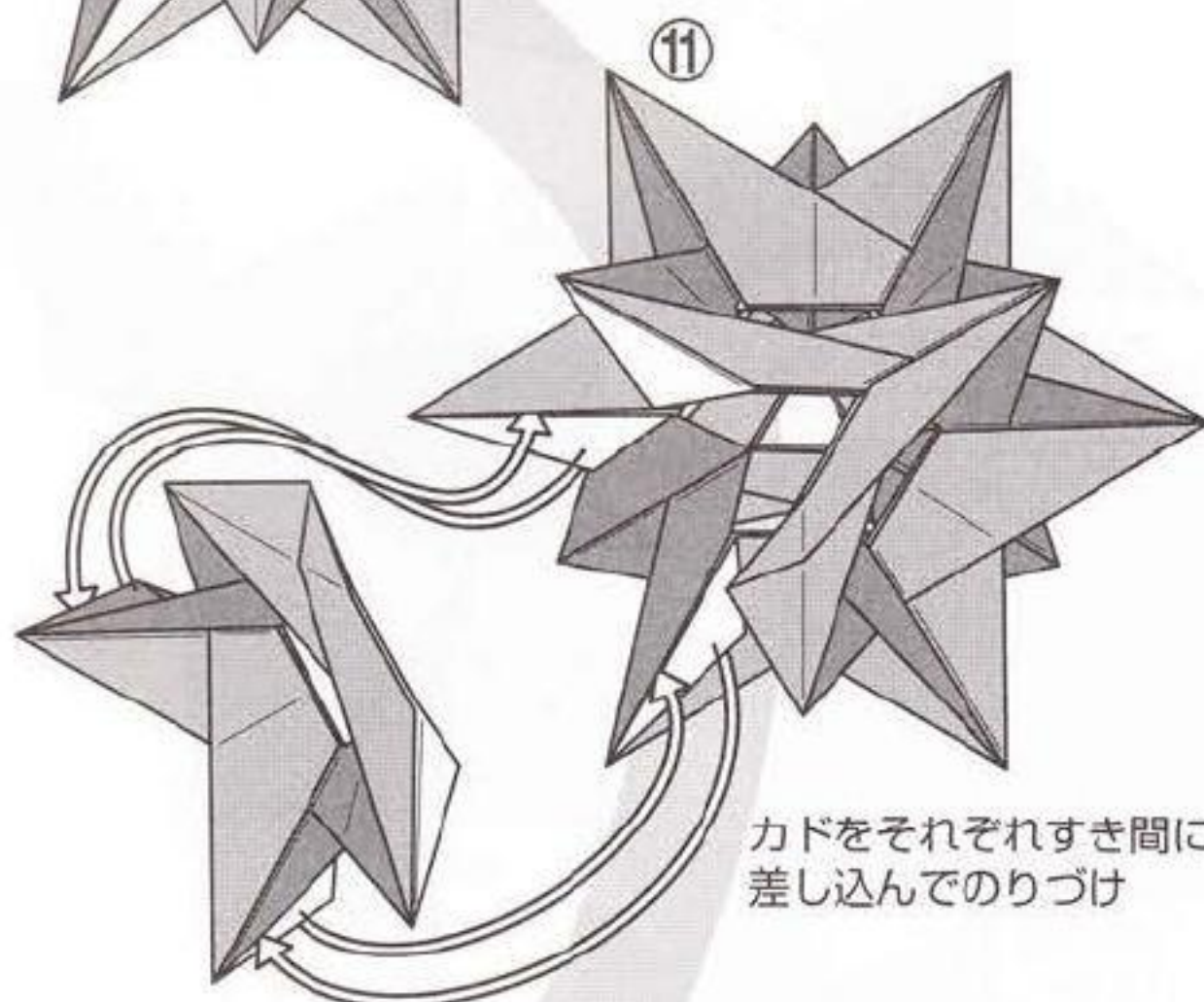
カドをそれぞれすき間に
差し込んでのりづけ

⑩



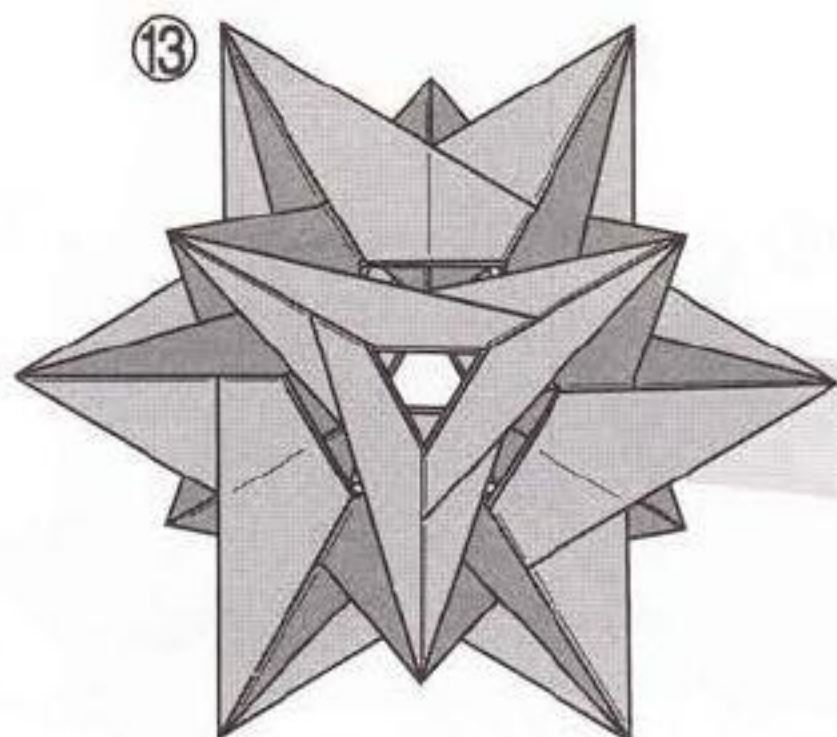
カドを
それぞれ
すき間に
差し込んで
のりづけ

⑪



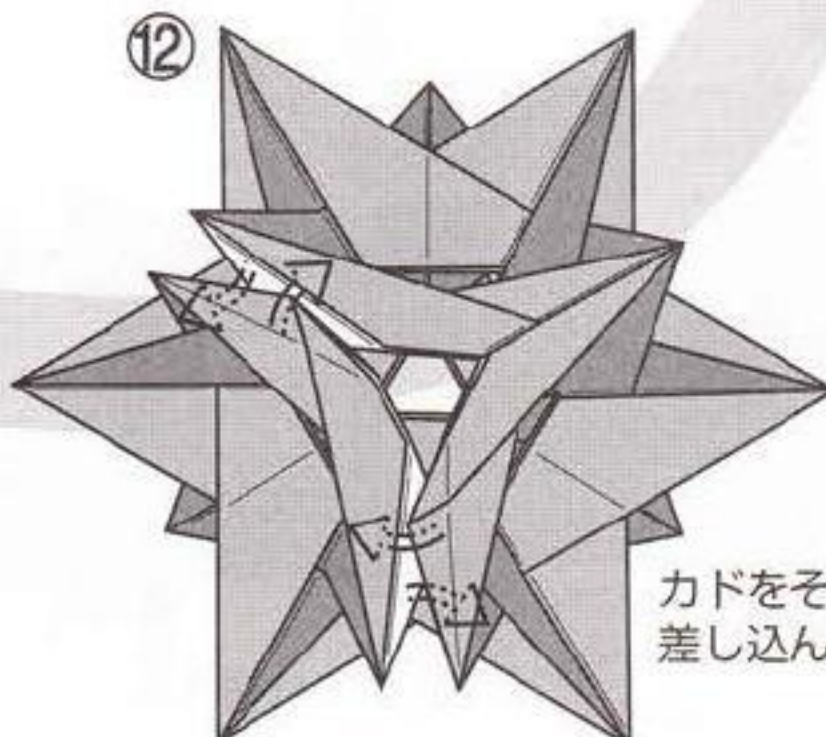
カドをそれぞれすき間に
差し込んでのりづけ

⑬



できあがり

⑫



カドをそれぞれすき間に
差し込んでのりづけ

第5回折り紙の著作権に関する国際会議 報告(後編)

The 5th International Meeting on Origami Copyright Report (Part 2)

西川誠司 (日本折紙学会評議員代表) 英訳: マルシオ・ノグチ

Nishikawa Seiji, Chairman of the Board - Japan Origami Academic Society (JOAS) Translator: Marcio Noguchi

今回で5回目となる「折り紙の著作権に関する国際会議」^[1]。前半では、折り紙データベース(DB)『The Origami Database』の主宰者であるデニス・ウォーカー氏と折り紙インデックス『おりがみ「あいうえお」』の主宰者である岡雅夫氏による講演ののち、日本折紙学会より西川が「どんな情報が折り紙データベースに登録されるべきか」というテーマで講演を行い、議論を進めた。これらを受けて後半では出席者を交えて「折り紙著作権とDB」を中心に様々な話題に意見交換がなされた。

【議論】

出席者の意見、質問や議論は、講演の直後に出されたものや他のテーマに関連づけた文脈でなされたものもある。ここでは、各講演に対して適宜出されたものも含めテーマ毎にまとめてみる。

<データベース(DB)>

■ウォーカーさんのDBには、工程の数は入っているか? 難易度を予想するためにも、重要な指標となる。(前川) — 今は入っていない。良いかもしれない。(ウォーカー)

■DBに求めるものが、創作者と愛好家では異なる。「ある作品が折りたい

が、その折り図は何処にあるか」という愛好家の要求に応えることがDBのもともとの目的である。(岡)

■当面のDB形式の問題として、登録されたデータの信頼性、均一性(ある作品は詳細情報があるが、他の作品では名前だけ)などが課題。(岡)

<著作権と許諾>

■「セキレイ」の件は、全くの無断だったので強く抗議した。抗議する側も弁護士費用などが掛かるのである程度の金額を要求せざるを得ない。(西川)

■経験的には事後ではなく、最初からきちんと問いあわせがあれば、使用許可に関する費用はそれほど高くな

くて済むと考えている。(アグラワル)

■「セキレイ」の例以外でも音楽CDジャケットに無断使用されたケースがあり抗議は聞き入れられた。また、山口さんも米国のホテルのホールディスプレイに折り紙デザインを彫刻として使用され、抗議したことがあると聞いている。これらケースとも侵害事実そのものへの抵抗はなかったと理解している。つまり、造形としてのデザインの著作物性に抵抗されるケースは実はあまりなく、ファインアートとして整理することの意義は大きいと思う。一方、折り方をrepresentational artのように守ろうとすると抵抗が強いようだ。(西川)

■OAC (Origami Authors and Creators)という団体を5年前に作った。書籍(折り図)の不法コピーについて創作者がフラストレーションを持ち続け、そういう場合には自分が著作権者であることを証明する情報を送信することによって止められることがわかったが、ひとつの違法コピーファイルを消しても、すぐにまた多数見つかる。イタチごっこだ。違法ファイル共有のサイトはあらゆるところにあり、世界的であり、全てを止めることはできない。(ブリル)

■対処方法として例えば「正規の電子ブックバージョンも一緒に出版すること」がある。例としては、ニコラス・テリーさんの本でも電子版があるので、私は紙の書籍を注文して届くのを待たずに、2ユーロを上乗せして電子版をダウンロードしたことがある。(アグラワル)

■適正な価格で電子版を出せば、多くの人は買ってくれる。違法コピーをゼロにするのは困難だが、違法ファイルをダウンロードすることに罪の意識をもつ人は存在する。適正な価格ならば正規の電子版を買ってくれて、

・開催日: 8/13 10:00-17:30 Date: 13 August 2012, 10:00-17:30
・場所: JOASホール Location: JOAS Hall
・議題: 「折り紙著作権とデータベース」 Agenda: "Origami Copyright and Database"
・議長: デビッド・ブリル Chairman: David Brill
・議事録: ジェイソン・クー、館 知宏、北條高史
Minutes: Jason Ku, Tachi Tomohiro, Hojyo Takashi
・通訳: マルシオ・ノグチ、羽鳥公士郎 Translator: Marcio Noguchi, Hatori Koshiro

10:00 開会の挨拶/山口 真 Opening remarks: Yamaguchi Makoto
10:10 基調講演/デニス・ウォーカー Keynote lecture: Dennis Walker
11:20 折り紙インデックスの作成について/岡雅夫
About the Construction of the Origami Index: Oka Masao
12:00 昼食休憩 Lunch Break
13:30 どんな情報が折り紙データベースに登録されるべきか — 折り紙の著作権に関連して — /西川誠司
What Kind of Information Might Be Registered into an Origami Database: Nishikawa Seiji
14:10 参加者からの発言と討議 Remarks and discussion by the participants
16:00 まとめ、今後のアイデア、次回の開催など/デビッド・ブリル、アン・ラビン、西川誠司
Summary, ideas for the future, next meeting: David Brill, Anne LaVin, Nishikawa Seiji
17:00 閉会の挨拶/三浦公亮 Closing remarks: Miura Koryo

出席者: 26名 Attendance: 26 people 日本15名(Japan, 15) 岡雅夫(Oka Masao)、霞 誠志(Kasumi Seishi)、川村みゆき(Kawamura Miyuki)、小松英夫(Komatsu Hideo)、佐藤直幹(Sato Naomiki, France)、重松祥司(Shigematsu Shoji)、津田良夫(Tsuda Yoshio)、館知宏(Tachi Tomohiro)、西川誠司(Nishikawa Seiji)、羽鳥公士郎(Hatori Koshiro)、北條高史(Hojyo Takashi)、前川淳(Maekawa Jun)、松浦英子(Matsuura Eiko)、三浦公亮(Miura Koryo)、山口真(Yamaguchi Makoto) 海外11名(Overseas, 11) Himanshu Agrawal (India)、Assia Brill (England)、David Brill (England)、Taekyung Chung (Korea)、Chris Itoh (U.S.A.)、Jason Ku (U.S.A.)、Anne LaVin (U.S.A.)、Marcio Noguchi (U.S.A.)、Kyung Hae Oh (Korea)、Hoang Tien Quyet (Vietnam)、Dennis Walker (Scotland)

図1 会議次第 / Figure 1: Conference Program

違法ダウンロードが減ると考えている。
(ウォーカー)

■絶版になってしまったら本は手に入らない。絶版本が適切に管理されて、スキャン画像ファイルを適正な値段でダウンロード購入できる仕組みがでないか。(岡)

■著作者から見ると難しい問題がある。本自体に対しては、歴史的なものだと著作者は思っていて、古い本が再版されることを望まない、ということもある。(前川)

<折り紙著作権の浸透>

■侵害者の多くが、著作権のことを知らないということから生じた問題である。怒るよりも、おもんばかりで同情的なメッセージを伝えるのが良いのではないか。(ブリル)

■自作の「雪の結晶」の折り方のビデオレクチャーを許可して載せたが、それをコピーされ、他の場所にアップロードされたことがある。そこで問いあわせてみたら著作権のことを知らないという回答だった。先方が謝ってきて、こちらで希望する対応を提示した。このときには謝罪を受け入れた。「創作者名と元の出所」を明記してもらうことで解決とした。(ウォーカー)

■アメリカの或る学会の会議ポスターで自作品の展開図を宣伝に使われたことがある。この件は友達から教えられたのだが、友達は事情を知らなくて、「作品がポスターに使われたね、おめでとう」と言われてしまった。この件を学会に問いあわせたところ、先方が謝ってきた。「悪いことだとは知らなかった」とのこと、使用を許可する条件として、名前を出すこと、印刷されたものを将来も含めて無償で提供することなど幾つかを受け入れさせた。(クー)

■折り紙作家が「著作権は大切」と言うと、そのことをきちんと理解している人ほど萎縮し、無知な人ほど奔放に使ってしまう傾向もある。(小松)

■そういう意味でもポジティブリストの作成は重要と考えている。(西川)

<折り紙のパブリックドメイン (PD) について>

■折り紙の世界では、PDという考え

方があるのだろうか?(佐藤)

■ケースバイケースで見なければならぬ。国によって対応が異なる場合がある。(ラビン)

■日本の国会図書館がPDになった本の電子化を進めている。折り紙の本もいくつか含まれている。(小松)

■この点はガイドラインでも意識する必要がある。一般的な「著作権は死後50年まで」という形はわかりやすいが、折り紙でPDとは何なのか。音楽で言われているような「何小節以内」のように「基本形のどのあたりまで」とかPDをどう考えるか研究されるべきだろう。(西川)

■創作とアレンジの境界なども課題だろう(岡)

■「インターネットでファイルをタダでダウンロードできるようになっているから、これはPDになっている、と考えて良いわけではない」ということが、OACで説明されていると良いと思う。(ウォーカー)

【今後の計画】

■今年の著作権会議でDBのことを扱うのが良いと考えた。来年への足がかりとしたい。(山口)

■過去の会議と同様に、大きなコンベンションで多くの創作者が集まっているときにおこなうのが良いだろう。次回をどこで実施するかについては、あらためて報告する。(ブリル)

【閉会の言葉 三浦公亮】

3年前に最初の著作権会議が開催された。その後検討を続けて今回に至り、DBをいかに構築するかということが重要なポイントだとわかってきた。おかげさまで、DBをそれぞれの立場で構築してくれた人がいらして、折紙学会・デニスさん・岡さんのような方々の貢献によってポジティブな方向に向かっていると思う。DBの研究・構築により、コピーライトを越えてパブリシティを増やすことに繋がると思う。皆さんの努力に感謝したい。

<註>

[1] これまでの「折り紙の著作権に関する国際会議」：■2008年10月 第1回 JOASホール(記事『折紙探偵団』112号, 2008) ■2009年6月 第2回 NYコンベンション(記事『折紙探偵団』117号, 2009) ■2010年8月 第3回 東洋大学(JOAS講演会と共同開催)

(記事『折紙探偵団』123号, 2010) ■2011年8月 第4回 JOASホール(記事『折紙探偵団』129号, 2011)

[2] パブリックドメイン：共有財産の意で、創作物等に知的財産権が発生していないか、消滅している状態のこと。なお、実際に音楽で「何小節、何秒まではOK」というような決まりがあるわけではない。

This was the 5th International Origami Copyright Meeting.^[1] Dennis Walker, creator of the Origami Database (DB), Oka Masao, creator of Origami ABC Index, and Nishikawa Seiji from Japan Origami Academic Society (JOAS) presented lectures on the theme "what kind of information should be registered on an Origami DB" during the first part of the meeting, leading to discussions on the topic. Then, based on that, the second part focused on the theme "Origami Copyright and DB" and with some new participants also promoted good exchange of ideas and problems.

Debate

The opinions of the participants, questions, discussions, and comments provided after the lectures aligned well with the theme. Below are a selection of comments on each theme.

Database (DB)

Maekawa Jun: Is there any intention to include number of steps in the Database? It would be a useful indicator of a model's complexity level.

Dennis Walker: We are not currently considering that. But it is a good idea.

Oka Masao: Origami enthusiasts might be interested in finding different information in a DB. They might want to fold a particular model, in which case they would want to find out details of where they can find the diagrams.

Oka Masao: Another important aspect of DB structure is data quality and consistency (for example the potential issue of having some entries with very complete and detailed information, but others with just the model name provided).

Copyright and Permissions

Nishikawa Seiji: One infringement case involved a Wagtail I designed being used on the cover of a CD jacket. In this case, we strongly protested because it was an example of complete unauthorized use of the model. We had no choice but to claim damages and attorney fees.

Himanshu Agrawal: Clearly these results demonstrate that the costs might

have been significantly less if it had been negotiated in the beginning based on a proper request of permission and licensing.

Nishikawa Seiji: In addition to the Wagtail case, there was another case of a CD jacket using unauthorized materials. Also, there was a case of a sculpture based on Yamaguchi Makoto's Origami designs being displayed at a hotel in the United States. In all these cases, our understanding is that there was no resistance to the fact of copyright infringement. In other words, there was no argument against recognizing the copyright of representational art as design. As a matter of fact, there is great significance that the copyright was not contested. On the other hand, it looks like there is more resistance when trying to protect the "representational art" based on the folding sequence.

David Brill: The OAC (Origami Authors and Creators) was created 5 years ago. Creators continue to feel frustrations about illegal copies of books (diagrams). We found out that it is possible to remove such copies with protests and identification of the copyright holder. However, soon after removing one copy, we discover several other instances. It is an endless process. Several file sharing sites exist around the world, making it difficult if not impossible to stop them all.

Himanshu Agrawal: One possible solution would be to publish a legitimate e-book together with the printed version. For example, Nicolas Terry also offers an electronic version for his publications, so I was happy to pay an additional 2 Euros in order to be able to immediately download the electronic copy while waiting for the printed version to be shipped.

Dennis Walker: If a legal electronic copy is reasonably priced, many people will be encouraged to buy it. Although difficult to obtain zero piracy, many people have a sense of guilt when downloading illegal copies. I personally would think that many people would buy a legal copy if available at a fair price, hence reducing the problem of illegal file download.

Oka Masao: It is not possible to obtain books that are out-of-print. Wouldn't it be possible to have a mechanism allowing the purchase at fair price of scanned image files of properly managed out-of-print books?

Maekawa Jun: From an author's point

of view, it might be a difficult question to answer. The author might consider the printed book itself to have historical value, in which case they may not want to see them reprinted.

The Impact of Origami Copyright

David Brill: Many cases of piracy are a result of ignorance of copyright. So, rather than getting angry, it may be worth conveying a word of sympathy and consideration for better results.

Dennis Walker: In my case, a video with instructions how to fold my Snowflake was posted with proper authorization. However, a copy of it was uploaded in a different location, without proper permission. When inquiring the infringer, the answer was that he was not aware about copyrights. He apologized and asked for conditions required in order to rectify the mistake. At that point I accepted the apology, and agreed to resolve the situation by including in the copy of the video the proper credits of the creator and location.

Jason Ku: A CP of my model was used in a poster for a conference hosted by an academic society. A friend who did not know about the situation told me about it and congratulated me for having my model used in the poster. When contacting the society about the matter, an immediate apology was given. They said that they were not aware that they had done something wrong. They offered to fix the situation by crediting me and giving me copies of the printed materials as a form of compensation.

Komatsu Hideo: When an Origami creator says that copyright is important, it seems like there is a tendency for those who understand the situation well to atrophy and those who are ignorant to use in an extravagant way.

Nishikawa Seiji: In that sense, I think it would also be important to create a "Positive List" of uses that do not violate copyright.

About Origami Public Domain (PD)^[2]

Sato Naomiki: In the Origami world, is there a concept of public domain?

Anne LaVin: It is necessary to look case by case. There are also differences depending on the country in question.

Komatsu Hideo: The Japanese Library of Congress is progressing in creating electronic copies of books in the public domain. Some Origami

books were included in that process.

Nishikawa Seiji: That is an important point when talking about copyright guidelines. In general [in Japan] the criterion is simple: 50 years after the death of the creator. But what are the conditions for an Origami model to be considered public domain? In music, it is generally accepted that the melodic notes are protected, but a similar definition will be needed for an origami base, for example.

Oka Masao: The boundaries of variation and creation would also be a challenge.

Dennis Walker: It would be interesting for OAC to clarify the mindset that being available for download on the Internet does not mean that the model is available for public domain.

Future Plans

Yamaguchi Makoto: It was good to hear during this conference the potentials of a DB. I hope such information will serve as a stepping-stone for further discussions next year.

David Brill: Similar to how it has been done in the past, I think it would be a good idea to organize the next conference around a large convention, when many authors and creators are already gathered. We will report later on the location of the next conference.

Closing Remarks - Miura Koryo

The first Copyright meeting took place 3 years ago. We should continue with our research on the topic as well as acknowledge the importance of a DB. I feel grateful that there are people who have already built such DBs. JOAS, Dennis Walker, and Oka Masao, have all provided key contributions for our future direction. And the research and construction of a DB might go beyond copyright and may connect to increased publicity. I am thankful for the efforts of all.

Notes:

[1] Past International Origami Copyright Conferences: 1st October 2008 JOAS Hall, Tokyo. (Issue 112, Origami Tanteidan Magazine, 2008) | 2nd June 2009 OrigamiUSA Convention, NYC. (Issue 117, Origami Tanteidan Magazine, 2009) | 3rd August 2010 Held jointly with JOAS lecture, Toyo University, Tokyo. (Issue 123, Origami Tanteidan Magazine, 2010) | 4th August 2011 JOAS Hall, Tokyo. (Issue 129, Origami Tanteidan Magazine, 2011)

[2] Public Domain: Common property, a creation where intellectual property rights was not defined or ceased. Also, even in music there are no defined rules such as: it is OK to use up to a certain number of notes.

蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

第1話 正五角形への歩み Steps towards a Regular Pentagon

笠原邦彦
Kasahara Kunihiko

おりがみは、少なく見積もっても300年の伝承の年月を、蕩々と流れ来たった大河のように思えます(多分その倍以上の歴史があらうかと、証拠こそ無いも密かに勝手な確信を覚えています?!).

その今に至る50年余の年月を、小舟を漕ぎ出し兩岸の景色を夢中になって楽しんできた者です。そんな中で忘れられぬ記憶にある風景を、思い出すままにスケッチしてみようと思います。

その多くの風景は、おりがみの中に確然として存在する「幾何学」の魅力に関わるものです。

もう10年近く前のことになるでしょうか、「切り紙」がちょっとしたブームになりました。

それは伝承の「紋切り」からのスタートで、そこから北欧に伝わるという「連続模様」の切り紙などに及び、その後新しいスタイルの切り紙などへと今に至っているようです。

そのスタートとなった「紋切り」と

は、様々な「家紋」を紙を折り畳んでから切る行為のことで、花型紋には「桜」「梅」「桔梗」…と5弁のものが多く、その切り出しのためには「正五角形」へ繋がる〈折り方〉が必要で、その折り方が日本では古くから考えられていたようです。

さて、近代幾何おりがみの記念碑ともなる書、伏見康治先生と満枝夫人との共著になる『折り紙の幾何学』(日本評論社 1979年刊)の中で、伏見先生は「吉澤章氏の『美しい折り

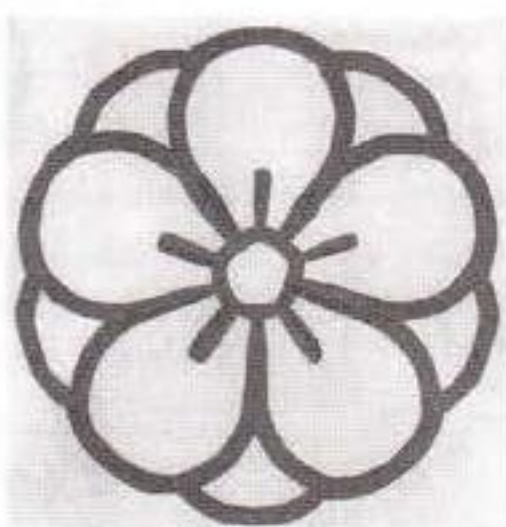
紙』という本に紹介されている正五角形の折り方は、…染物屋の紋帳の作図法と同じだと思う」という解説があり、その後、その折り方による〈誤差計算〉をなさんと、それは〈+2%〉の誤差で、少々大き過ぎる、…等々の解説の後で、お話は「黄金比」へと移っていき、それに基づけば正確な正五角形の作図となる。その先例として、T. Sundara Rowというインドの数学の先生の1905年刊の『Geometric Exercises in Paper Folding』があり、それが1966年にアメリカのDover社で復刊されている、の情報をご紹介の後、このロウ先生の折りにくい折り方をすっきりと整理されての折り方を示しておられます。それがA図〈原理〉のものです。

見事な改良だと感嘆します。がしかし、実際に試みてごらんになれば、この理論的に誤差のない正五角形の作図法は、見事に整理されているとはいえ、実際にはなんとも折りにくい!(aの長さを左右の辺に移す“コンパス折り”が、素手だけだとまず大変折りにくいのです!)

たとえ近似解であっても実際に〈折



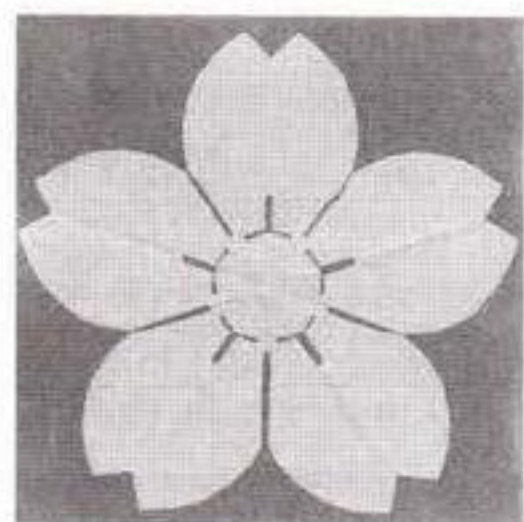
いかり
錨 桜紋



かげやえ
蔭八重梅紋



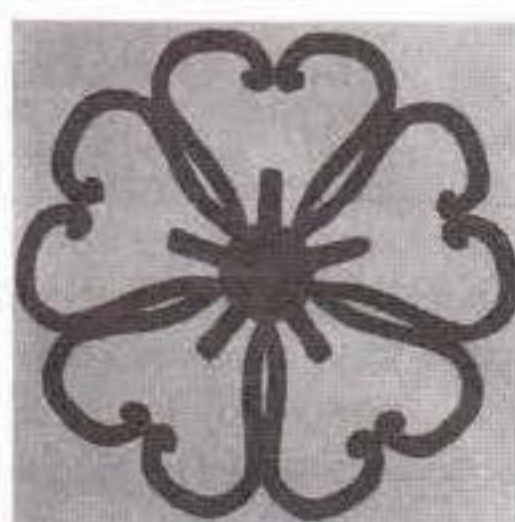
かげやえ
中蔭八重桔梗紋



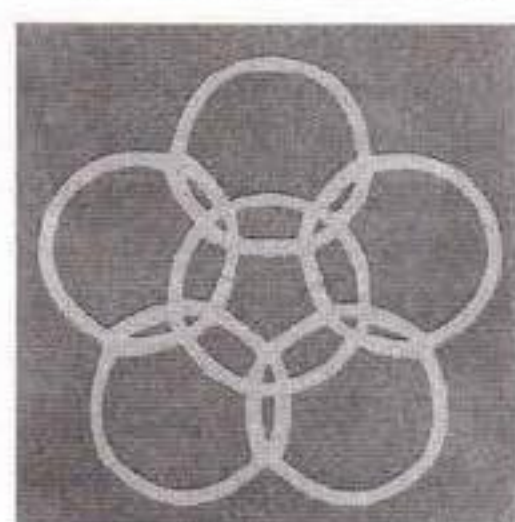
山桜紋



ちょうじ
丸に五つ丁字紋



わらび
蕨 桜紋



かましきうめばち
釜敷梅鉢紋

紋切り 正五角形に関わる例

○笠原邦彦(かさはら・くにひこ)=
おりがみ解説書中心の著述が私の
職業です。編著書数は現在
170。手づくりおもちゃの本なども
書いています。



り易い」ものが私は好きなのですが、
…でも、数学の先生の中には、近似
解で〈正〉と付くものを教えてはいけな
い、と少々硬直したお考えの人もある
ようなのです！

ところでここできわめて個人的な
思い出話になりますが、…おりがみで
「正5角形」などといった〈幾何図形〉
を求めるなど、叙情性のおりがみを
愛する者には、「そんな無機的な造形
などつまらない」と思っていた、私の
蒙を啓いてくださった方と巡り会いま
した。阿部恒さんです。

そしてその後、当時、学術会議の
会長であられた伏見先生、…雲の上
のさらに彼方の先生に引き合わせてく
ださったのも阿部さんでした。そして
阿部さんは私に、伏見先生のお考え
やその他諸々の幾何学の知識をやさ
しく教えてくださいました。

私のおりがみ人生には、3人の得
がたき師匠がおられます。内山興正
師、千野利雄先生、そして阿部恒氏

です。内山師は「おりがみの真の喜び
は何か？」を、千野先生は「おりがみ
の美の本質は何か？」を教えてください
ました。そして阿部さんは「おりが
みの可能性の高さ」を。

お二人の師は既に亡く、阿部さん
と今は疎遠になっております。理由
は単純に機会が無くなったからで、ま
た私自身既に古希を過ぎ、出掛ける
ことがまったく億劫となったのも理由
です。

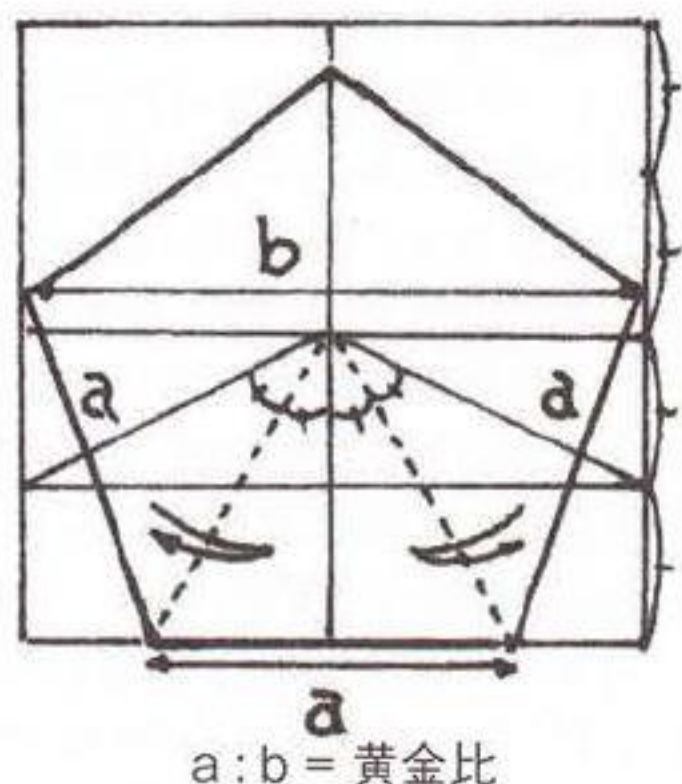
おっと話を元に戻して「正5角形の
おりがみによる作図」それはもはや基
本のことで今では誰もが知る常識な
んて思っている人、その通りなら「万
歳！」でしょうが、それ大きな誤解です。

1977年のこと、ニューヨー
ク・オリガミ・センター（現在のオリ
ガミUSA）の創設者であられる

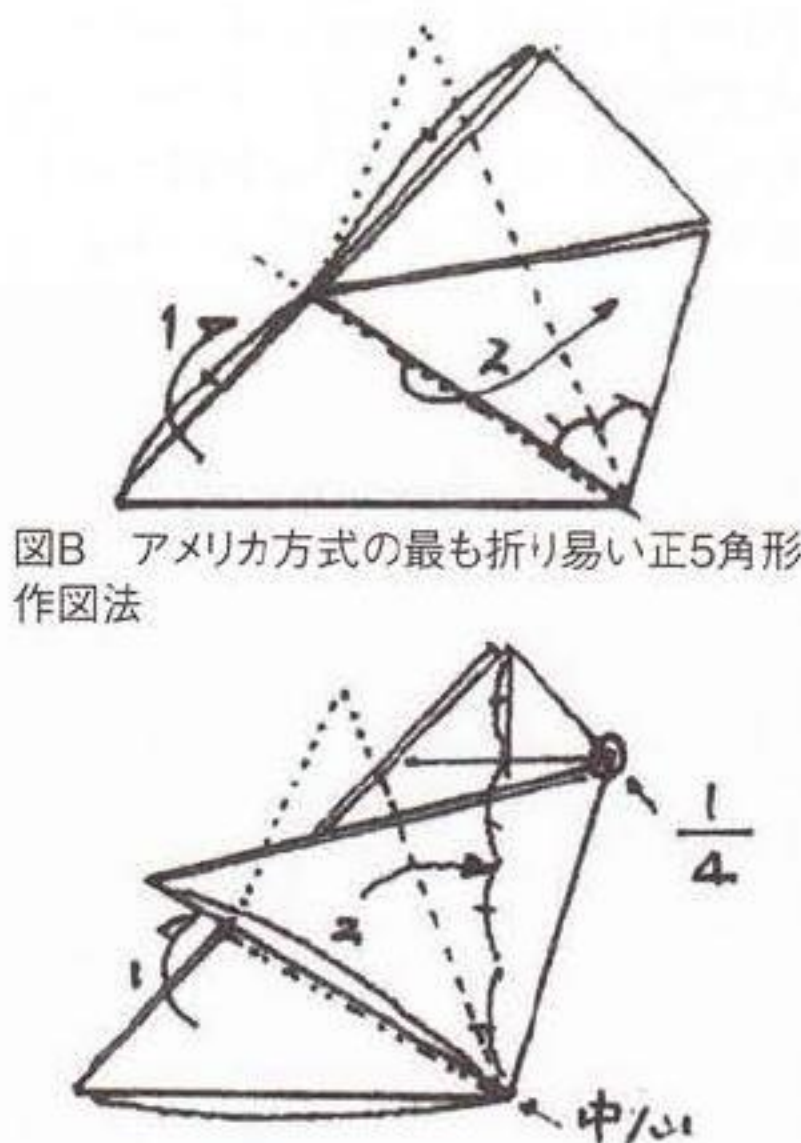
Lillian Oppenheimer夫人の監修の
下、オリガミセンターの季刊紙『The
Origamian』の編集長Alice Grayさん
との共著で『the magic of origami』と
いう本を、日貿出版社から出版する
という嬉しい話をいただいた折、アメ
リカにおける正5角形の折り方をアリ
スさんが教えてくださいました（B図）。
これは日本の染物屋さん方式（C図）よ
り、取り出す正5角形が小さくなるも
のですが、実に折り易く、常に精度
も高い！

で、伏見先生や阿部さんにお話し
したところ、…阿部さんはすぐにその
アメリカ方式の精度は、折りの〈手順〉
に由ると指摘され、日本方式もその
〈手順〉等を変えれば誤差は減じられ
るだろうとのご教示。教えに従い考え
てみたのがD図のものです。これで誤
差は4分の1に減じた！

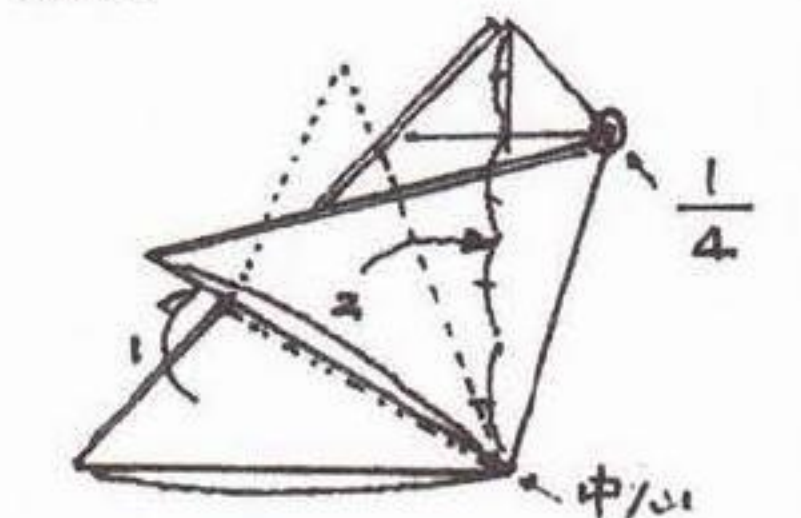
この方法で不正確さを感じたことは
ありませんが、あくまで〈近似解〉で
あること、従って、折り易く精度も保証
された〈正5角形の折り出し〉は、未だ
完了されていないことはお忘れなく。



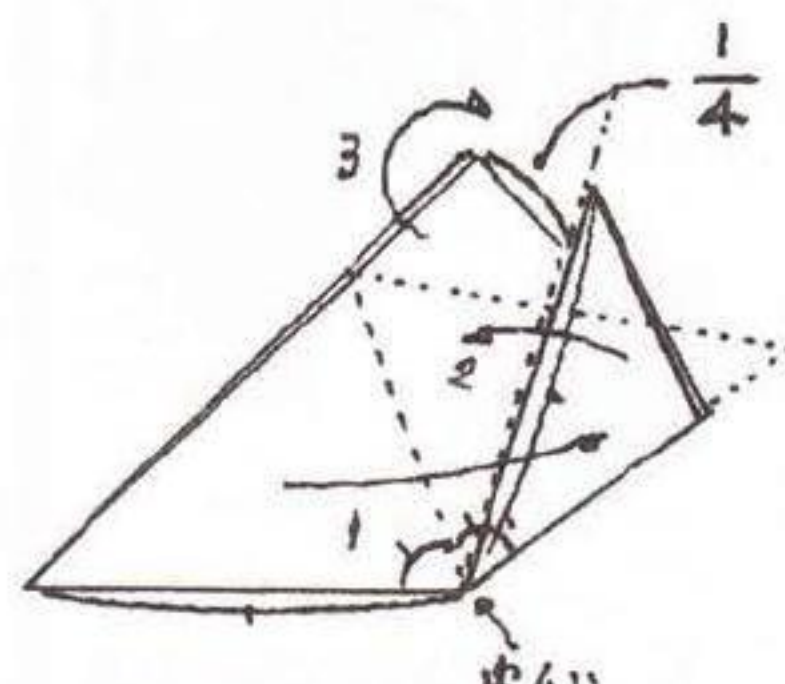
図A 伏見先生の黄金比による正5角形作図法



図B アメリカ方式の最も折り易い正5角形作図法



図C 染物屋方式の日本伝承の正5角形作図法



図D その改良方式。誤差を4分の1に減じた正5角形作図法

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

34冊目『Secrets of Origami』ロバート・ハービン著

"Secrets of Origami" by Robert Harbin

本書は当初、1964年に『Secrets of Origami Old and New』として Oldbourne Book から出版されました。本図書館には、『Secrets of Origami: The Japanese art of paper folding』として1971年に Octopus Books から出版された第二版が収められています。その後、1997年に、英国折紙協会 (BOS) の監修の下に第三版が Dover Publications から出ており、こちらは今でも販売されています。

著者のロバート・ハービンは、1909年に南アフリカで生まれ、1978年に英国で没しています。マジシャンとしてもよく知られており、実際、ロバート・ハービンというのは芸名です。1953年頃から折紙に興味を持つようになり、ガーション・レグマンらを通じて、米国、スペイン、南米、そして日本の折紙作家と交流を持つようになります。

そのため本書には、伝承作品のほかに、各国の折紙作家による同時代の作品が多く収められています。米国のサミュエル・ランドレットも、1963年に『The Best of Origami』で

同時代の作品を取り上げていますが、ハービンは本書の執筆中にランドレットと連絡を取り合い、ランドレットの本と作品の重複がないように調整したと前書きに書かれています。

本書も、一般的な折り紙の本と同様、折り図記号の説明から始まります。この折り図記号は、谷折りを破線で表し、山折りを二点鎖線で表すなど、現在欧米で使われているものと同じです。ところがハービンは、1956年に出版した自身の最初の折り紙の本である『Paper Magic』では、山折りと谷折りを区別していません。

現在使われている折り図記号は、英語圏では「吉澤ーランドレット方式」と呼ばれており、吉澤章が使っていたものをランドレットが1961年の『The Art of Origami』で採用したために国際的な標準となったといわれています。ハービンは、本書ではランドレットに倣って「吉澤ーランドレット方式」を使用しています。ただし、図を立体的に描いたり、指を描き込んだりするスタイルは、『Paper Magic』から受け継がれています。

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

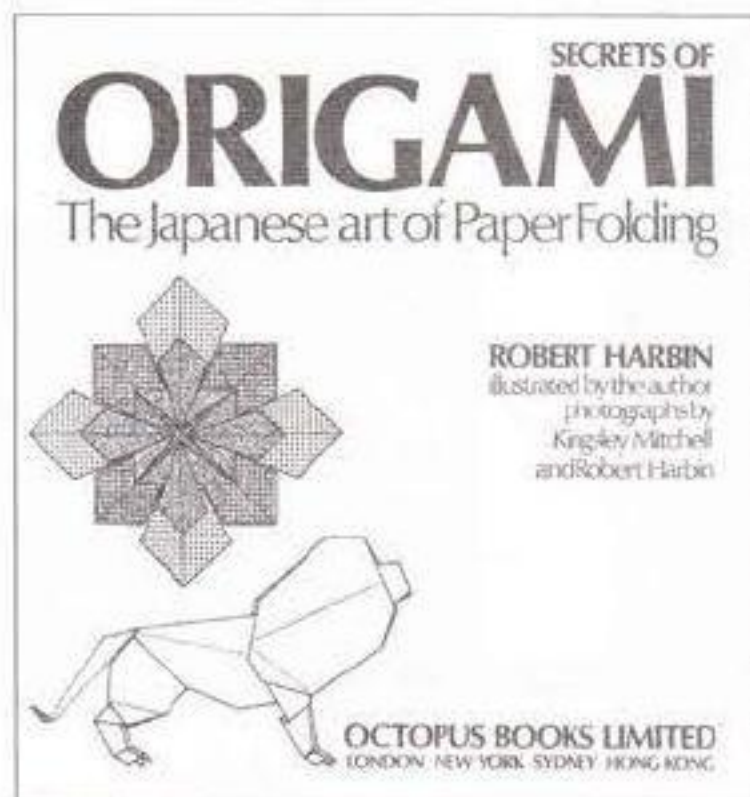
本書は大きく2つの部分に分かれています。前半は、「Origami: New and old designs」と題され、日本やスペインの伝承作品とともに、スペインのミゲル・デ・ウナムノとビセンテ・ソロールサノ、米国のサミュエル・ランドレット、E・D・サリバン、ハリー・ワイズ、デンマークのトキ・エン、日本の吉澤章の作品が、簡単な人物紹介とともに収録されています。また、米国のリリアン・オッペンハイマーも紹介されています。

「Uchiyama」の作品も3つありますが、名字のみで名前が書かれていないのが奇妙です。作品のうち1つは内山興正の「本箱」ですが、2つは、切り込みを通して頭を出すタイプの人物作品です。内山興正が日本の伝承作品のアレンジとして紹介したのかもしれませんが、ハービンは内山興正と内山光弘を混同していたのかもしれませんが。

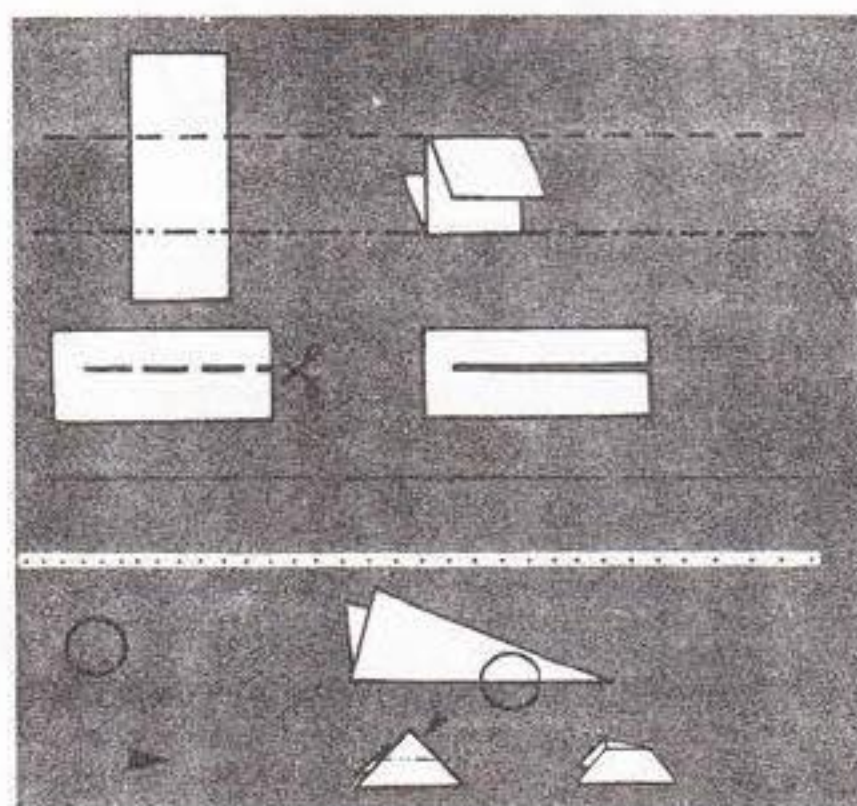
最初に掲載されている作品は、2重の座布団折りから様々な形を作るもので、ハービンは「マルチフォーム」と呼んでいます。ハービンはこの作

品の起源を日本としていますが、途中にパハリータがあることから、実際の起源がヨーロッパであることは明らかです。ハービンは、折り紙の起源は日本であると単純に考えていたため、ほかにも、現在ではヨーロッパ起源であることが確かな作品のいくつかが日本の伝承として紹介されています。

日本の作品の末尾を飾るものとして『かや草』のトンボが紹介されており、この作品の西洋での人気の高さがうかがえます。ここに掲



『Secret of Origami』第2版の扉ページ



折り図記号の説明(一部)

○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう)
=1972年東京生まれ。翻訳家・折
紙研究家。折り紙関係の翻訳もす
るが、本職はIT(情報技術)関係。



載されている折り方は、ガーション・レグマンが持っていた『かや草』の写しをもとに、アルゼンチンのリジア・モントーヤが復元したものです。

本書の後半では、ハービン自身を含む10人の作家が取り上げられ、それぞれの作品が数点ずつ掲載されています。紹介されている作家は、フローレンス・テムコ、ハービン、モントーヤ、ジョン・ノードクイスト、ジャック・スキルマン、アドルフォ・セルセダ、ニール・イライアス、フレッド・ローム、ロバート・ニール、ジョージ・ロードで、ハービンが英国、モントーヤとセルセダがアルゼンチンの作家であるほかは、すべて米国の作家です。

中でももっとも多くページが割かれているのが、モントーヤです。ハービンはモントーヤを「今日もっとも先進的な女性折り紙作家」と紹介しています。モントーヤの創作は「鳥や花の単純な造形から、すばらしく難しい昆虫にわたる」と書かれていますが、本書に掲載されている作品は、比較的単純な作品が中心です。

単純とはいいながら、対象の形を的確にとらえた表現は、当時としては非常に高い水準に達していると思います。また、作品の写真を見ると、モントーヤは折りの確かさでも群を抜いています。特に注目されるのは、キリスト生誕の情景を表した群像で、長方形の用紙が多用されているものの、今から半世紀前にこのような折り紙の表現があったことに驚かされます。

10人の作家の作品を全体

的に眺めてみると、鶴の基本形が重要な位置を占めていることが分かります。モントーヤの「ウミガメ」やロードの「七面鳥」の基本形は1対2の長方形から鶴の基本形を2つつなげたものであり、セルセダの「馬上のムーア人」の基本形は、やはり1対2の長方形から、座布団折りした鶴の基本形を2つつなげた形です。ロードの「リヤマ」は特殊な用紙形を使っていますが、これは、「馬上のムーア人」の基本形から必要のない部分を切り取ったものと見ることができます。

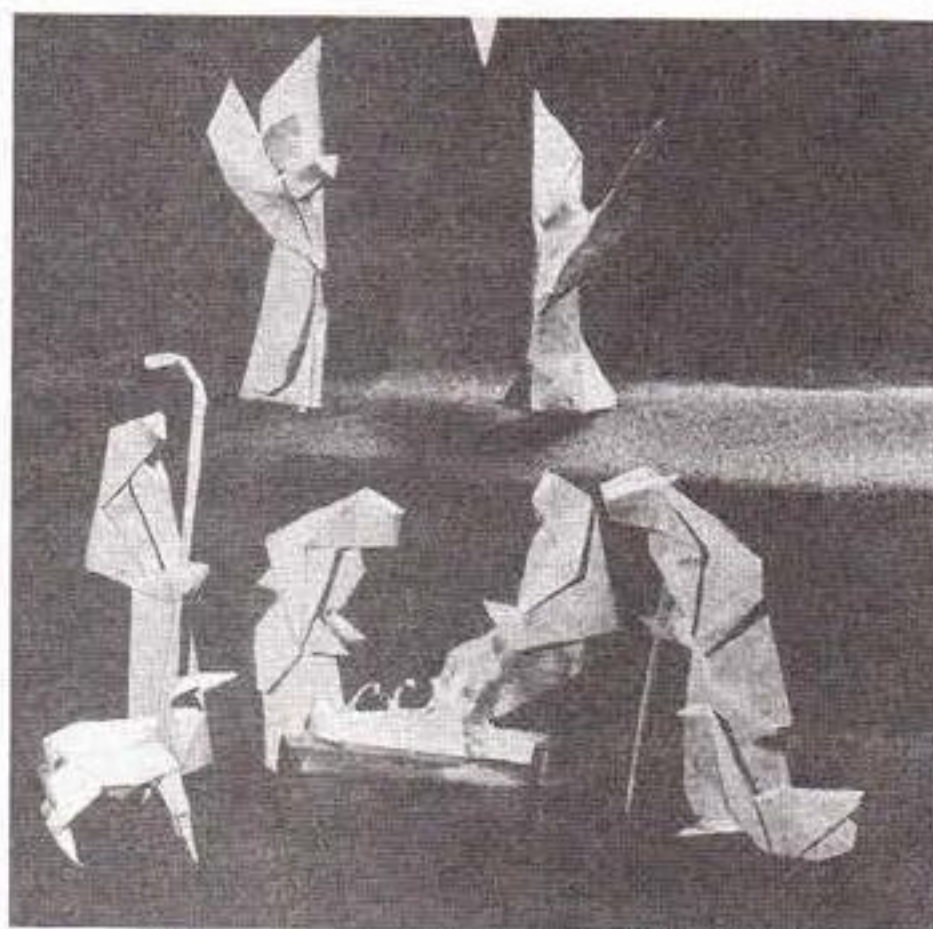
その一方で、既存の基本形によらずに独自の基本形を作るという考え方の萌芽が、ロームやニールの作品に見られます。ロームの「サーカスの象」、「クマのスナッフイ」、「カバ」が同じ基本形から作られており、ニールの「ゾウ」、「キリン」、「雄牛」も本質的には同じ基本形を使っています。

また、現在広く使われているボックスプリーツにつながる、正方格子による作品もすでに見られます。後にイライアスがボックスプリーツを用いた

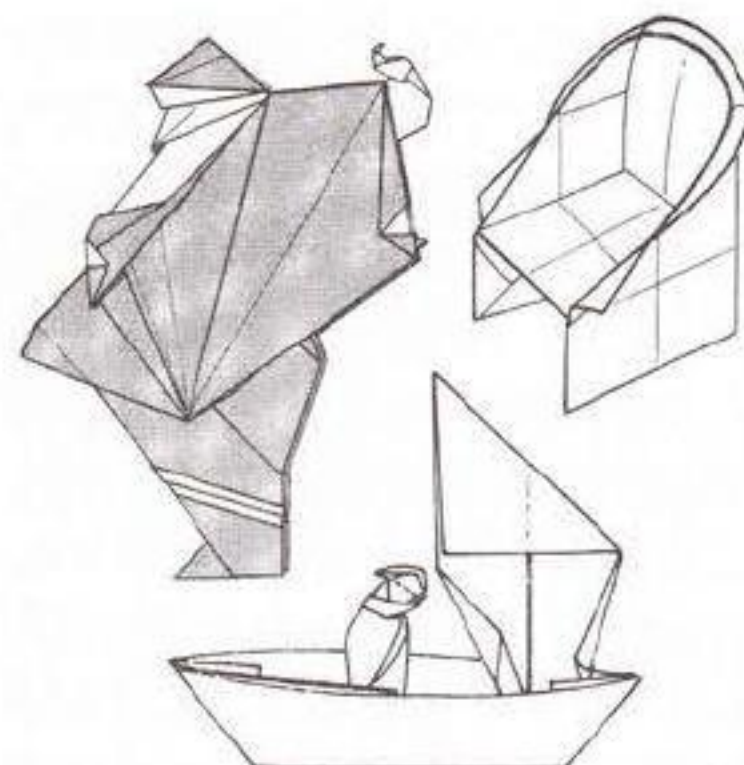
作品でよく知られるようになりますが、本書の作品ではイライアスは鶴の基本形などを使っており、正方格子を使ったものとして目立つのはスキルマンの作品です。

もう1つ特筆すべきは、イライアスとロームが、1枚の紙から2つ以上のものを折り出す作品をいくつか創作していることでしょう。ハービンは、自身のあまり洗練されているとはいえない「船上の漁師」とイライアスの「船上の漁師」を並べて掲載することで、イライアスの「天才」ぶりを強調しています。ロームもイライアスも、すでに紙の表裏を使った色分けを駆使しています。

本書を見ると、1950年代から60年代にかけて折り紙作家の国際交流が盛んになったことで、世界中の折り紙作家が互いに刺激し合い、新しい技法や表現が次々に生まれてきた様子がうかがえます。現在の折り紙に通じる流れの西洋における源流が本書に記録されていると言ってもいいでしょう。



リジア・モントーヤ「キリスト生誕」(部分)



左上：フレッド・ローム「サンタクロース」
右上：ジャック・スキルマン「ひじかけいす」
下：ニール・イライアス「船上の漁師」

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第5回 紙飛行機について Paper Darts and Planes

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探究し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

前川 淳
Maekawa Jun

映画『猿の惑星』(ピエール・ブール原作、フランクリン・J・シャフナー監督)に、人間のつくった紙飛行機を見た猿たちが驚愕するというシーンがある。彼らは飛行する道具や機械を知らないのである。また、マンガ『JIN-仁-』(村上もとか著)には、幕末にタイムスリップした主人公が折った紙飛行機(イカ飛行機)が感嘆されるというシーンがある。

どちらも印象的なエピソードだが、次のような疑問を持つひともしらう。紙飛行機というものは、はたして飛行機発明以降のものなのか、それとも、より以前からあったのか、と。以前、『季刊をる』の記事にも書いたことがあるが、わたしは『猿の惑星』のこのシーンを観たときに「お猿さんだってあれだけ文明が進めば、(じっさいに飛行機をつくることができなくても)紙飛行機ぐらい思いつくよ」と思った。発明というものが、慣れてしまうと当たり前になる錯覚によるものかもしれないが、古い時代からあったブーメランや凧が、いわば航空力学的な道具や玩具であることも、この印象を持った根拠であった。

もっとも、「紙飛行機」という言葉が、飛行機が一般化して以降の言葉であるのは、まず間違いがない。ただ、ここにも若干の込み入った話がある。飛行機という言葉は、いわゆる飛行機より古いのである。これはこの記事の本筋ではないが、簡単にふれておこう。

飛行機という言葉は、森鷗外が使っ

たことで定着したと言われるのだが、その初出は『小倉日記』の1901年3月1日付の文章であるとされる。ライト兄弟による有人動力飛行機の初飛行である1903年より前のことになるのだ。鷗外の「飛行機」は、ドイツ語のFlugzeugの訳と考えられるが、これを直訳すると「飛ぶ物」となる。これは、すでに実用化されていた気球などを含む「飛ぶ装置」という広い意味を持っていた言葉と考えられる(参考:『航空と文化』No.81(2003)村岡正明著「明治の文豪と飛行機(1)」)。また、日本の航空機研究の草分けである二宮忠八が、鷗外からさかのぼるさらに十余年前に「飛行器」なる言葉を使っていたことも知られている。さらに、フランス語のaéroplaneという言葉(planeは平らということなので固定翼を示すものと考えられる)も、19世紀中頃にはあったことがわかっている。

とて。紙飛行機の話である。実は、これも飛行機より古いことが判明している。19世紀末にイギリスで刊行された『Cassell's Book of Sports and Pastimes』(『キャセールのスポーツと娯楽の本』1888年)に掲載されている「紙の矢」(Paper Dart)がひとつの証拠である。キャセールというのは出版社の名前で、この本は、数々のスポーツやレクリエーションを紹介した、ほぼ1000ページに及ぶ分厚いガイドである。「アメリカンゲーム・オブ・ベースボール」すなわち野球か

ら、ポーカーのルールまで載っている本で、そのなかに、「玩具あそびと玩具製作」という章があり、そこに「紙の矢」のつくりかたが図とともに紹介されている。これが、いまある紙飛行機(鎗飛行機)と同一のものなのである。

この「紙の矢」なるものは、さらに時代をさかのぼることができる。ネット上の質問サイト(<http://www.quora.com/Paper-Plane-1/When-were-paper-planes-invented>)によると、たとえば、19世紀のイギリスのエッセイに、以下のような記述があるという。

「紙の矢がいっぱい刺さった、でっかいもじゃもじゃした黒いカツラ」(1803年)

この「紙の矢」は、じっさいに飛ばすものではなさそうで、というか、なんじゃそれというもののだが、次のような文章もある。

「彼らは紙の矢を投げるなどして浮かれるだろう」(1850年)

どんなものかは定かではないが、これはまさに、投げて遊ぶ「紙の矢」である。

19世紀の後半は、有人動力飛行機の開発に先立ち、模型飛行機の実験が行われていた時代でもある。「紙の矢」とこれらの実験の関わりにも興味をふくらむ。いっぽうで、「紙の矢」がみな、固定翼で揚力を得る航空機の基本原理を使っていたのかというと、どうやらそうでもない。それが次の例である。

○前川 淳(まえかわ・じゅん)=日本折紙学会評議員。本稿では、1枚の紙を折ってつくる玩具として「紙飛行機」という言葉を用いた。これは、紙でつくった模型飛行機一般と区別するために「折り紙飛行機」とする場合がある。



版画：鳥海太郎

本誌122号の『折紙図書館の本棚から』で羽鳥公士郎さんが紹介していた『The Kindergarten Guide volume 2 The Occupations』(『幼稚園便覧 第二巻 手技』マリア・クラウス=ベルテ、ジョン・クラウス著 1882年)にも、紙飛行機を思わせる図がある。これも「矢」(dartではなくarrow)と呼ばれているのだが、これを紙飛行機としてよいのかには疑問もある。折りかたは『キャセールの…』のものとは異なっていて、用紙形も長方形ではなく正方形である。同書には完成図があるだけで、折りかたは文章で説明されているのだが、文章で工程を教示することの難しさもあって、わたしは、なかなかこれだというかたちにすることができなかった。なによりも苦労したの

は、できあがったものがうまく飛ばないことであった。悩んだ末、これは、現代の紙飛行機にとらわれているためであることと理解した。このモデルは、翼を水平にひろげると、揚力がむしろ邪魔になってまっすぐ飛ばないのである。折り畳んだまま、まさに矢尻のようなかたちのそれを投げるものと思われる。『キャセールの…』のものは、説明文に「翼」という記述や空中で「優雅な曲線」を描く云々とあるのにたいして、こちらは単に、「空中にうち出す」とあるのも、そういうことでは

★トリビア★

「折り紙飛行機」はライト兄弟以前からある。

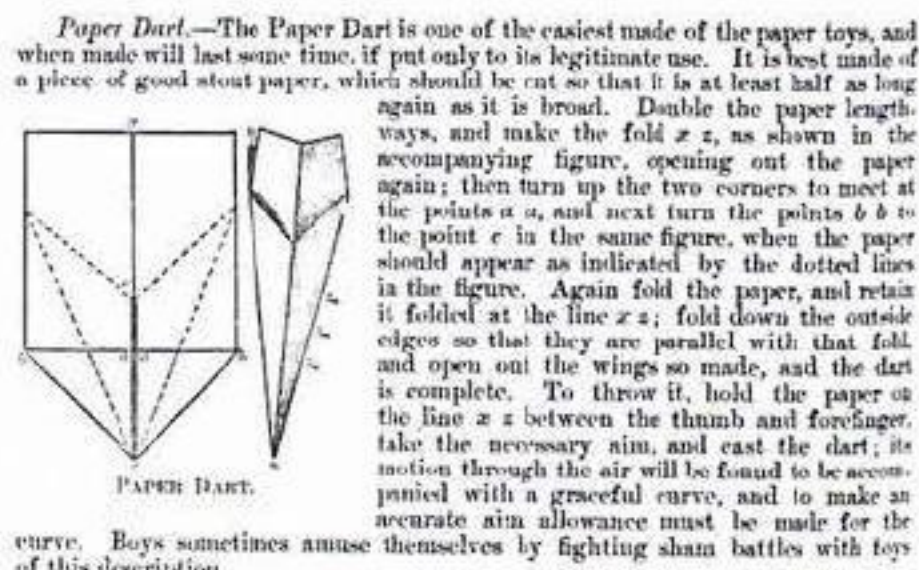
ないかと思われる。その意味で、これは紙飛行機とはすこし異なったものとも考えられるのである。

このように、「紙の矢」が紙飛行機と同様のものであるかは、議論の余地があるのだが、すくなくとも『キャセールの…』のものは、今に伝わる紙飛行機と同じ構造と機能を持ったものである。これは、「紙の矢」が改良されて「飛ぶ」ものが生まれたのもこの頃(19世紀末頃)であったのではないかと推察させる材料でもある。いずれにせよ、それは120年以上前、飛行機が実用化される前のことである。

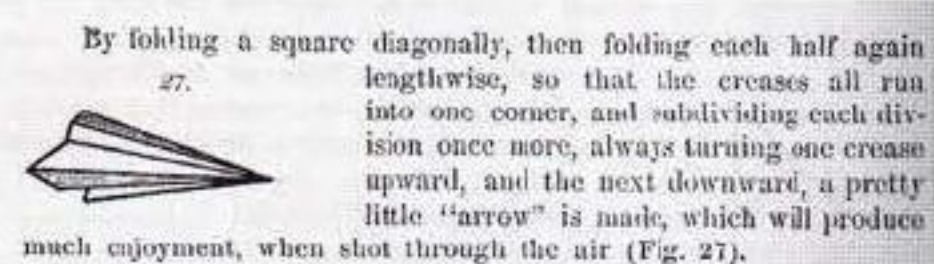
そして、『キャセールの…』と同種のものが、日本にあったこともわかっている。『日本児童遊戯集』(大田才次郎著 1901

年)という本に載っている「とんび」が、それである。これもまた、ライト兄弟の初飛行より前のものになる。これは、上記の本などを経由して日本に伝わったものであると推測しているが、名前が「矢」ではなく「とんび」となっているのも面白い。名前だけではなく、ちいさなくちばしもついているところも愛嬌である。この文献も、おもに文章で工程が説明され、完成図も翼を横にひろげたようには見えないので、最初に折ったときはけっこう苦労したが、文章から、基本的な構造は「鎗飛行機」と同一であると解釈した。なお、この『日本児童遊戯集』には『折物』という項目もあり、鶴、蛙など30ほどのモデルが列挙されているが、そこでは「とんび」は挙げられていない。

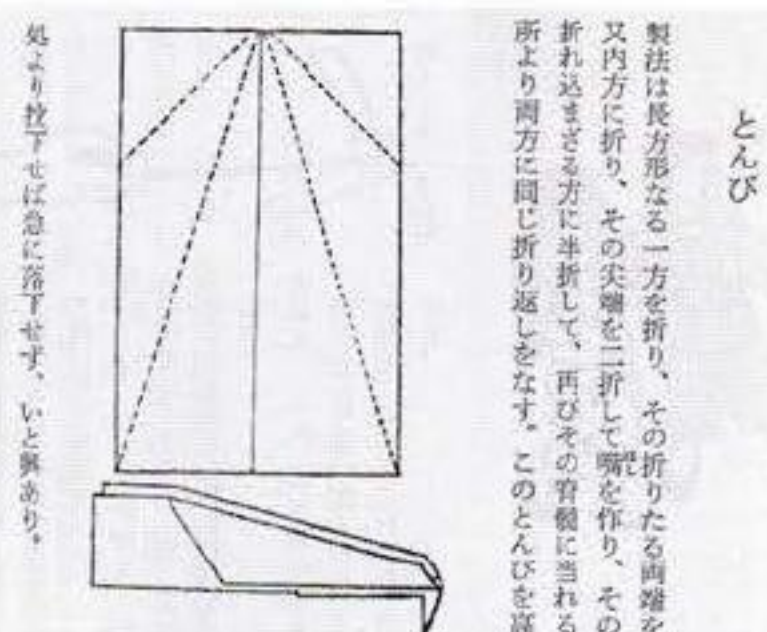
以上のように、今から100年すこし前、空にただひとつの飛行機も飛んでいない世界においても紙飛行機は飛んでいた、ということが、今回の話である。



「Cassell's Book of Sports and Pastimes」(1888)の「紙の矢」。Google Booksより



『The Kindergarten Guide volume 2 The Occupations』(1882)の「矢」。復刻版(2001)より



『日本児童遊戯集』(1901)の「とんび」。復刻版(1968)より

外出中に、ずっと手を見てふと思いつく。コンベンションの懇親会では目隠し折り・足折り・マジックハンド折り競争があったけど、「手袋をして折る競争」はどうだろう？ 蒸れるから冬季限定かな…。

「モンドリアン・ボックス」

作：川崎敏和(P.4)

Mondrian Cube: Kawasaki Toshikazu (P.4)

■黒い帯でぐるぐる巻き、強烈で鮮明な画面分割。スッキリハッキリクッキリサッパリの印象が前面に押し出されているユニットです。複数の紙を重ねて折ること得られた模様構成により、違和感と心地よさが奇妙な均衡をつくりあげているように見えます。

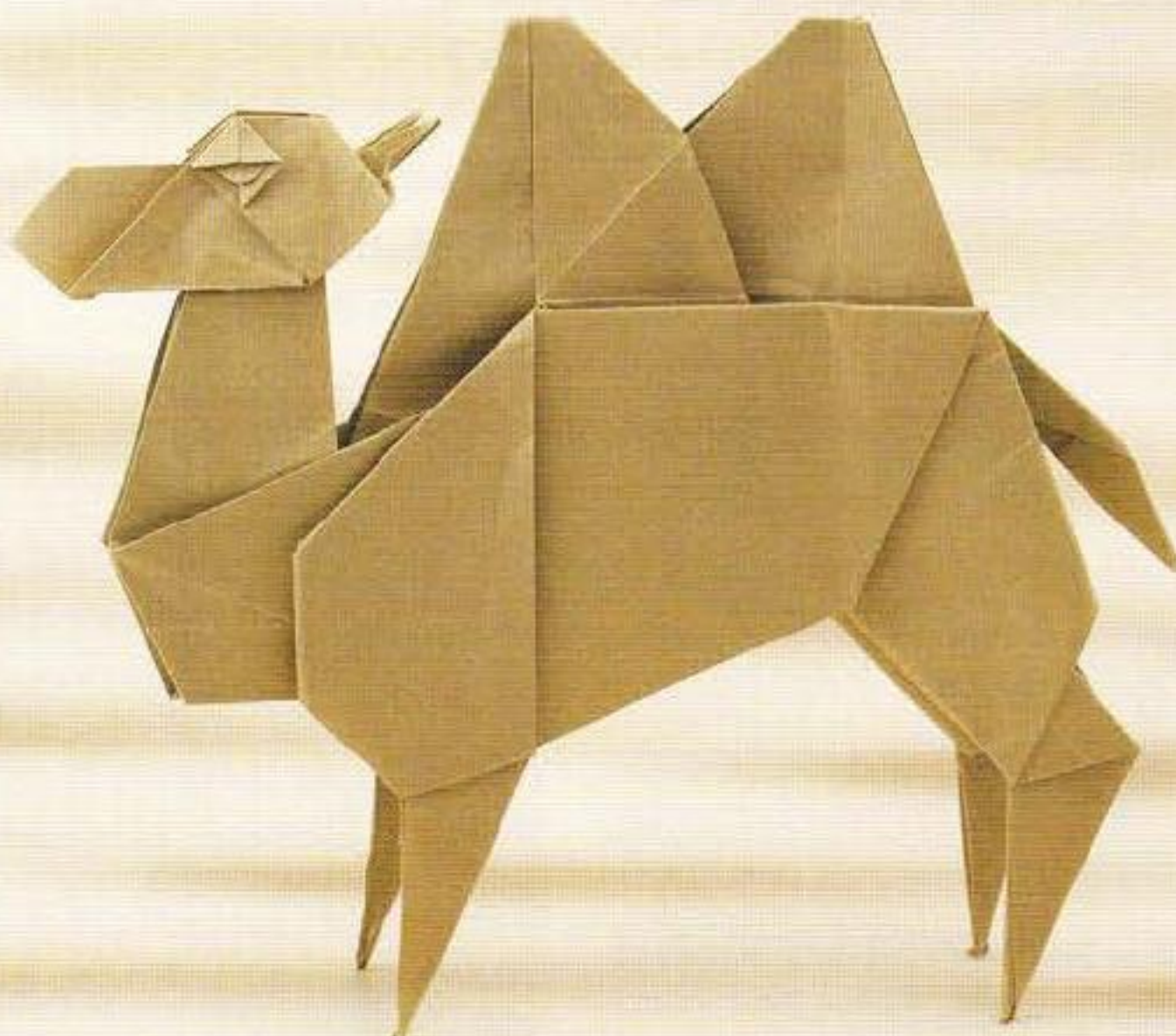


「60度の星のユニット」 作：やまぐち真(P.8)

60 Degrees Star Modules:

Yamaguchi Makoto (P.8)

■糊付けをするからこそ実現可能な、非常にシンプルな部品と頑丈な組み上がり。少し厚めで風合いのある紙を使っても無理なく折ることができ、大量生産にも向いています。例示されている組み方だけでなく、長い螺旋状にひたすら連結したり、波打つ曲面を広げてゆくのもおもしろそうです。



「ラクダ」 作：小菅章裕(P.34)

Camel: Kosuge Akihiro (P.34)

■本誌133号の「ガマガエル」の作者、今回は22.5度を多用した構成です。整然とした展開図からよどみなく導き出される完成形、輪郭も表面の模様も隙のないバランス。…のはずなのに、どこことなくユーモラスな表情と体型。魅力的な作品を繰り出す若手に対しては、「次回作ではさらに驚くような要素を盛り込んで欲しい」と、期待が増幅してしまいます。

第8回折紙探偵団名古屋コンベンション展示作品より

Exhibits at the 8th Origami Tanteidan Nagoya Convention

■地方コンベンションの作品展示場で感じられる、独特の味がある全体的な雰囲気。その背景には、それぞれの地域で活躍する主力メンバーの熱気が強く影響していることでしょう。そんな空間に触れて、巻き込まれて引きずり回されているうちに突然新しい発想にたどり着く、なんてことも結構よくあるのです。



Jorge Pardo



Jorge Pardo



Kamo Hiroo



Tominaga Kazuhiro



Nomura Reo



Tominaga Kazuhiro



Jorge Pardo



Jason Ku



Sasade Shinji



Ono Tomoaki



Kamiya Satoshi



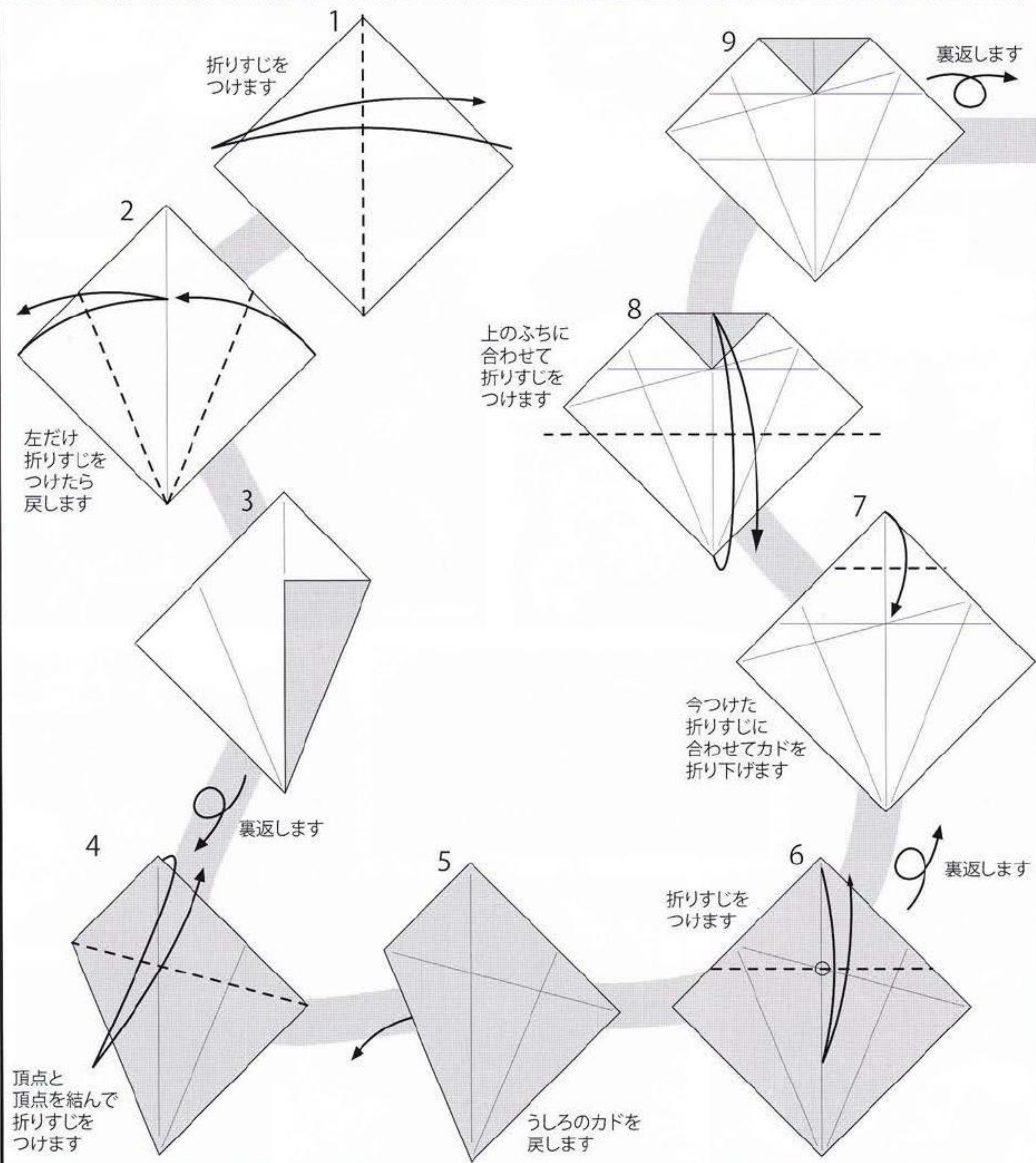
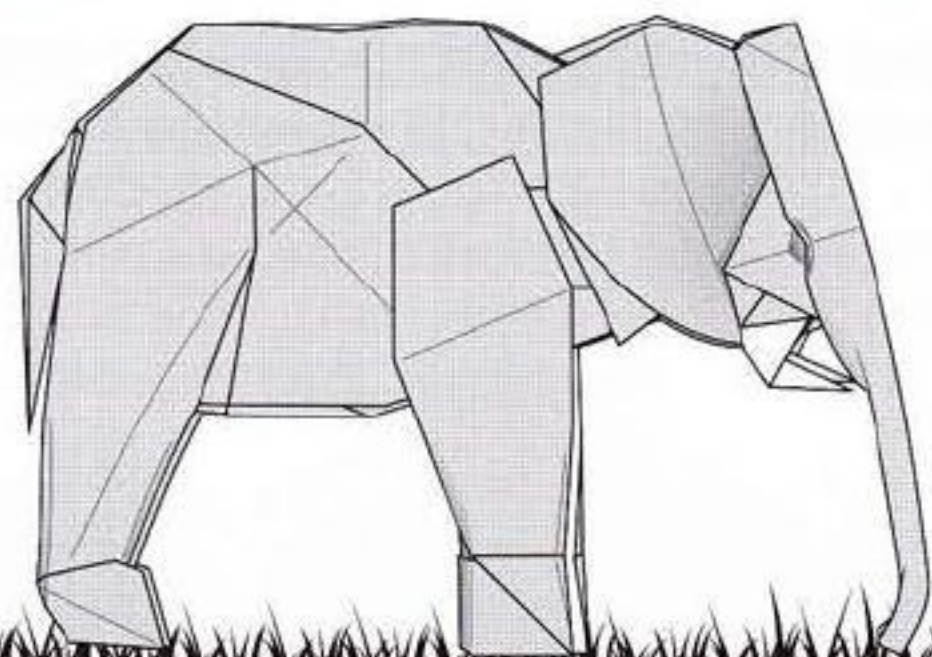
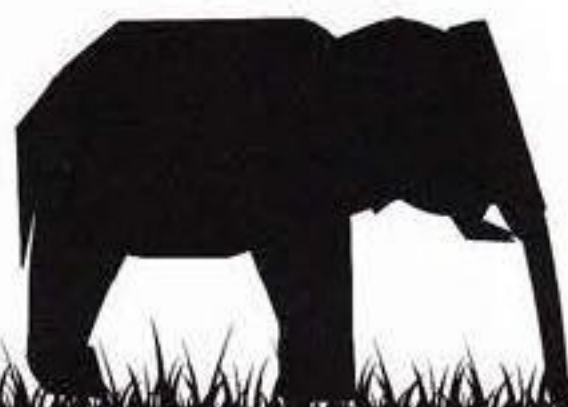
Kakami Hitoshi

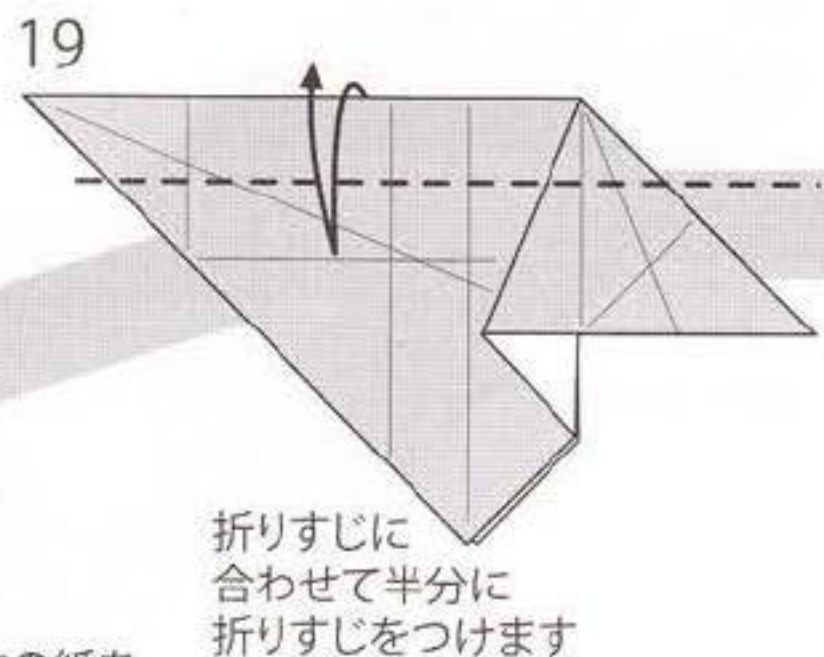
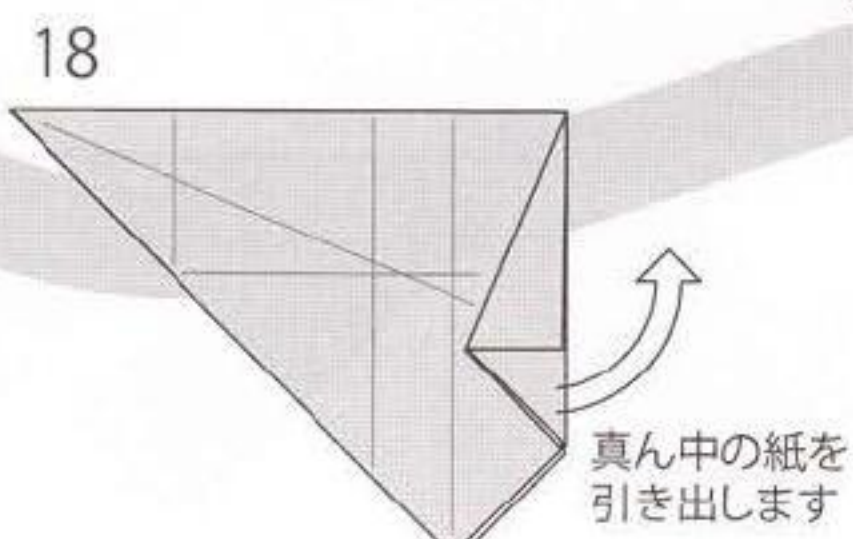
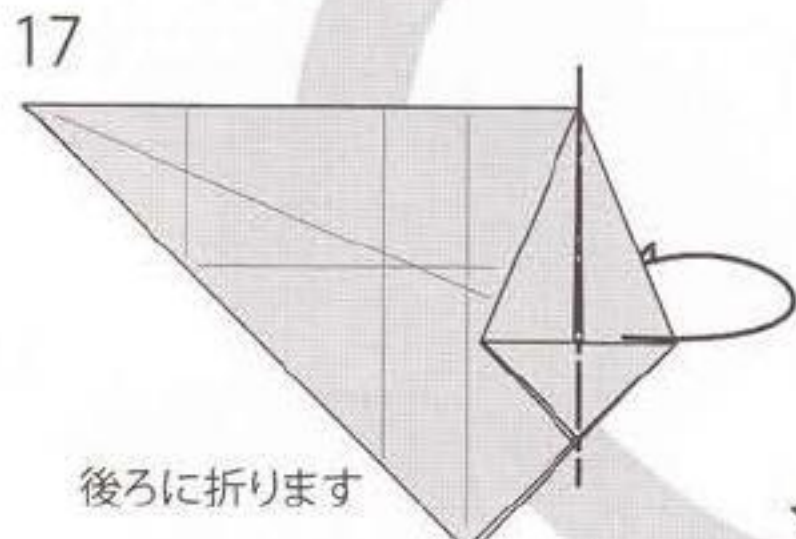
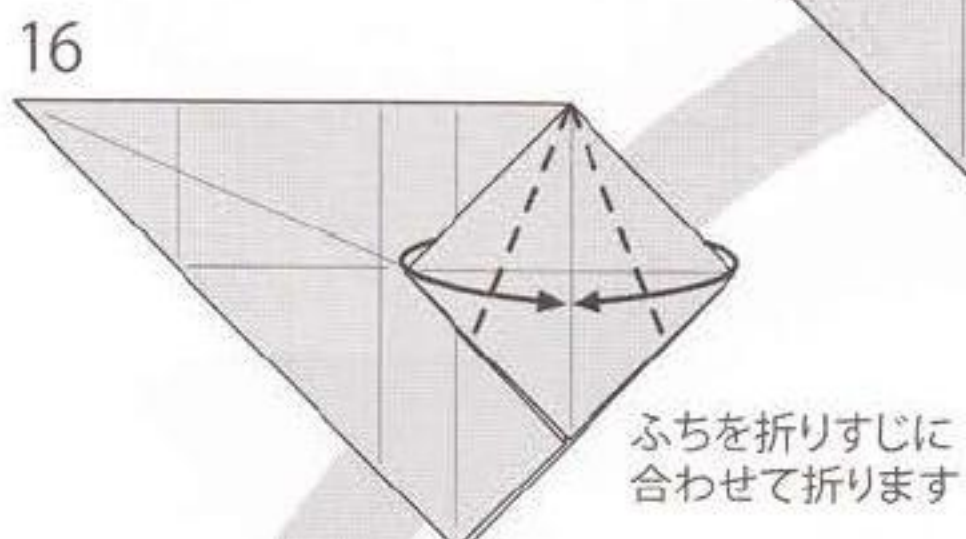
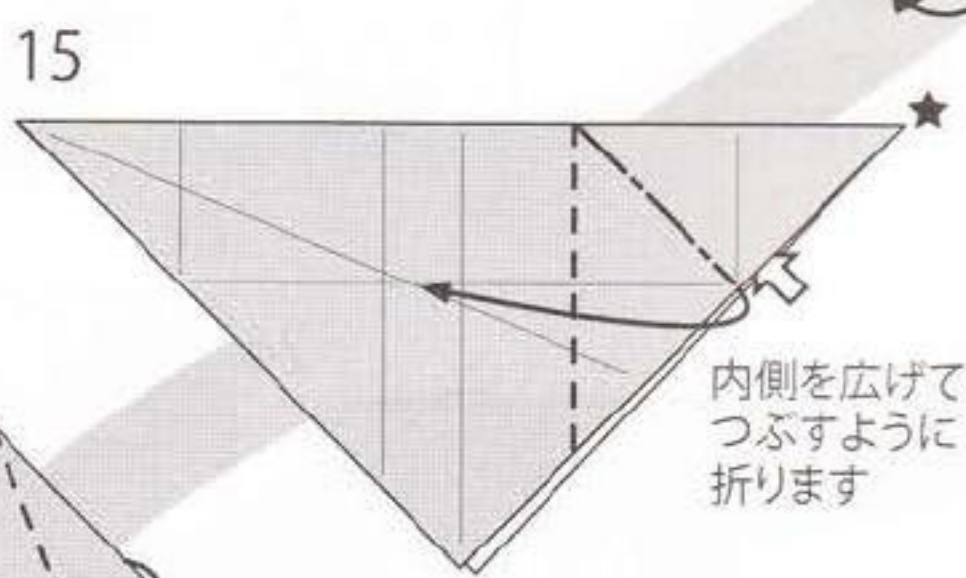
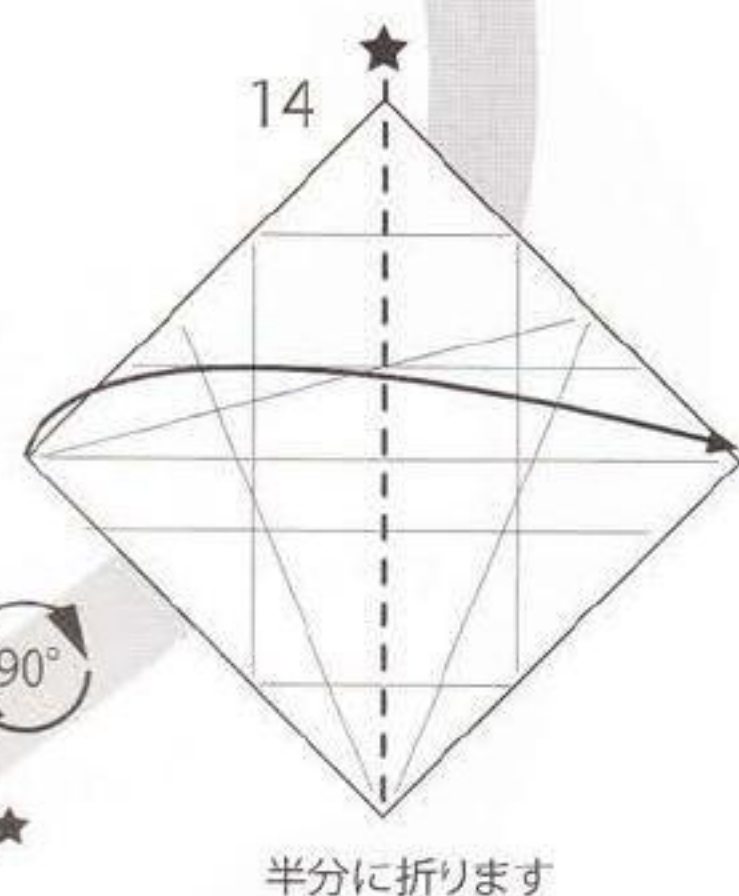
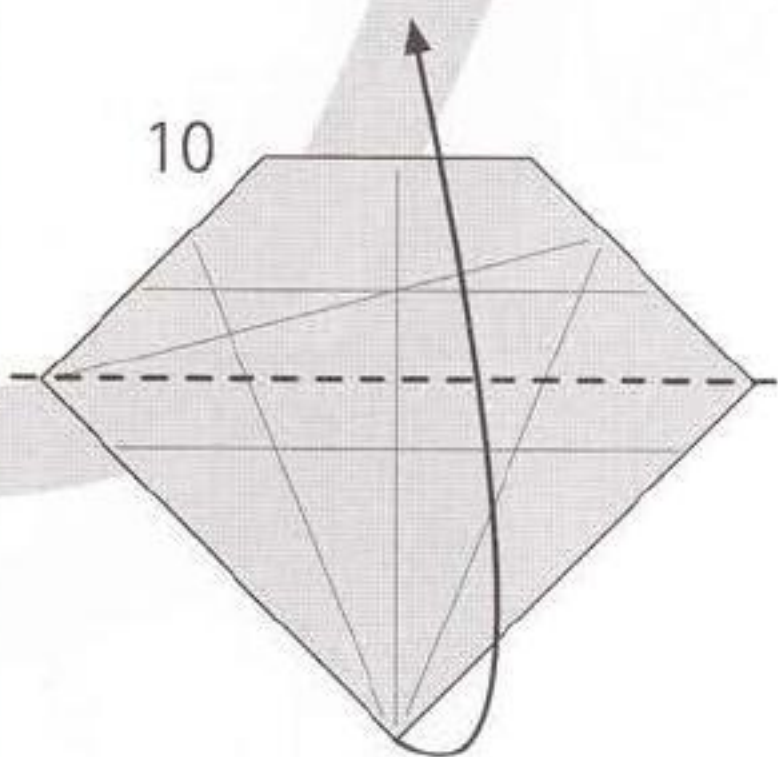
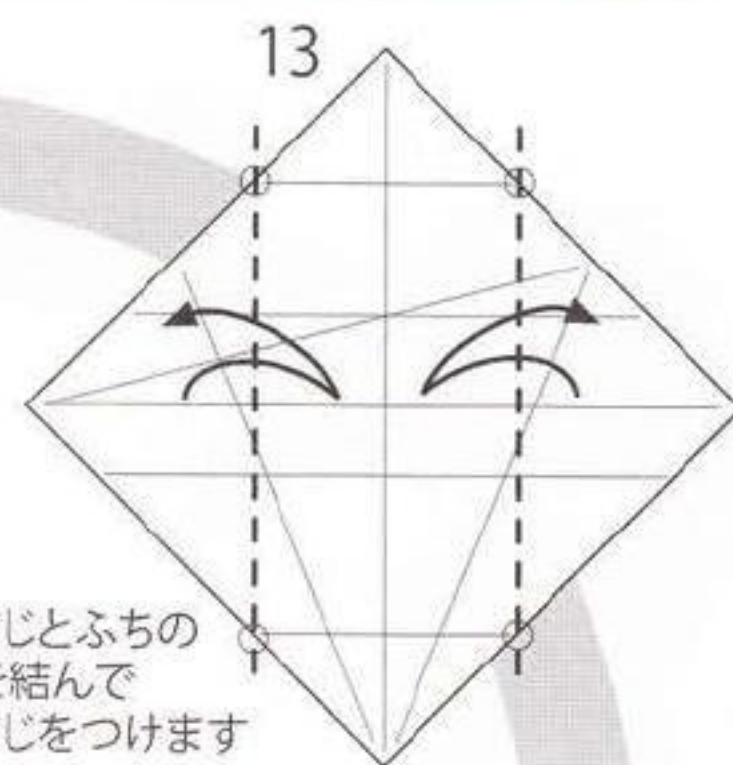
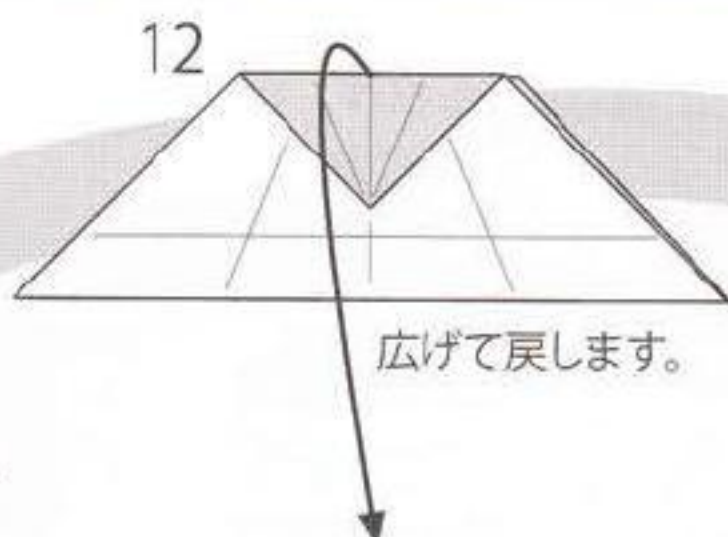
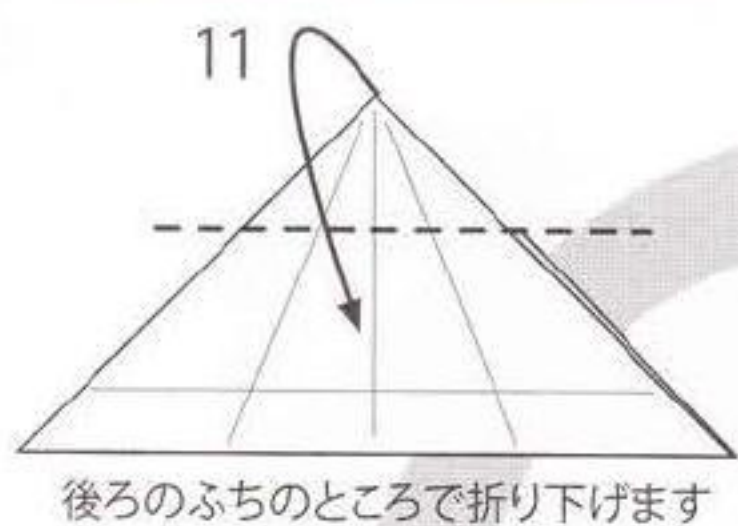
アフリカゾウ

創作、折り図:宮本宙也

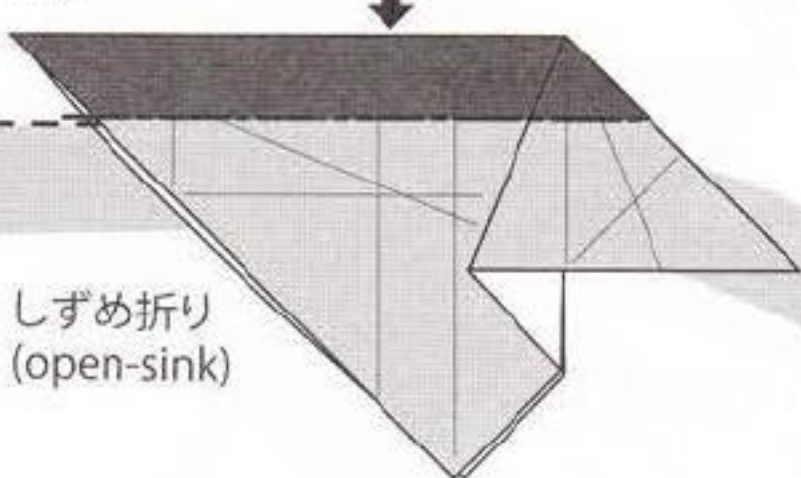
African Elephant

Designed & Diagramed by
Miyamoto Chuya



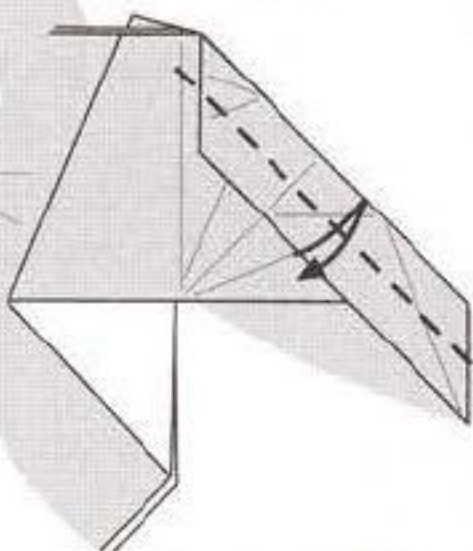


20

しずめ折り
(open-sink)

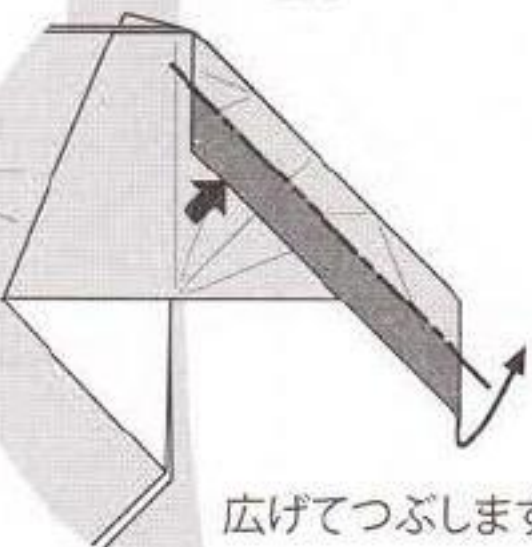
25

半分に折りすじをつけます



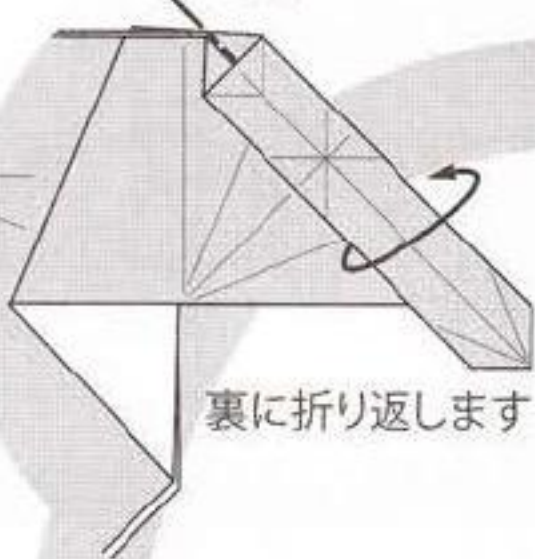
26

広げてつぶします

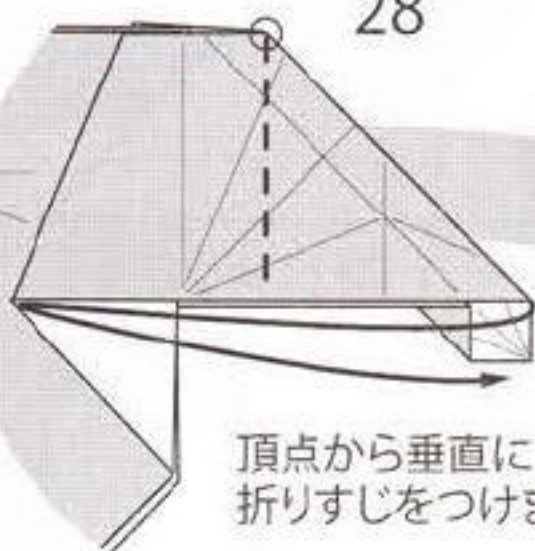


27

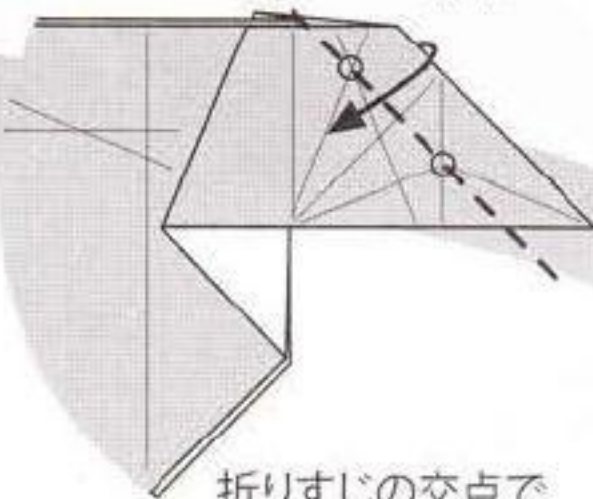
裏に折り返します



28

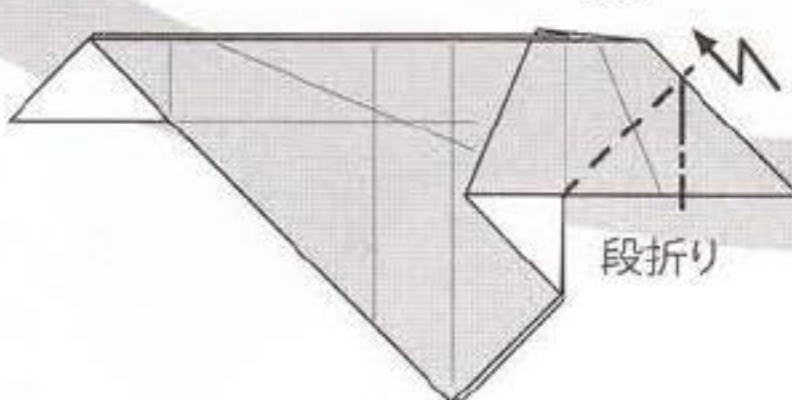
頂点から垂直に
折りすじをつけます

24

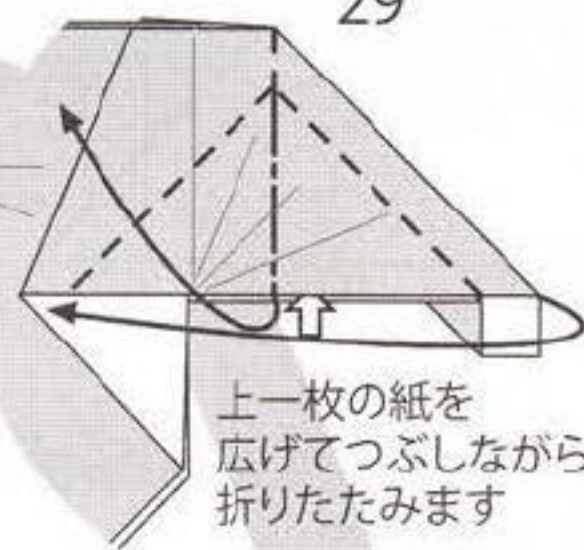
折りすじの交点で
ふちと平行に折ります

21

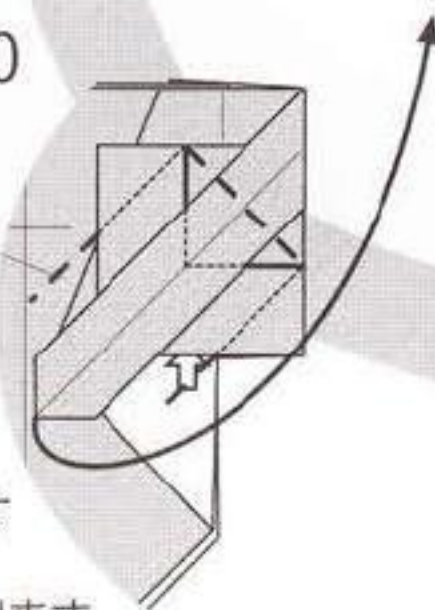
段折り



29

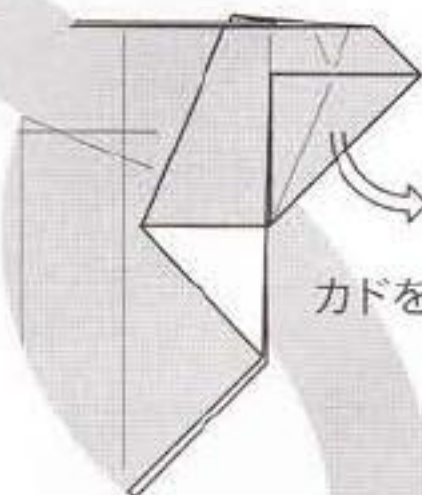
上一枚の紙を
広げてつぶしながら
折りたたみます

30

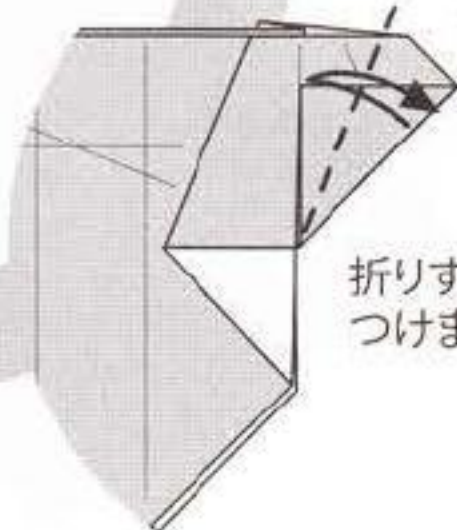
広げて
内側を見ます
次の図から
立体図になります

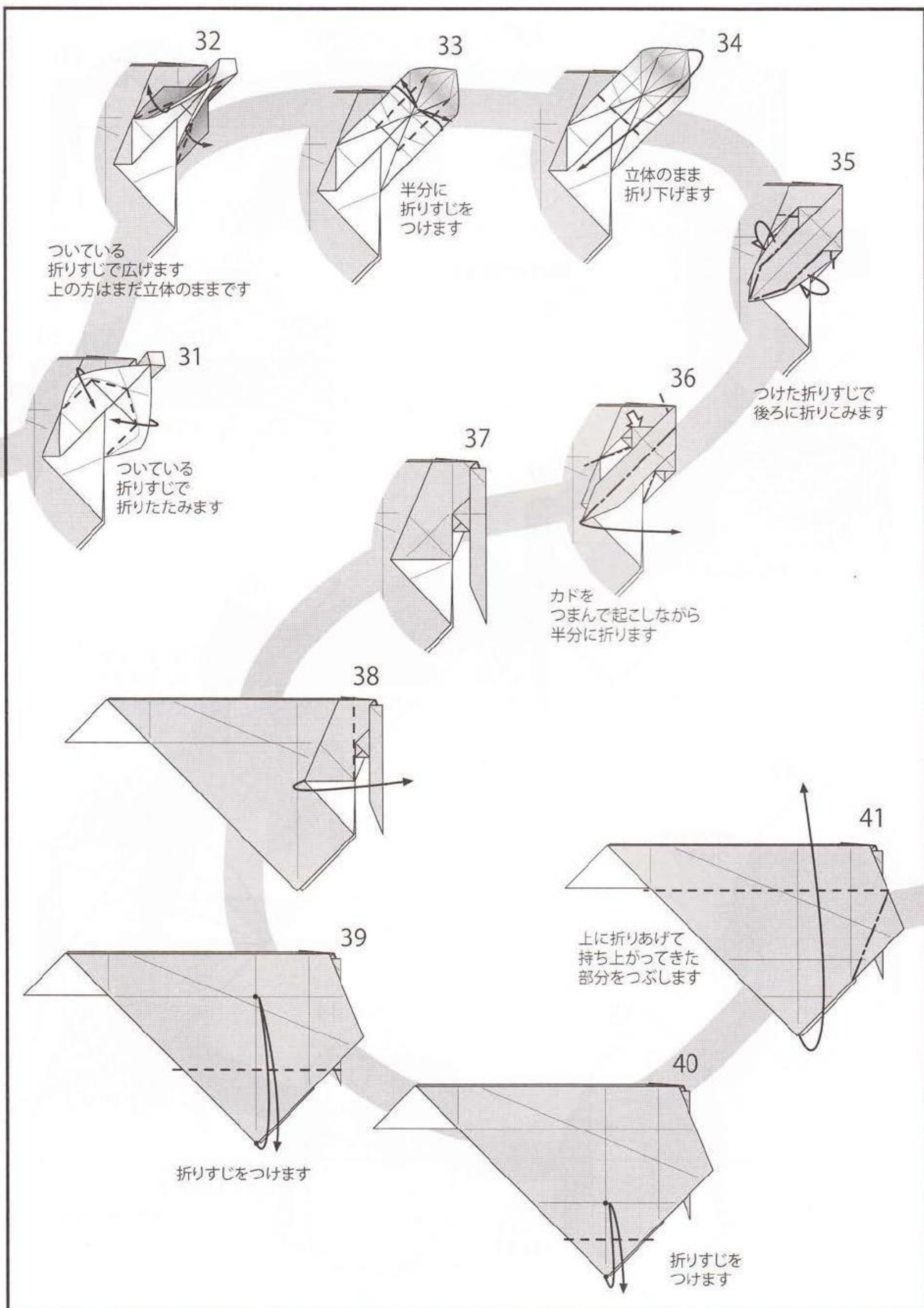
23

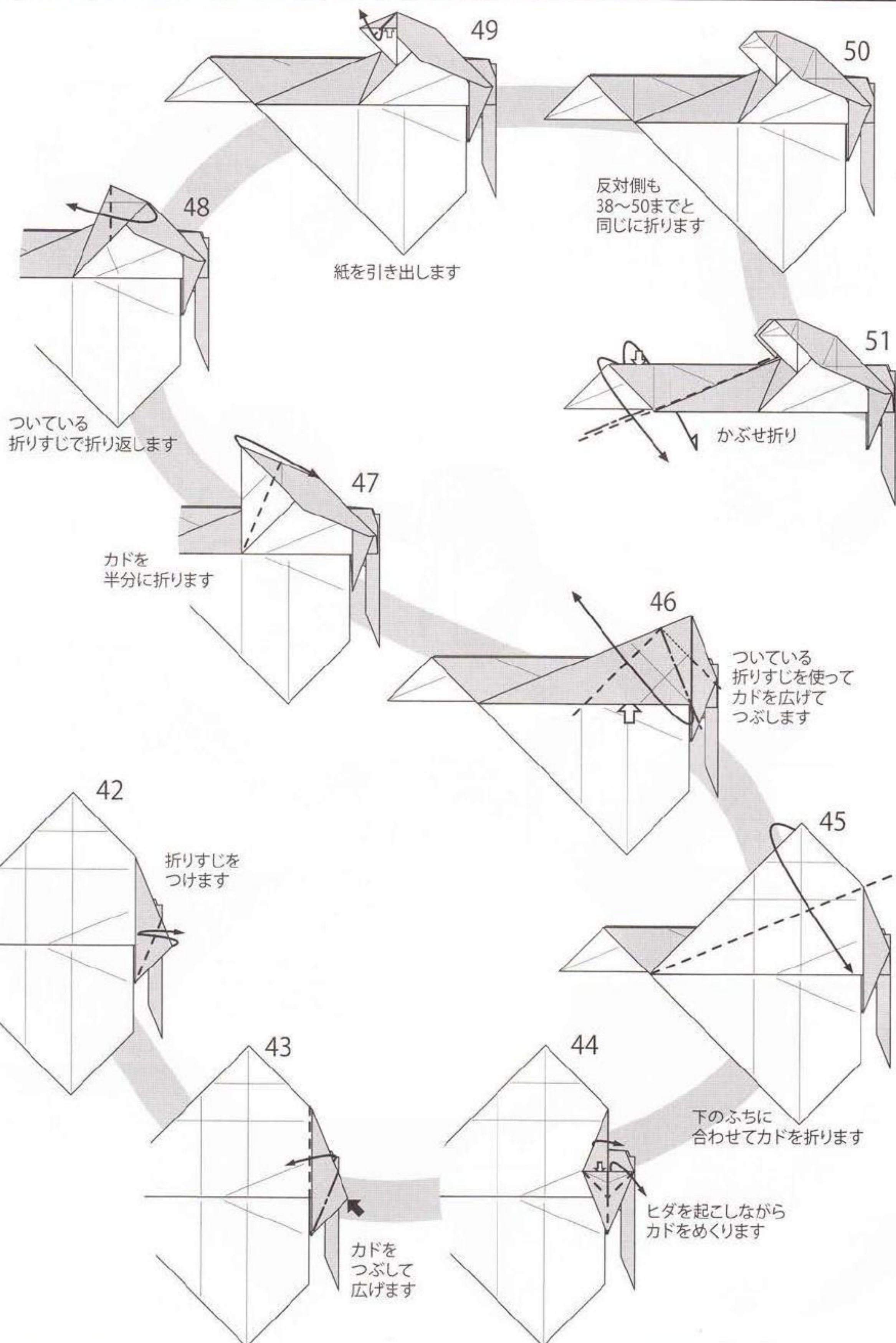
カドを戻します



22

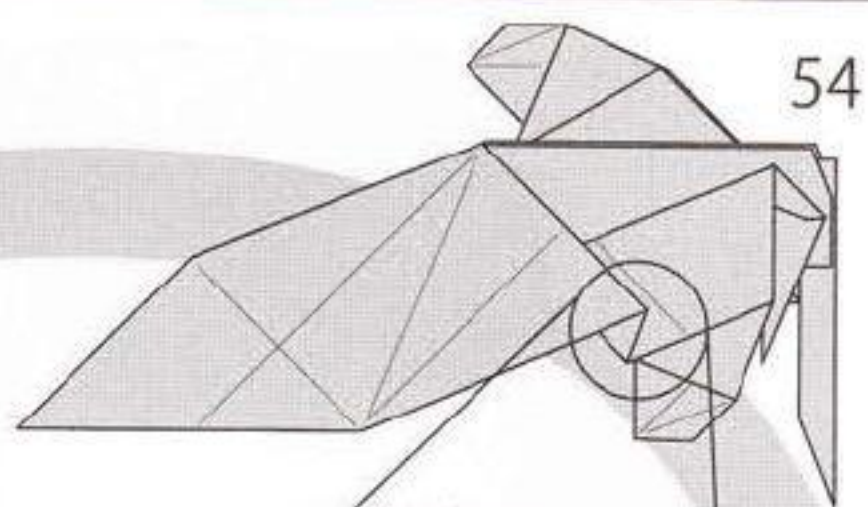
折りすじを
つけます



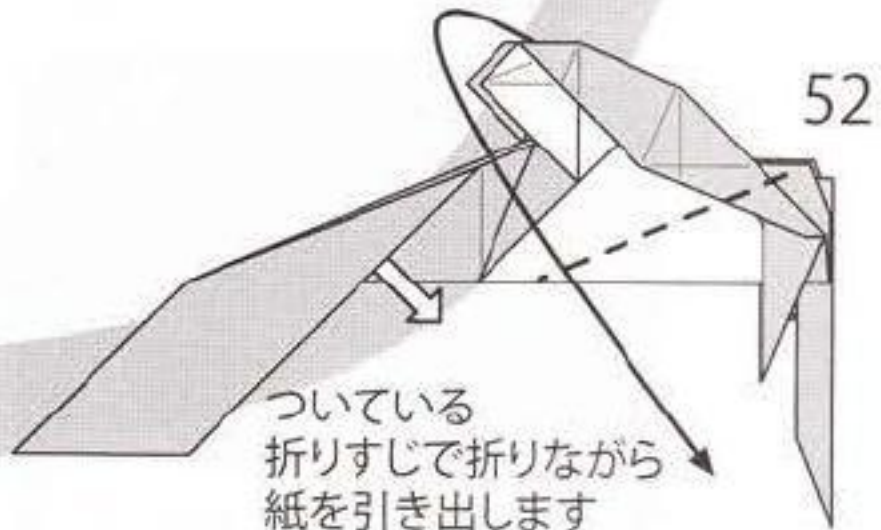




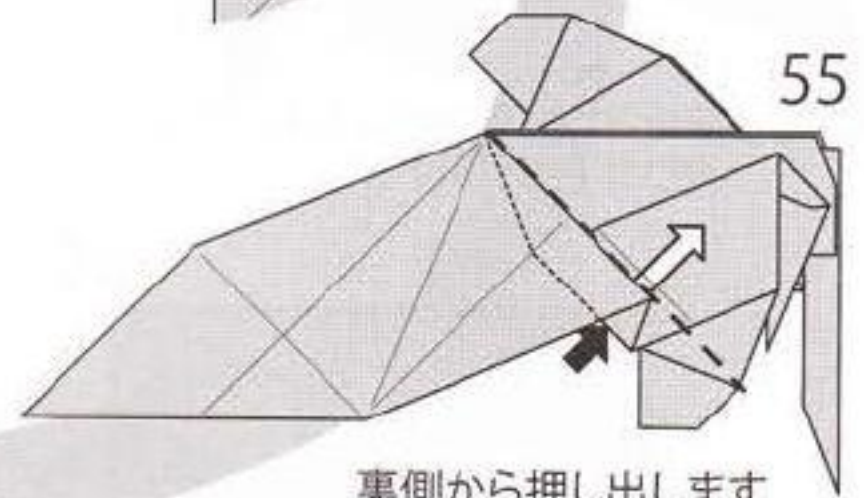
53
ついている折りすじで
紙を引き出しながら段折り



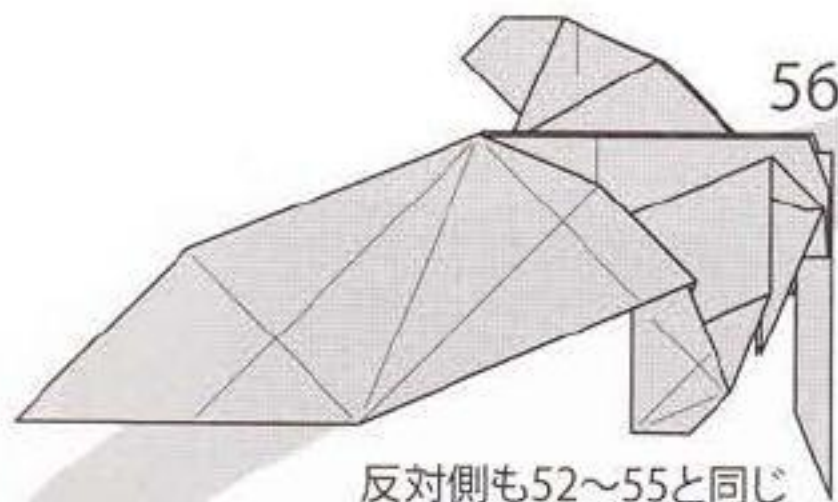
54
拡大図
どの点とも
一致してない
ことに注意



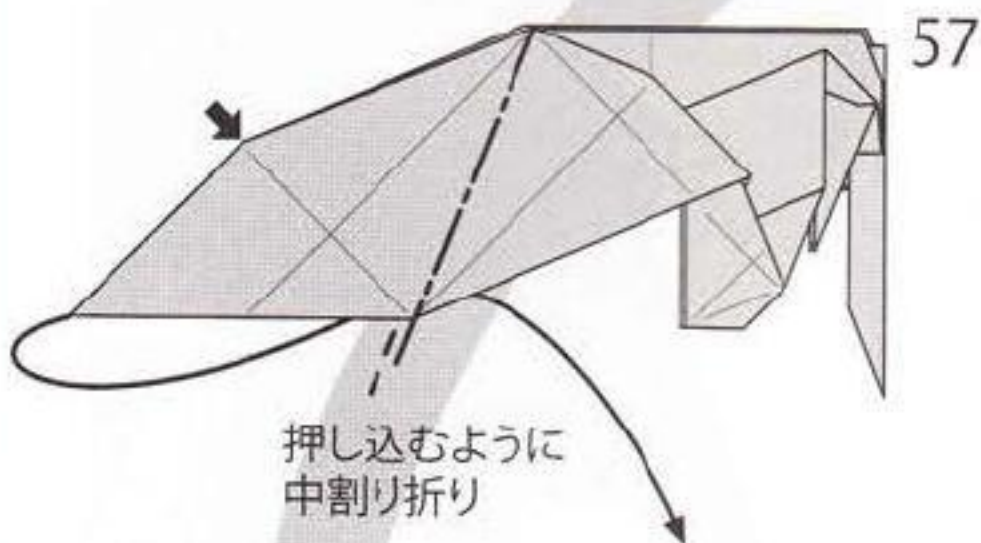
52
ついている
折りすじで折りながら
紙を引き出します



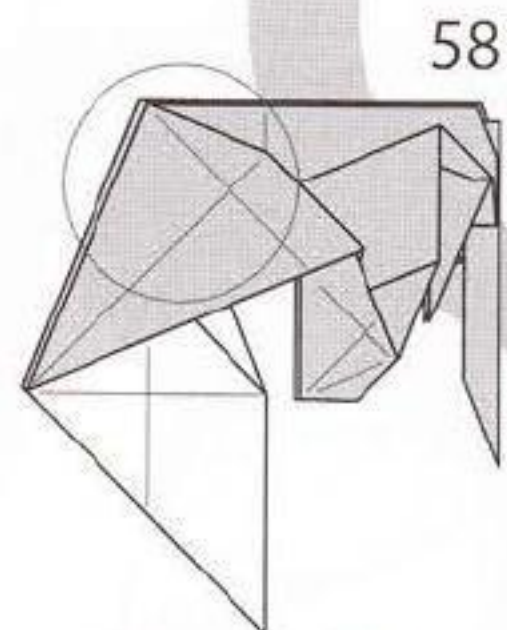
55
裏側から押し出します



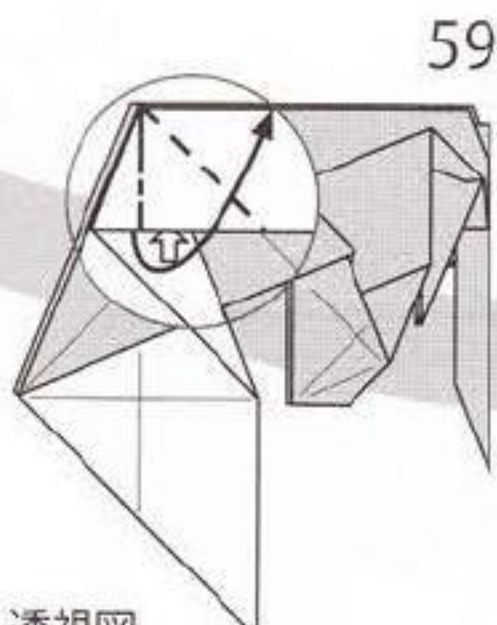
56
反対側も52~55と同じ



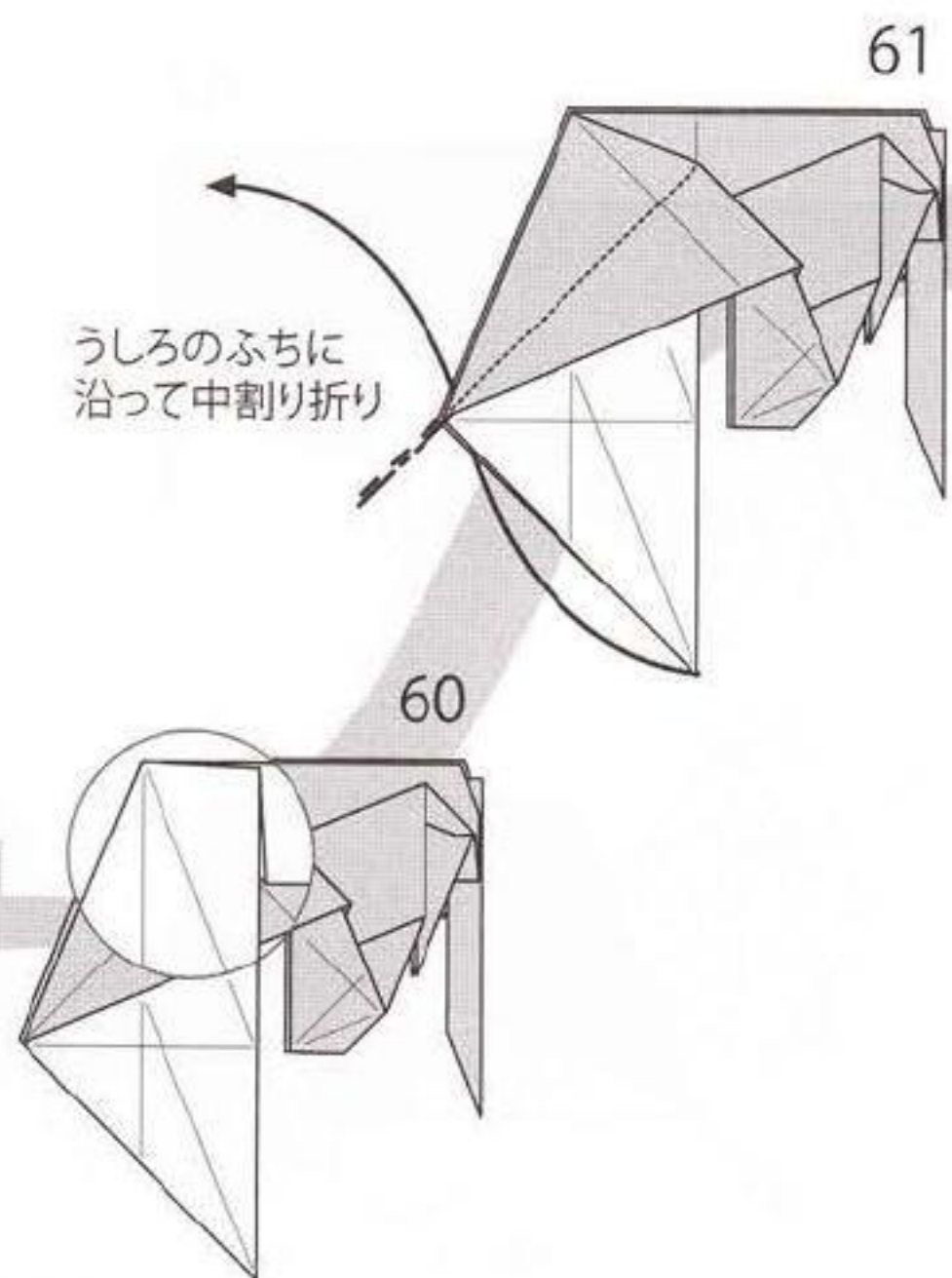
57
押し込むように
中割り折り



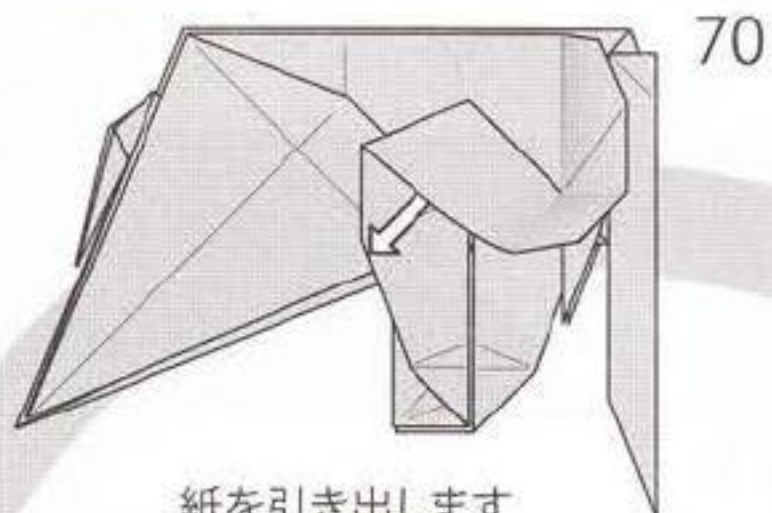
58
次の工程は透視



59
透視図
中のヒダを広げてずらします

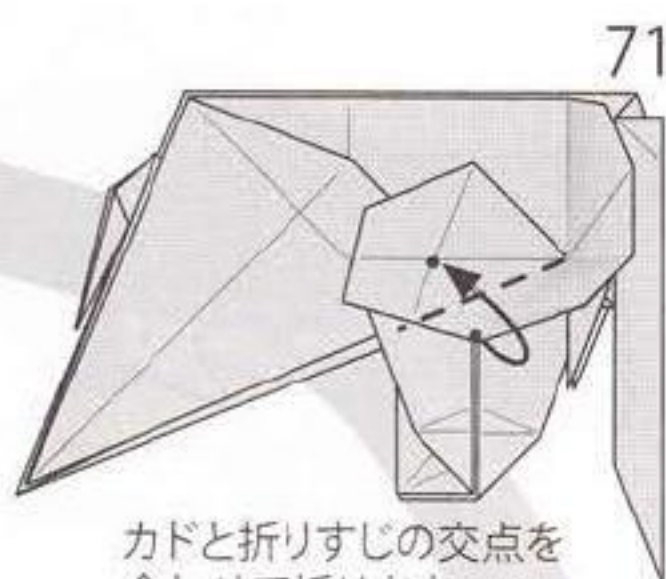


60
うしろのふちに
沿って中割り折り



70

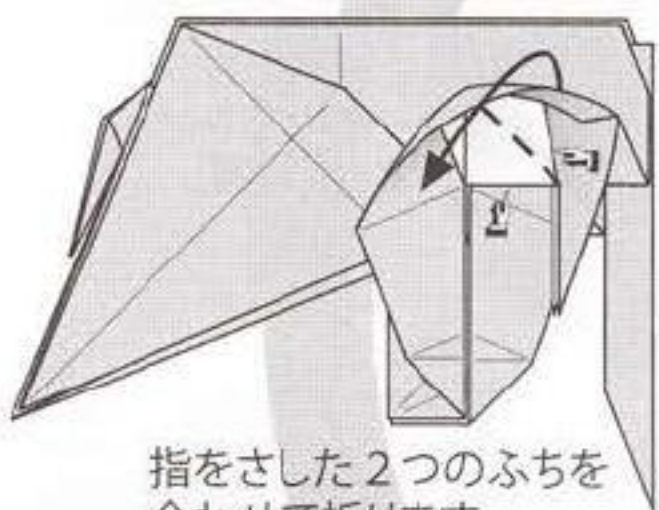
紙を引き出します
あまり下の紙に
折りすじをつけないように……



71

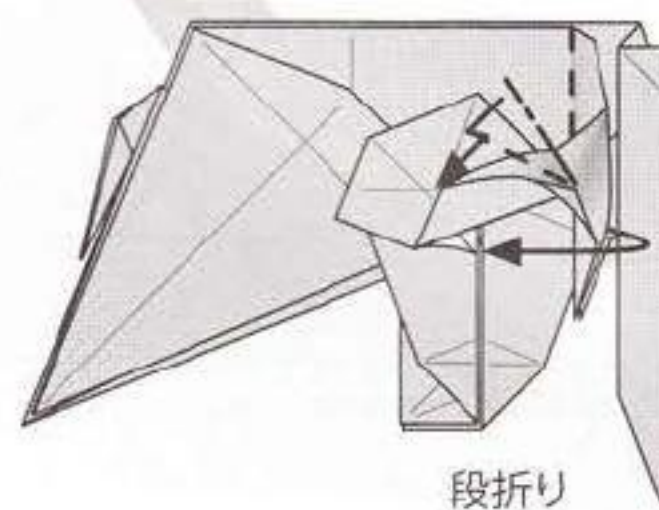
カドと折りすじの交点を
合わせて折ります

69



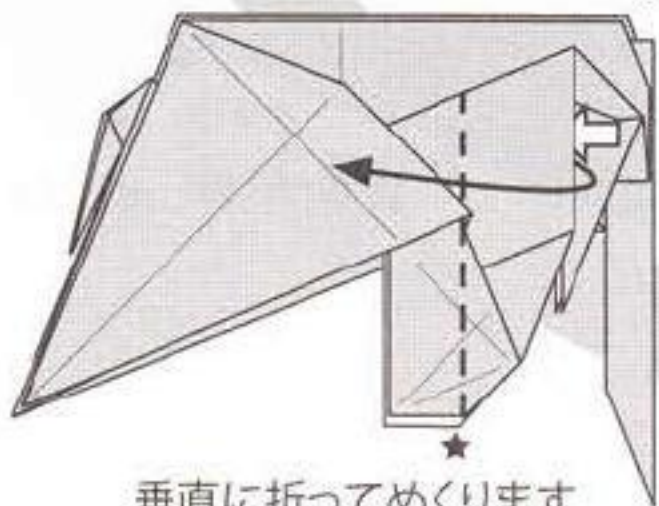
指をさした2つのふちを
合わせて折ります

72



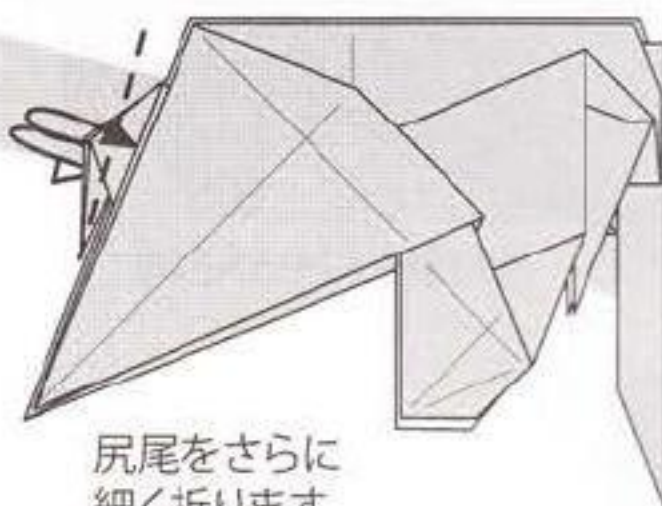
段折り

68



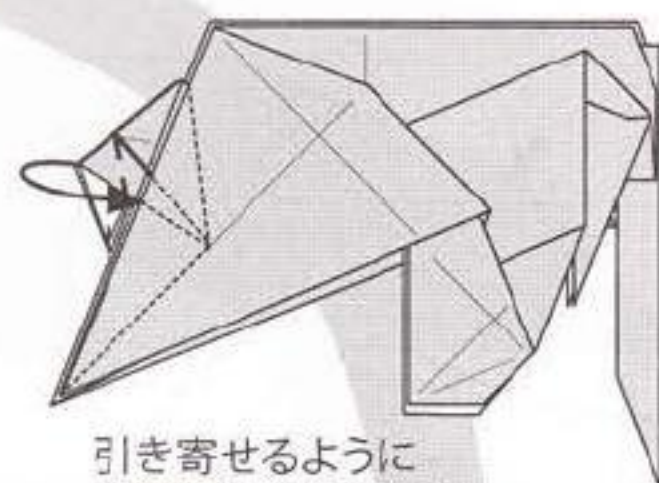
垂直に折ってめくります

67



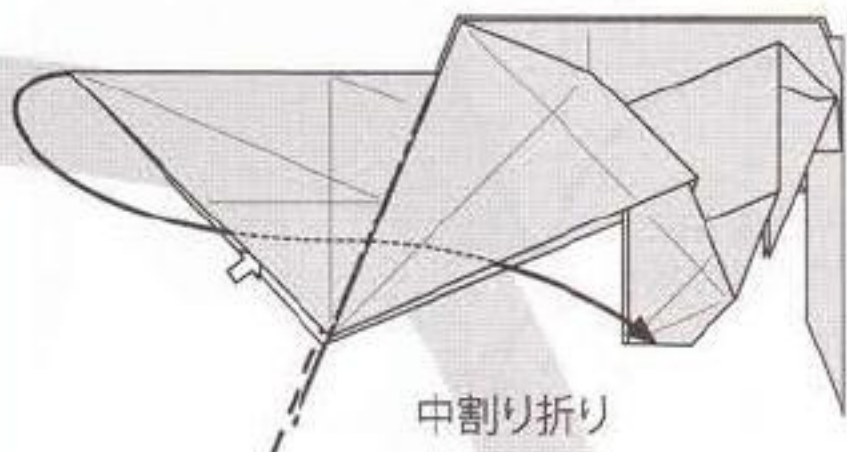
尻尾をさらに
細く折ります

66



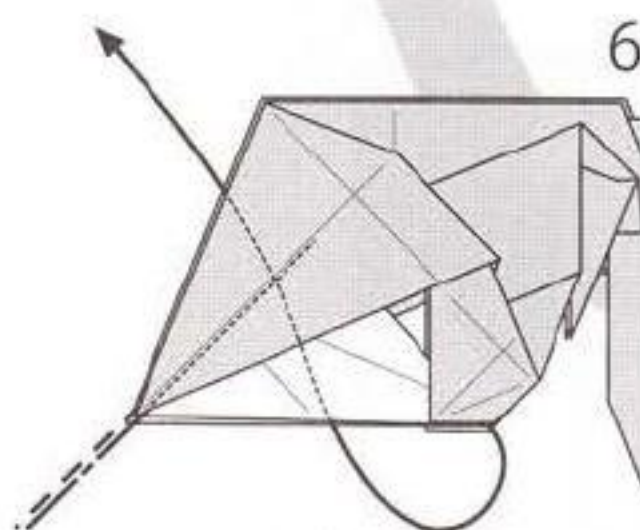
引き寄せるように
尻尾を細く折ります

62



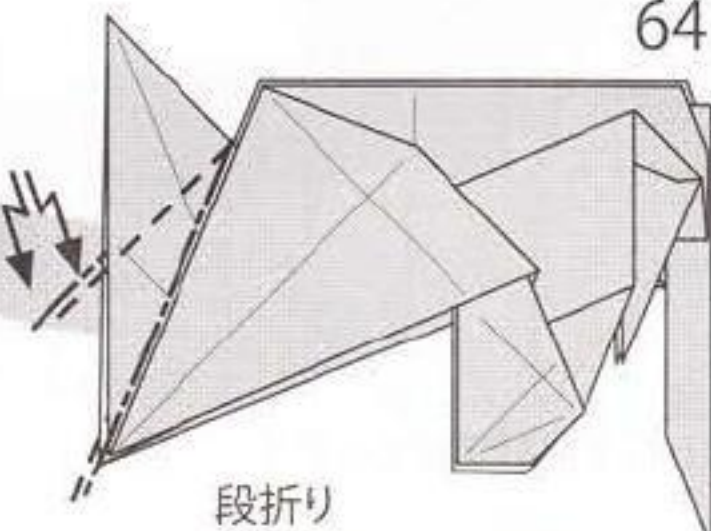
中割り折り

63



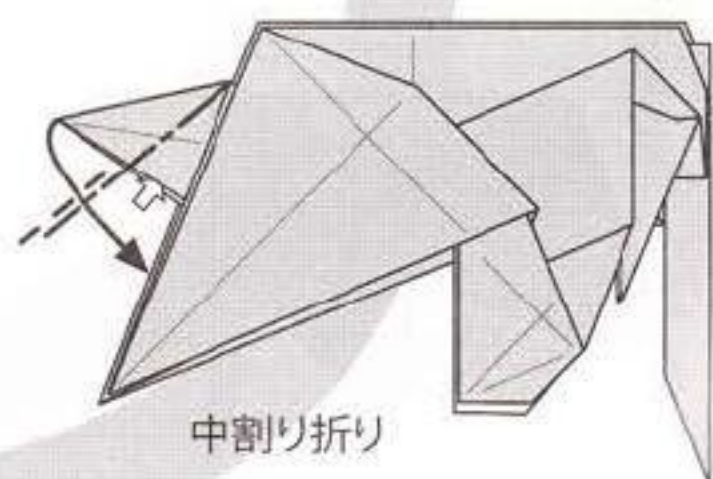
中割り折り

64

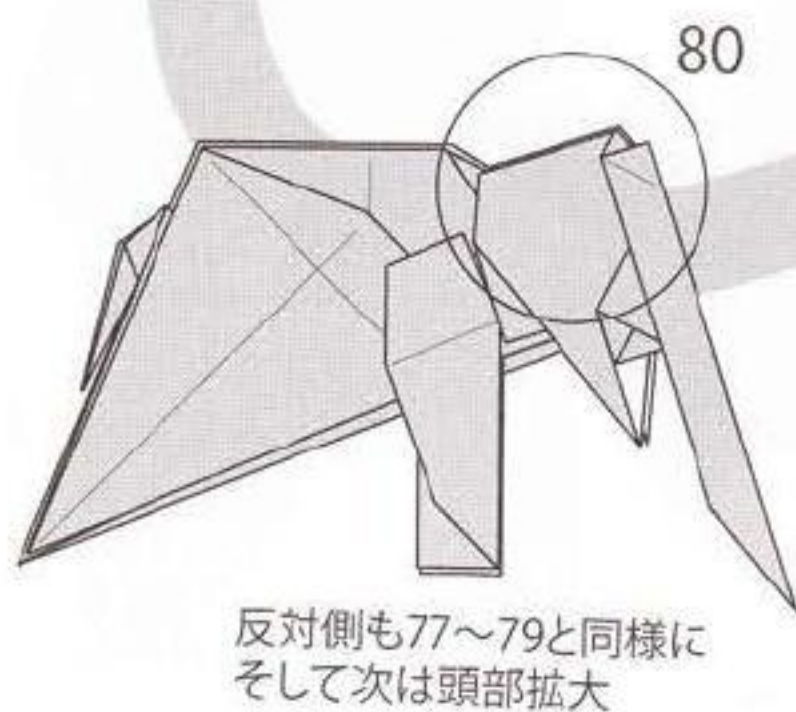
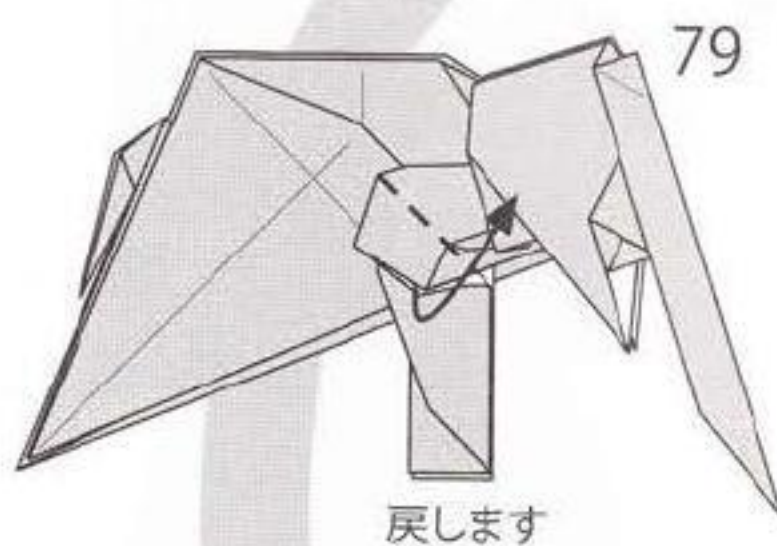
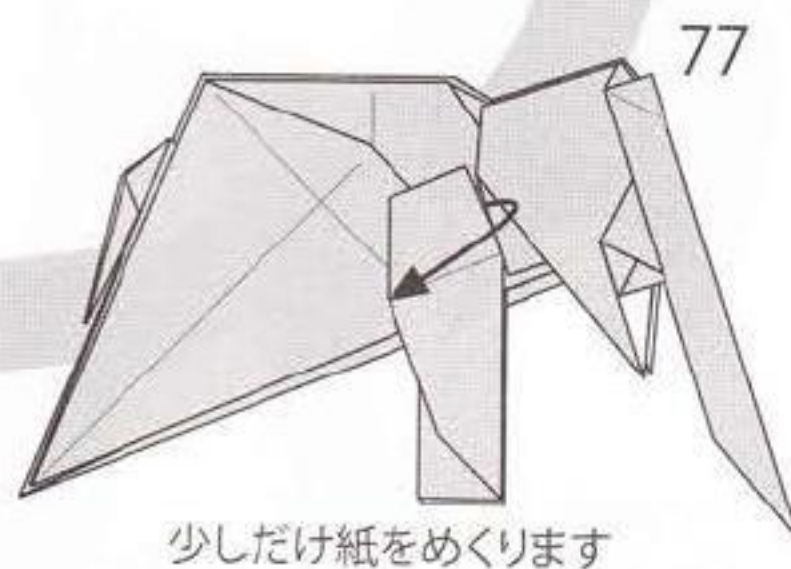
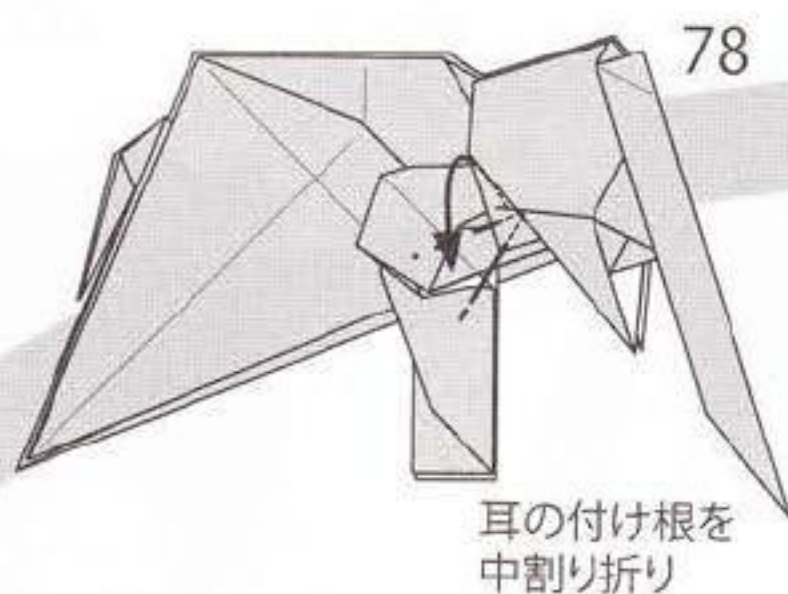
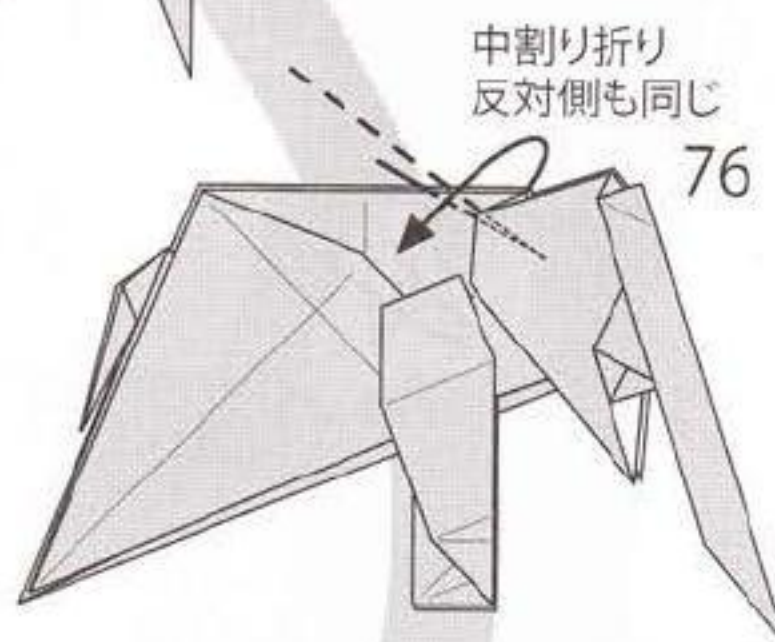
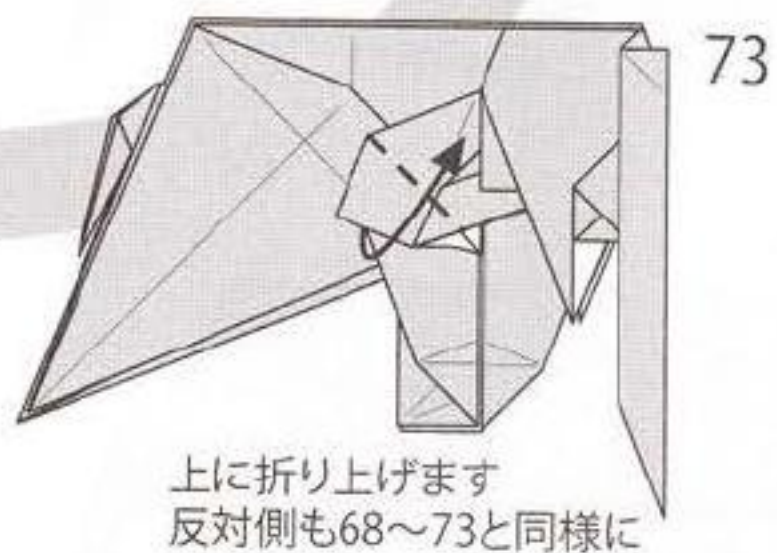
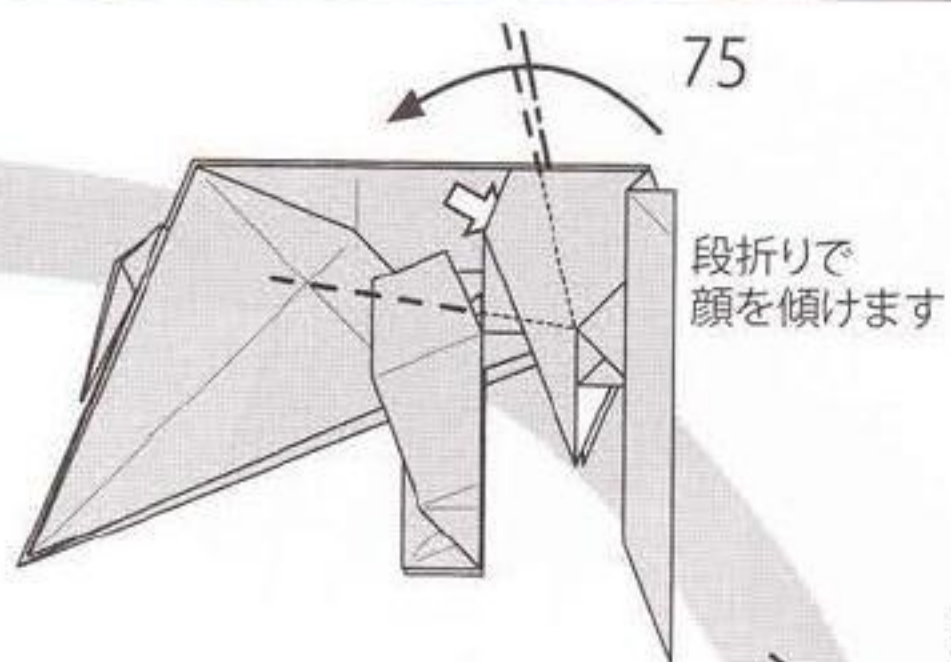
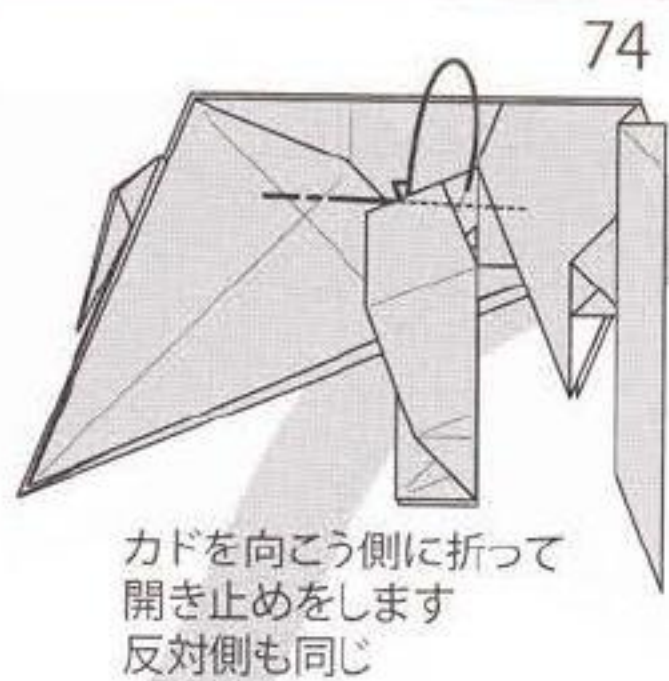


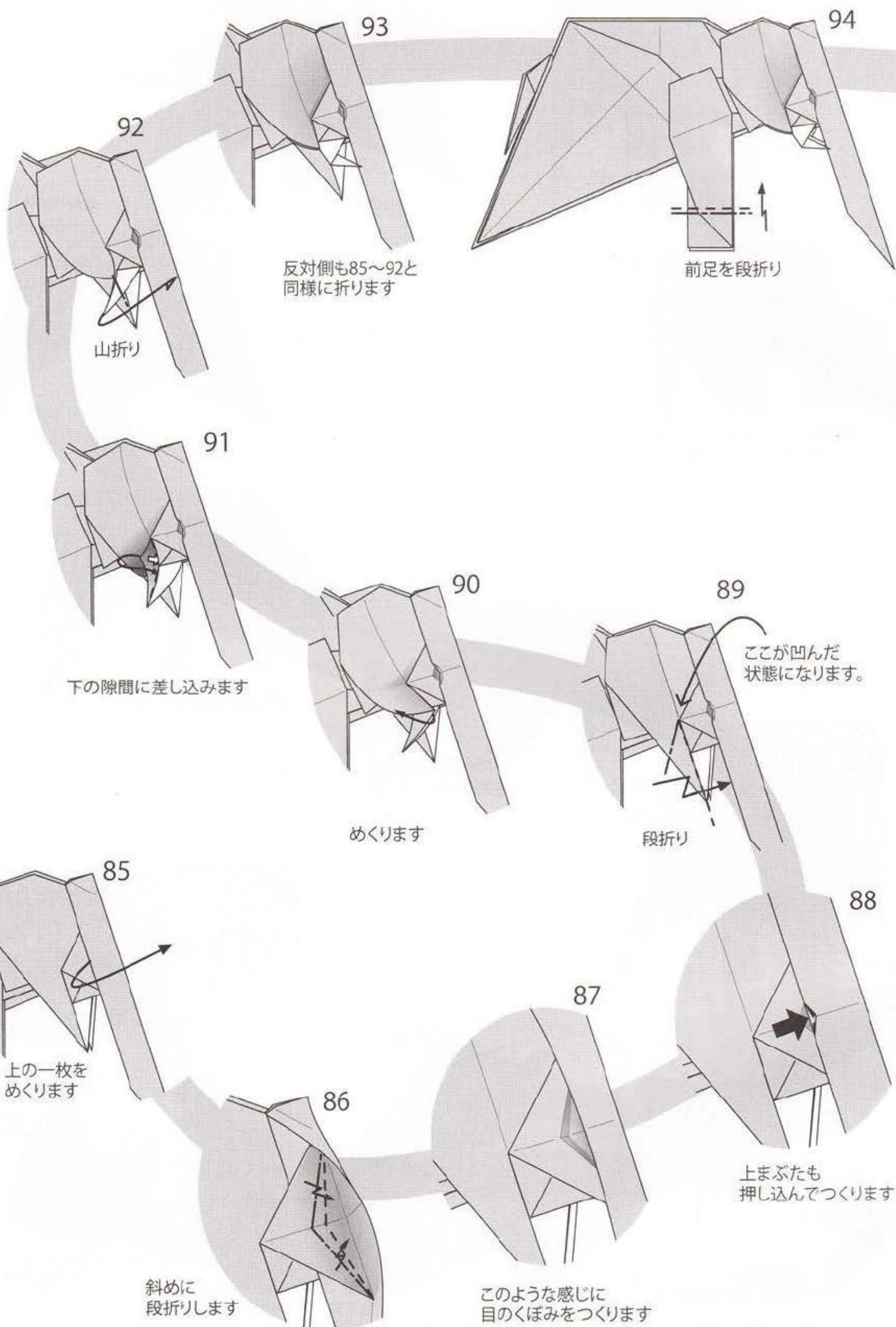
段折り

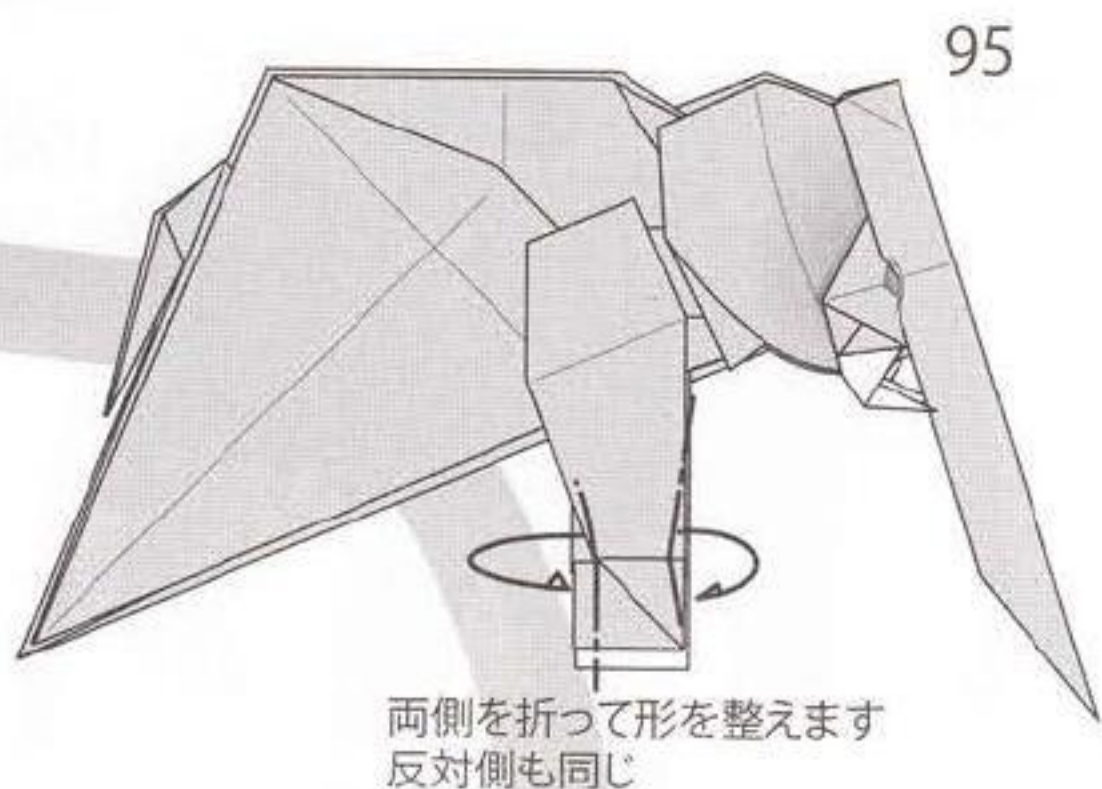
65



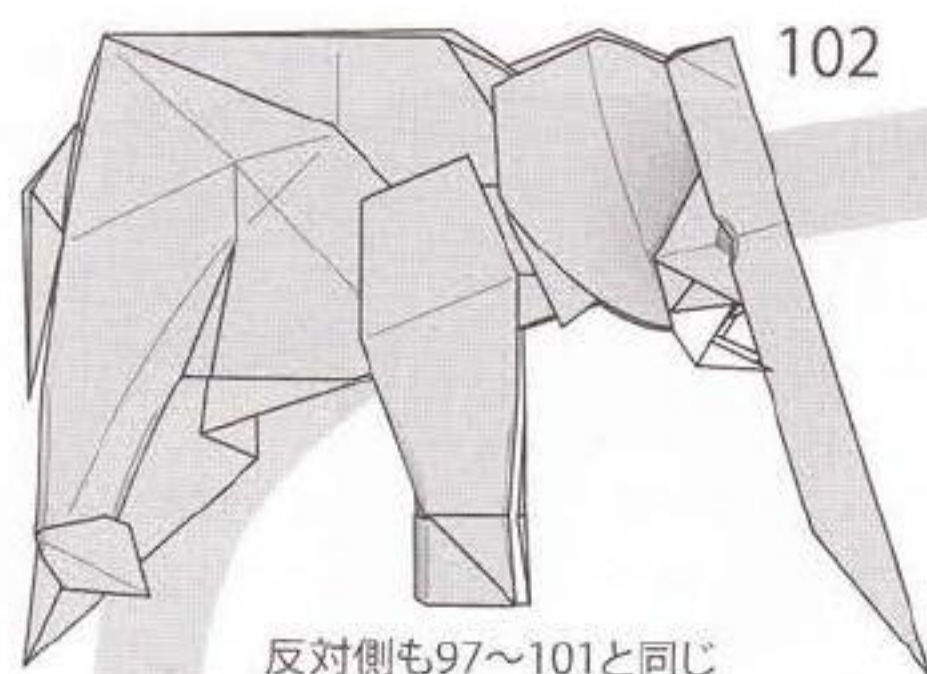
中割り折り



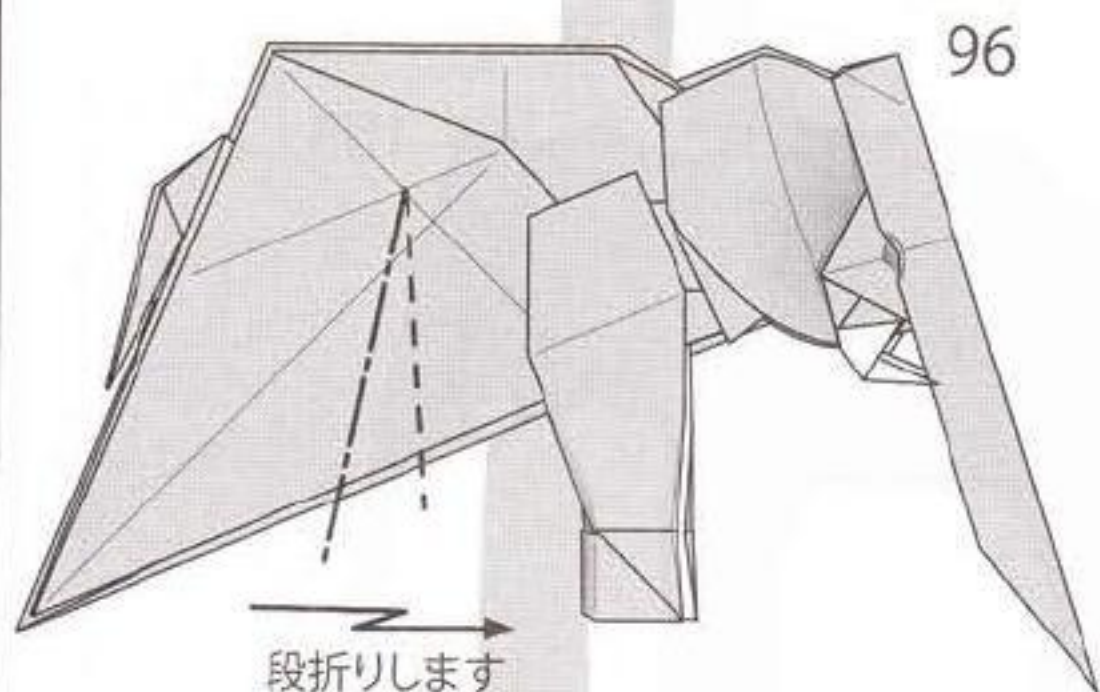




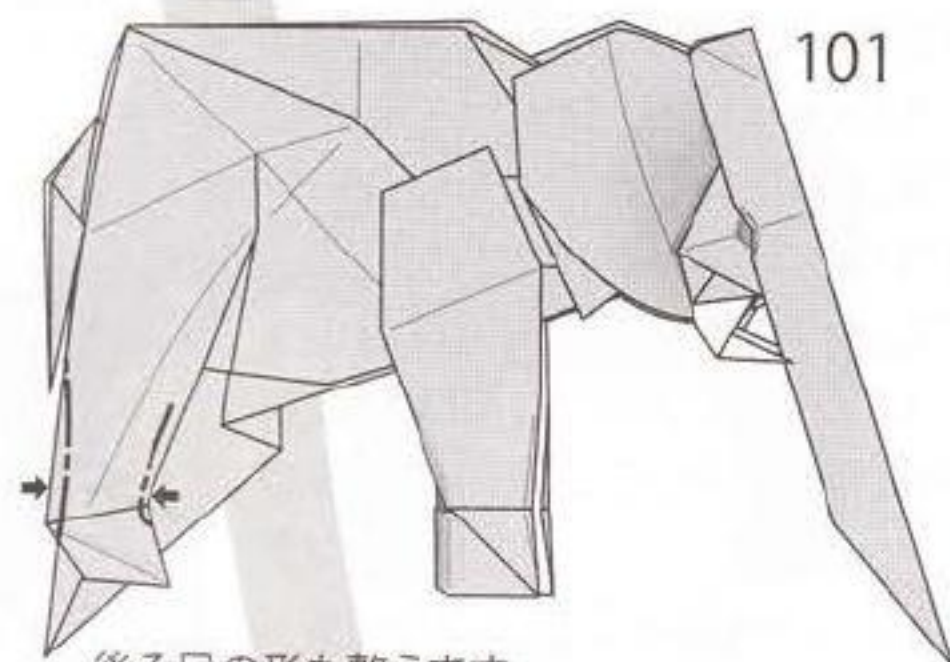
両側を折って形を整えます
反対側も同じ



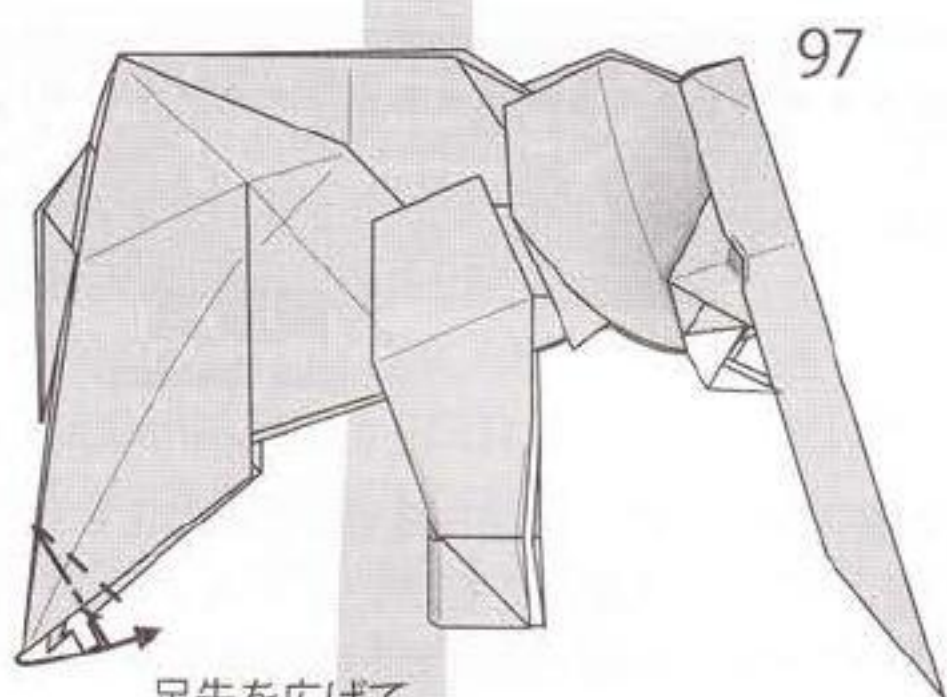
反対側も97~101と同じ



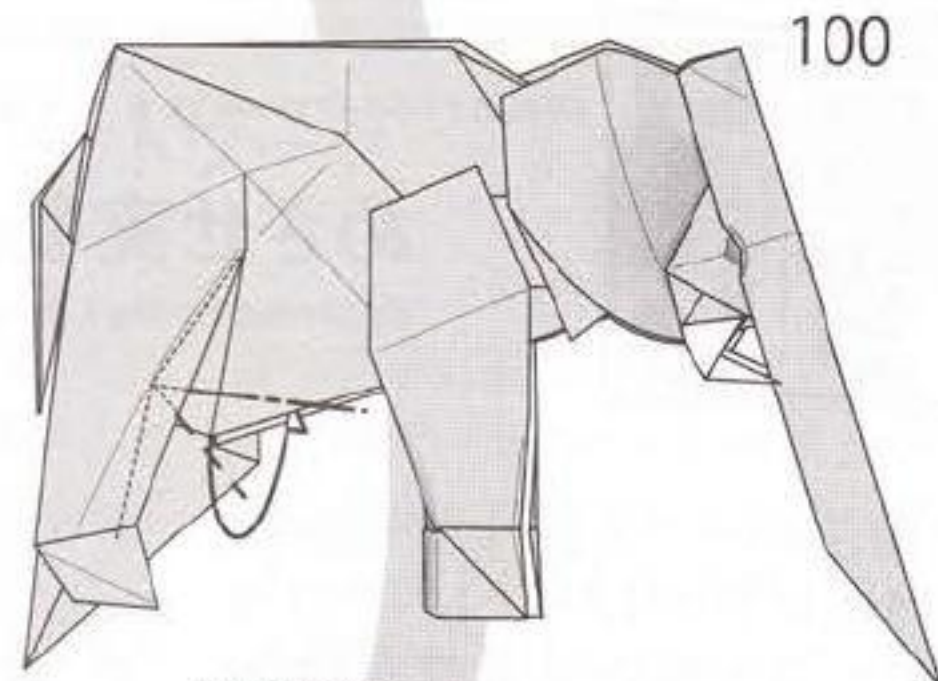
段折りします
反対側も同じ



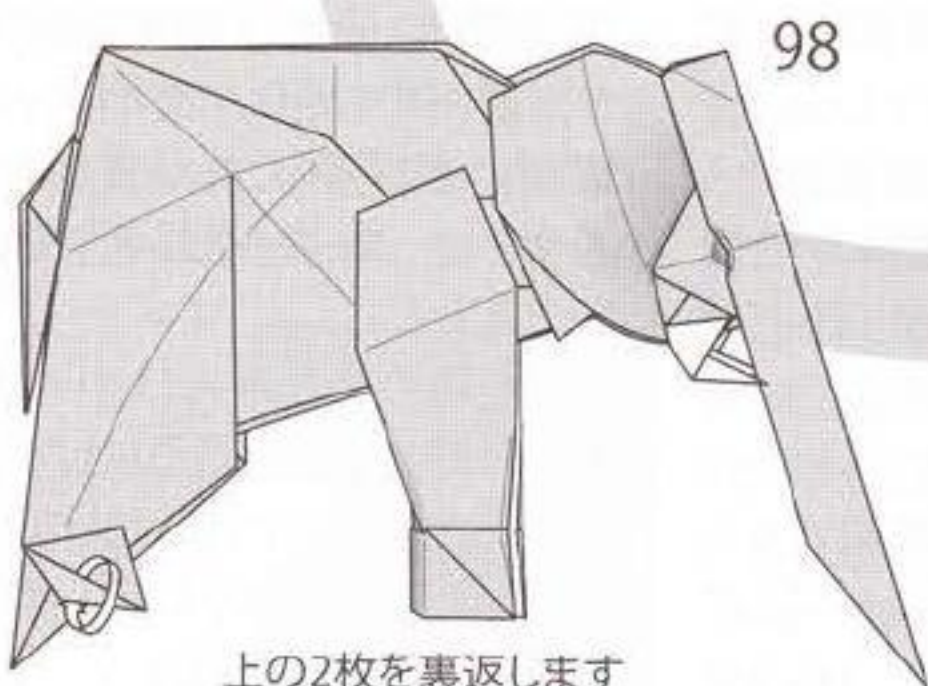
後ろ足の形も整えます



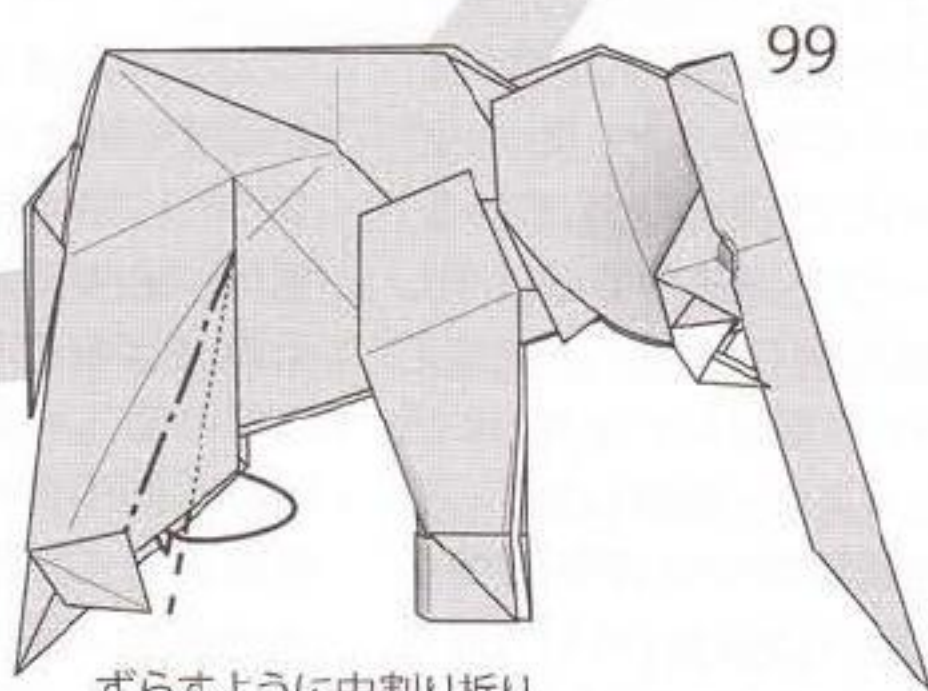
足先を広げて
つぶします



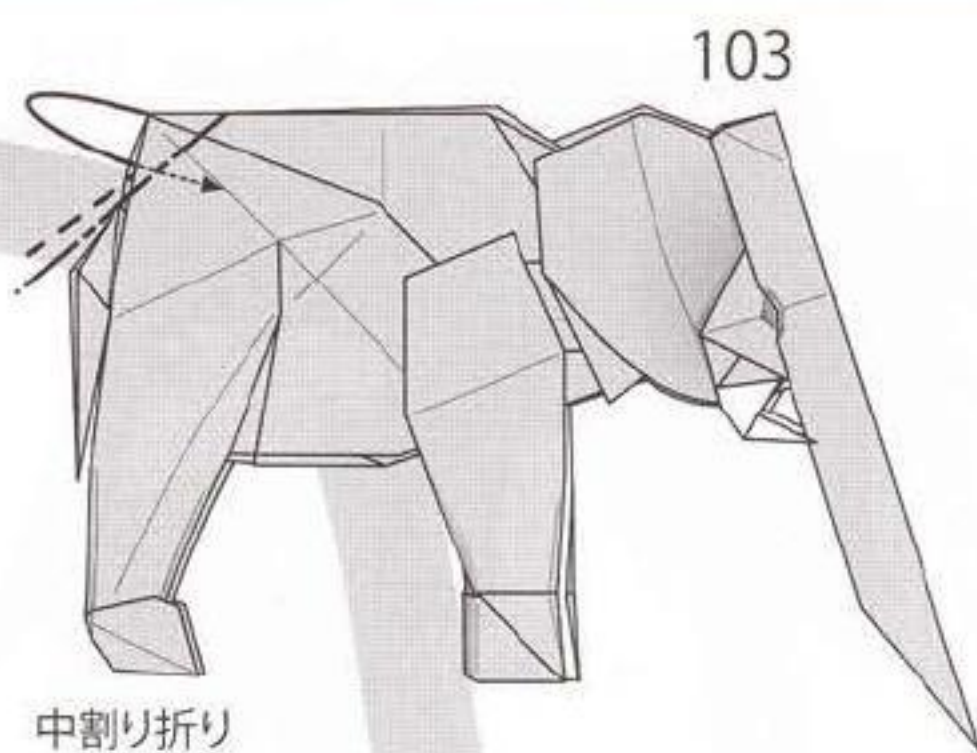
引き寄せ折り



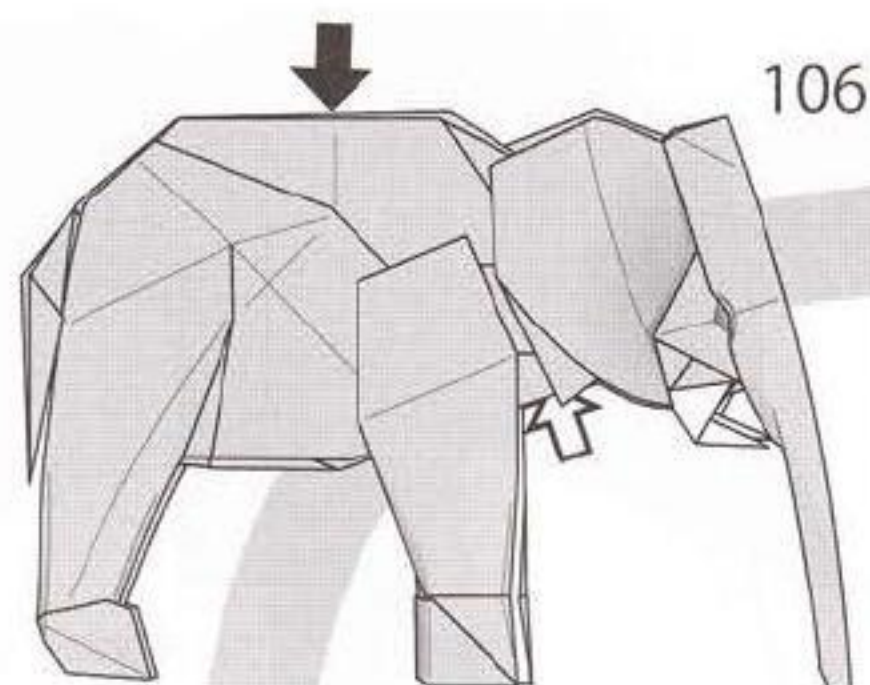
上の2枚を裏返します



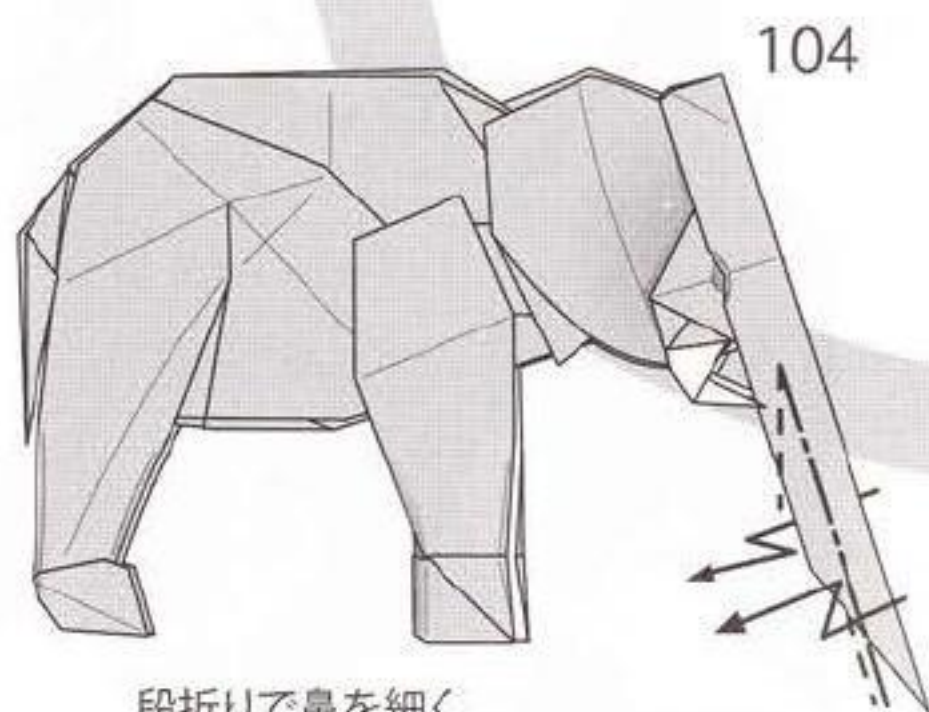
ずらすように中割り折り



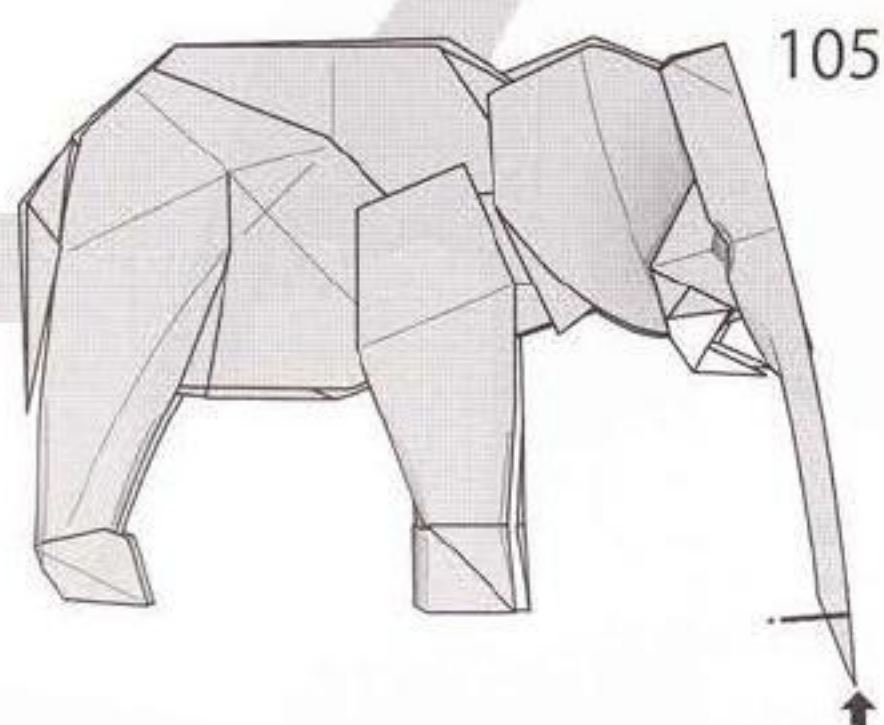
中割り折り



首もとを広げたり、
あといろいろ微調整して……



段折りで鼻を細く



105



Orisuzi ("Fold-Creases")

めざせ実物大!

Charmed by the Life-Size Models

芳岡康寛

Yoshioka Yasuhiro

関西コンベンションにて大型展示物を近年手がけさせてもらっていますが、展示作品として作る意味合いのほかに、『実物大、もしくは自分の思うイメージに如何に近づけることができるか』という私なりのこだわりがあるからです。

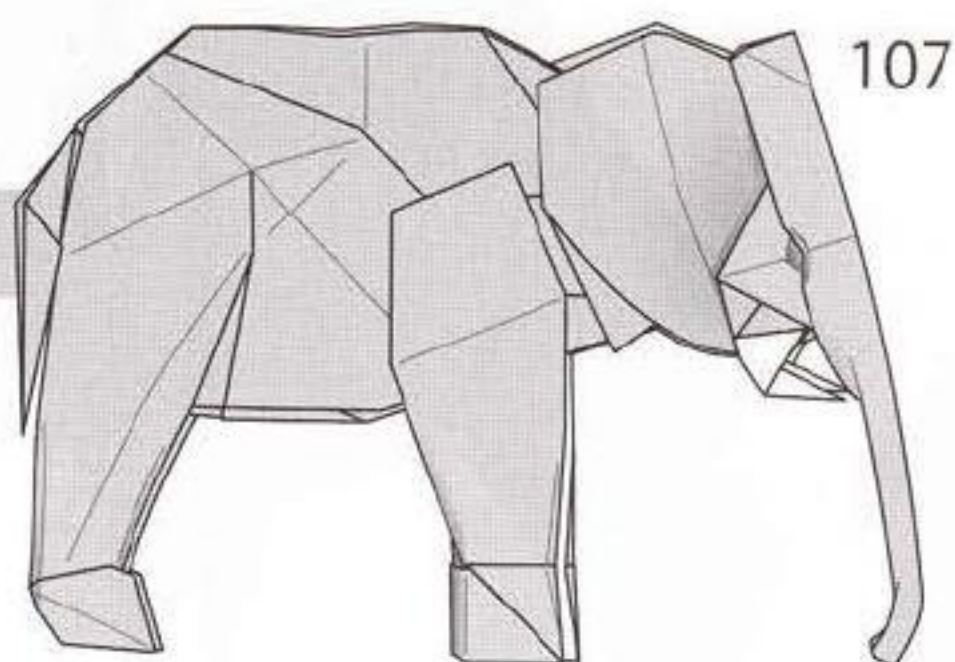
例えばウサギを作るとします。ウサギは「しろくてふわふわしている」というイメージがあるので紙は少し厚めの和紙を選び、紙の大きさも出来上がりから逆算して実物大に近いものになるように裁断します。折るときは内側に隠れる折れ線や必要などところ以外はなるべく折り線はつけないように気をつけて製作し、

折り上がったらふっくらした感じが出るように糊付けは最低限にとどめ、表面に出てきた折れ線を爪でしごいて消したり、軽くブラッシングして毛羽立たせるなどして完成させる……といった感じです。

大型作品は大きさの関係上、折る場所や紙質が限定されてしまいます。そして何より完成させるという覚悟が必要です。私が製作する展示作品は紙作りから完成・仕上げまでの全工程を一人でやっていますが、前半部分での仕込み折りの際は半分の三角に折る作業ですら一苦勞で、寝転がって手を伸ばして端を押さえて足で折り目をつけるな

ど、傍から見てると紙の上に這いつくばってもがいているようにしか見えません（まさに肉体労働）。ただ、ある程度進んでくるといつもはピンセットを使ってつまみ出していた工程を腕を突っ込んで引っ張り出したり、大きい分だけ表情や指先の動き、ポーズのとり方など自分の思う細かい表現や工夫ができるので、通常とは一味違った『折り紙』を体験できます。

折り紙の楽しみ方は十人十色ですが、同じ作品を折るにしても紙質や大きさを変えてみるだけでも新しい発見があると思うので、皆さんもぜひ試してみてください。



完成

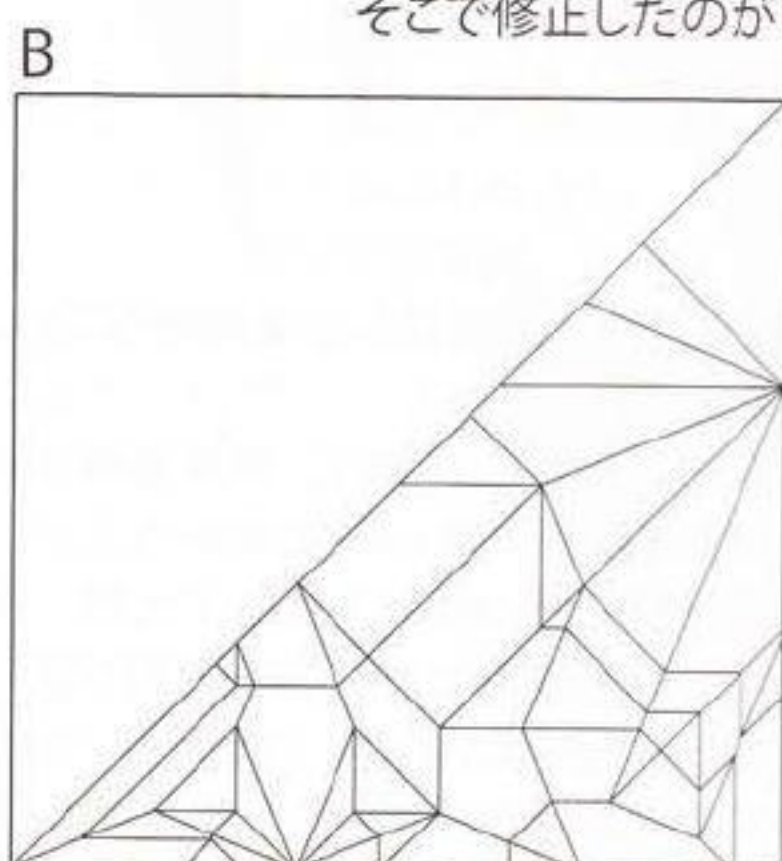
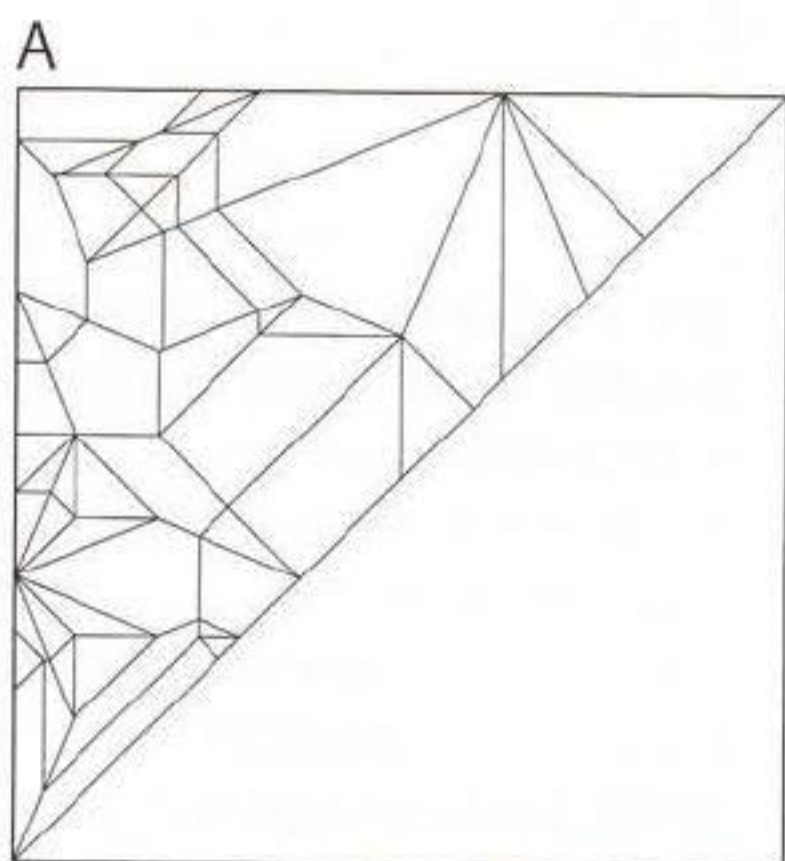
アフリカゾウの折り図、いかがでしたか？ この作品はコンベンション等で何回か講習を行っておりますが、なかなか好評をいただいている自慢の作品です。特に前足の折り方は面白い工程になったと自負しており、55番の折り方を発見したときは「おお！ この点とこの線が一致するのか！」と驚いたものです。

さて、今回折り図を掲載するにあたって、最後に初めてこのゾウの展開図を描きましたが、その結果、55番の折りは別にどの線や点とも一致してなかったことが判明しました。見てください、Aの展開図。前足のところ、線がずれて干渉しあってるでしょう？ これじゃ折れないじゃん！！

そこで修正したのがBの展開図です。実は、40番の折りす

じをつける工程で、折りすじの位置を若干下に下げると、全ての点が一致した正しい折り線構成に直すことができます。具体的にどの基準で折りすじをつければいいのかまでは調べていないので、気になる方は各自で研究していただければと思います。

というわけですみませんでした。もう自慢しません。ちなみに好評をいただいているというのは嘘です。



折紙三昧⁶³

Origami-Zanmai (This Origami and That)

前回のこのコラムでも紹介しましたOrigamiUSAの折り図有償ダウンロードサイト^(注)へ、私も作品をアップしてみました。時期的なものもあり、作品は「Christmas Present -Santa Claus-」を選び、英語版にしてPDFファイルを作成し、表紙用の写真データ(写真)とともに11月末にアップしました。幾人かが、自身のホームページやブログから「折り図はこちら」という風にリンクを張って紹介してくれた効果などもあって、数十のダウンロードがあったようです。12月25日以降、パタとダウンロードが止まるのは



データベースネットワーク

Models Database Network

きりしてるものだなと、興味深いものでした。急にダウンロードが増えたと思ったら、誰かがリンクしてくれた直後だったり、今回、強く実感したのはこのような合法的なダウンロードサイトを用意しておく、不法サイトへの競合効果は確実にあるだろうということです。

さて、上記のシステムを立ち上げたロバートさんが第5回折り紙の著作権に関する国際会議でも講演いただいたデニスさんらと連携して、今度は創作者による作品利用に関する表明をまとめたデータベースのシステム造りに着手しています。日本折紙学会もガイドライン作成とともに、創作者による作品利用に関する考え方をアンケートした資料があ

り、システム造りに協力しています。

このデータベースが出来上がり、デニスさんや岡さんの既存の作品データベースや上述のダウンロードサイトが相互リンクしていけば、まさに第5回折り紙の著作権に関する国際会議で示したデータベースネットワーク(136号 クローズアップ P.12 図3参照)の原型が現実のものとなります。

日本折紙学会としてもこのようなデータベースネットワークが有効に機能するように効果的に連携したいと考えています。

註) <http://origamiusa.org/catalog/books-downloads/file-downloads>

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第81回

ラクダ

Camel

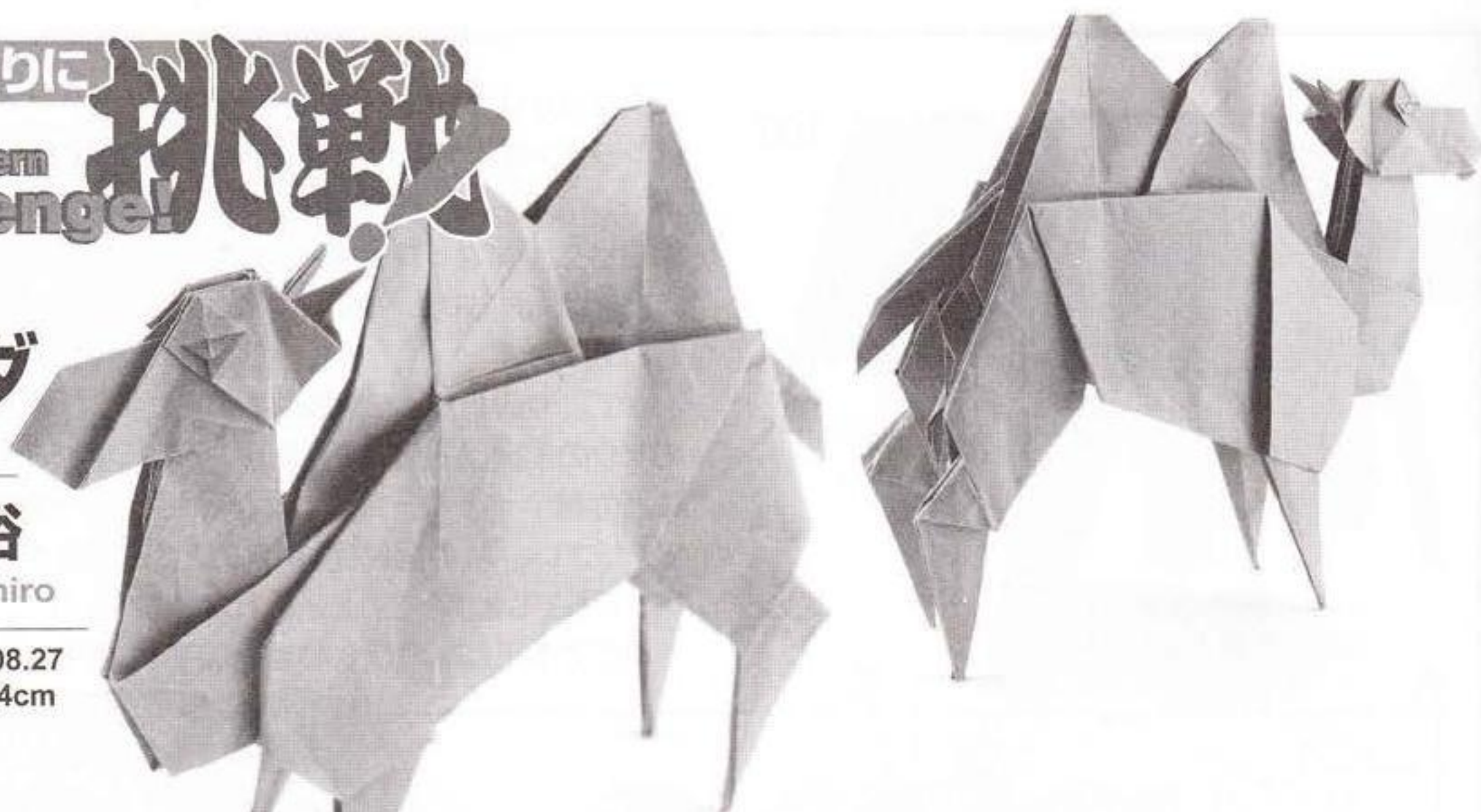
小菅章裕

Kosuge Akihiro

Created: 2012.08.27

Paper: 54cm×54cm

Height: 17cm



このラクダという題材を選んだ理由としては、一値性を崩した構造で折ることを考えた時に、魅力的な姿をしていると感じたからです。背中のコブはもちろんそうなのですが、独特の体のライン、顔の表情に惹かれました。

一値性を崩した構造をつくりたいというのは以前から思っていたのですが、いつも完成させることができませんでした。最近になって紙の動きの感覚をようやく少し理解することができて、今回なんとか形にすることができました。作っていく中で、後脚の角を前脚の角よりも長くして後脚の造形に余裕を持たせたいと感じ、U字型の拡張蛇腹を入れることに決めてそこから折り進めていきました。また、この拡張蛇腹の幅を辺の1/8としたことで、対角蛇腹的な要素も含むこととなりました。

顔についてはどうしてもこの目を付けたかったのですが、ラクダの体はコブがあるため腹割れが適しているのに対して、顔は背割れになってしまいます。デビッド・ブリルさんのサイのような技法で解決しようかとも考えたのですが、頭部の構造を反対側に押し出すような形にすることでこの問題を解決することにしました。この方法の場合、頭部に紙の裏が出てしまうことになりますが、首の長さや角度構成を考えた時にこちらのほうがよ

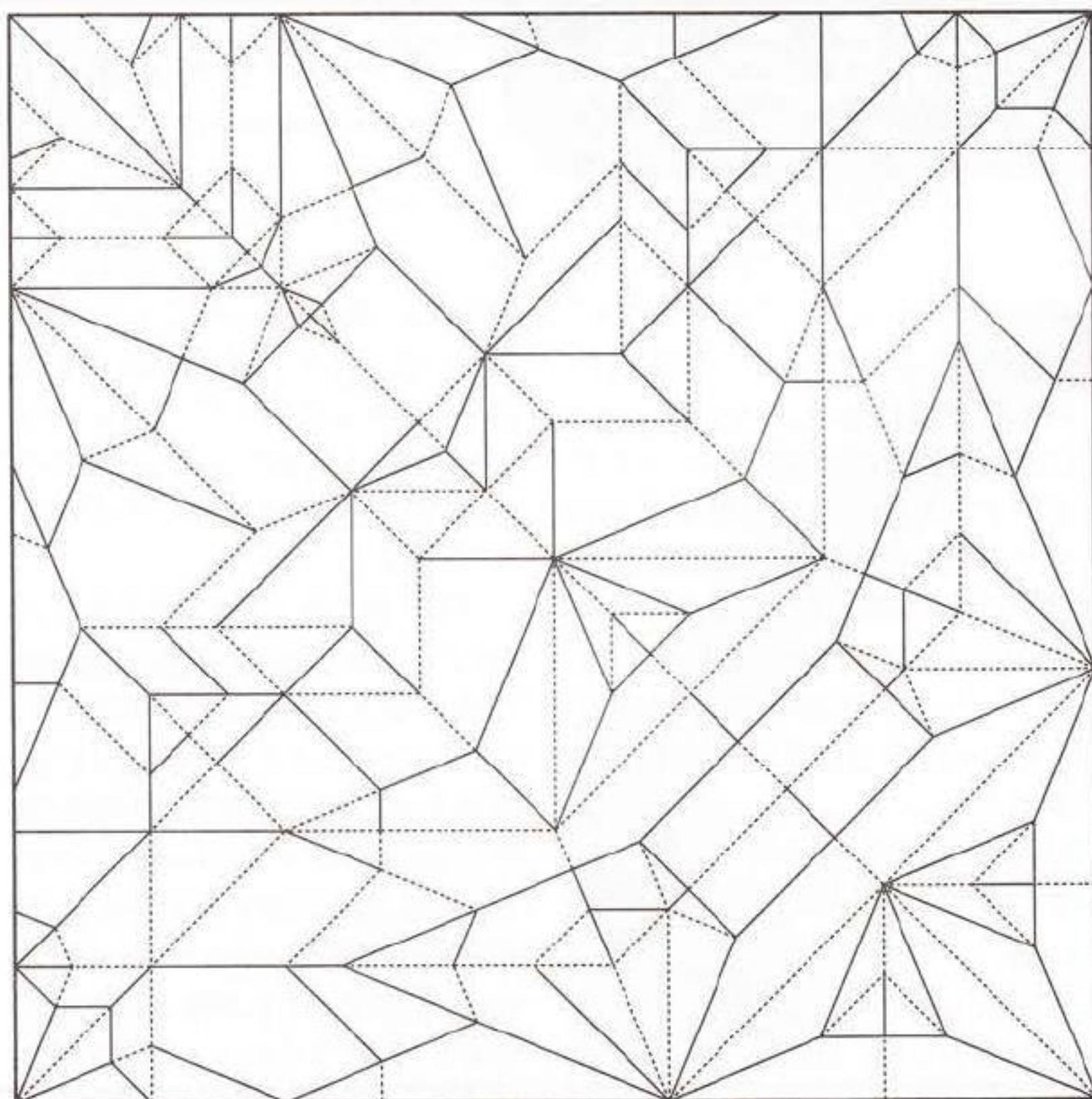
いと感じたのでこの方法を使うことに決めました。

展開図については、創作過程と同じように後半身から前半身へ向かって折りたたんでいくのがよいと思います。展開図をたたんだ後の折りはあまりありませんので、仕上げについての説明は必要ないかと思います。

用紙については、顔の大部分に紙の裏が出ますので、両面同色の紙を

おすすめします。また、後脚などに紙の重なりが多い部分がありますのであまり厚い紙では厳しいと思います。作例ではビオトープGA-FS連量45kgを使用しました。

最後に、今回この展開図を掲載していただくにあたり西川誠司さん、小松英夫さんから展開図について多くの改良案をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



File-50

ホルヘ・パルド

Jorge Pardo

Hatori Koshiro

取材：羽鳥公士郎

○ホルヘ・パルド(Jorge Pardo)=1970年にスペインのサラゴサに生まれる。趣味は、旅行(多くの国を訪問している)、スポーツ(公園でジョギングをするのが好きで、フルマラソンを3度走っている)、映画(短編映画をいくつか制作したことがある)。



■折り紙を始めたのはいつですか。

1992年にセルビアで万国博覧会が開かれましたが、その日本館で吉澤章さんの折り紙作品の展示を見たことが、折り紙に興味を持ったきっかけです。その後、2002年にサラゴサの折り紙グループに参加し、2003年に初めてコンベンションに参加しました。創作を始めたのは2004年です。

■サラゴサの折り紙グループは長い歴史があることで有名ですね。

サラゴサ折り紙グループ(Grupo Zaragozano de Papiroflexia)が設立されたのは1944年で、世界で最も歴史の長い折り紙グループです。現在では、月に2回、喫茶店に集まっています。この喫茶店は、1981年にスペイン折り紙協会が設立された場所でもあり、1992年には吉澤章さんを招きました。

現在の会員数は100人以上です。定期的な会合のほか、サラゴサを中心に展示やワークショップを頻繁に開催しています。2009年にサラゴサ歴史センターで行った展覧会には、2か月ほどで4万3千人の入場者がありました。

国際的なコンベンションも開いています。2010年には、フランスからエリック・ジョワゼルさんを招くことができました。亡くなる数か月前のことです。また、2013年4月には、スペイン折り紙協会のコンベンションがサラゴサで開催されます。

■ご自身ではどんな作品を創作していますか。

ほとんどがユニット折り紙です。自分でもっとも気に入っている作品は、

2005年に創作した「フレキシボール」です。これは動くユニット作品で、形を自在に変えることができます。世界中の折り紙作家はもちろん、スペイン王妃、サラゴサ市長、スペインの日本大使などに差し上げてきました。また、世界中の人が折ってくれて、動画をインターネットに掲載しています。それを見るのはうれしいですね。

通常の折り紙用紙よりも、紙幣や、宝くじなど使い古しの紙をよく使います。人が中に入れるような大きな作品を作ったり、ランプシェードやテサレーションをユニット折り紙で作ったりもしています。

■お仕事は何をしていますか。

産業エンジニアリングを学び、産業用ロボットのプログラミングを10年間していました。2008年からは、サラゴサ折り紙美術館(Escuela Museo Origami Zaragoza)の設立準備を中心として、折り紙に専念しています。

美術館を設立するために、サラゴサ折り紙グループの数人が活動して

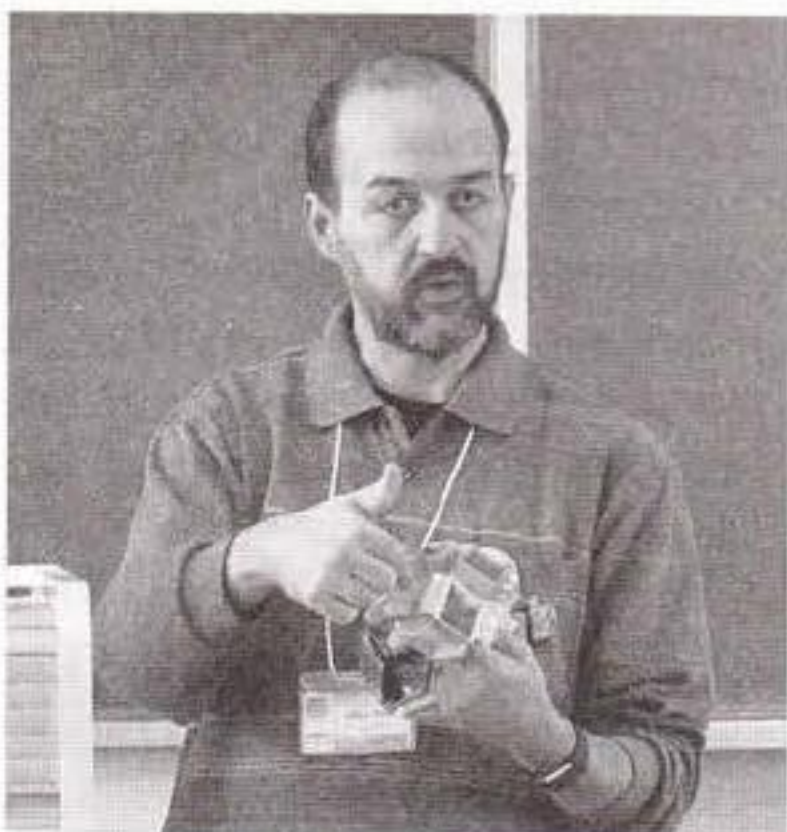
いますが、フルタイムで働いているのは私だけです。

■美術館について教えてください。

2006年にサラゴサ折り紙グループで折り紙美術館を作ろうという話が持ち上がりました。そこで、サラゴサ市に話を持ちかけましたが、当初は全く興味を持たれませんでした。

その後、2008年のサラゴサ万博をはじめとする様々な機会ワークショップや展覧会を行った結果、2012年5月に、サラゴサ市から歴史的な建物の一角を提供されるとともに、日本大使館から協賛を得ました。10月には最初のスポンサーがつき、2013年6月の開館を目指して、1月から内装を始める予定です。引き続きスポンサーを探しており、日本のスポンサーも探しています。

この美術館では、常設展示と企画展を行い、巡回展も企画する予定です。また、ワークショップのためのスペースや図書室も作る予定です。日本の皆様のお越しもお待ちしております。



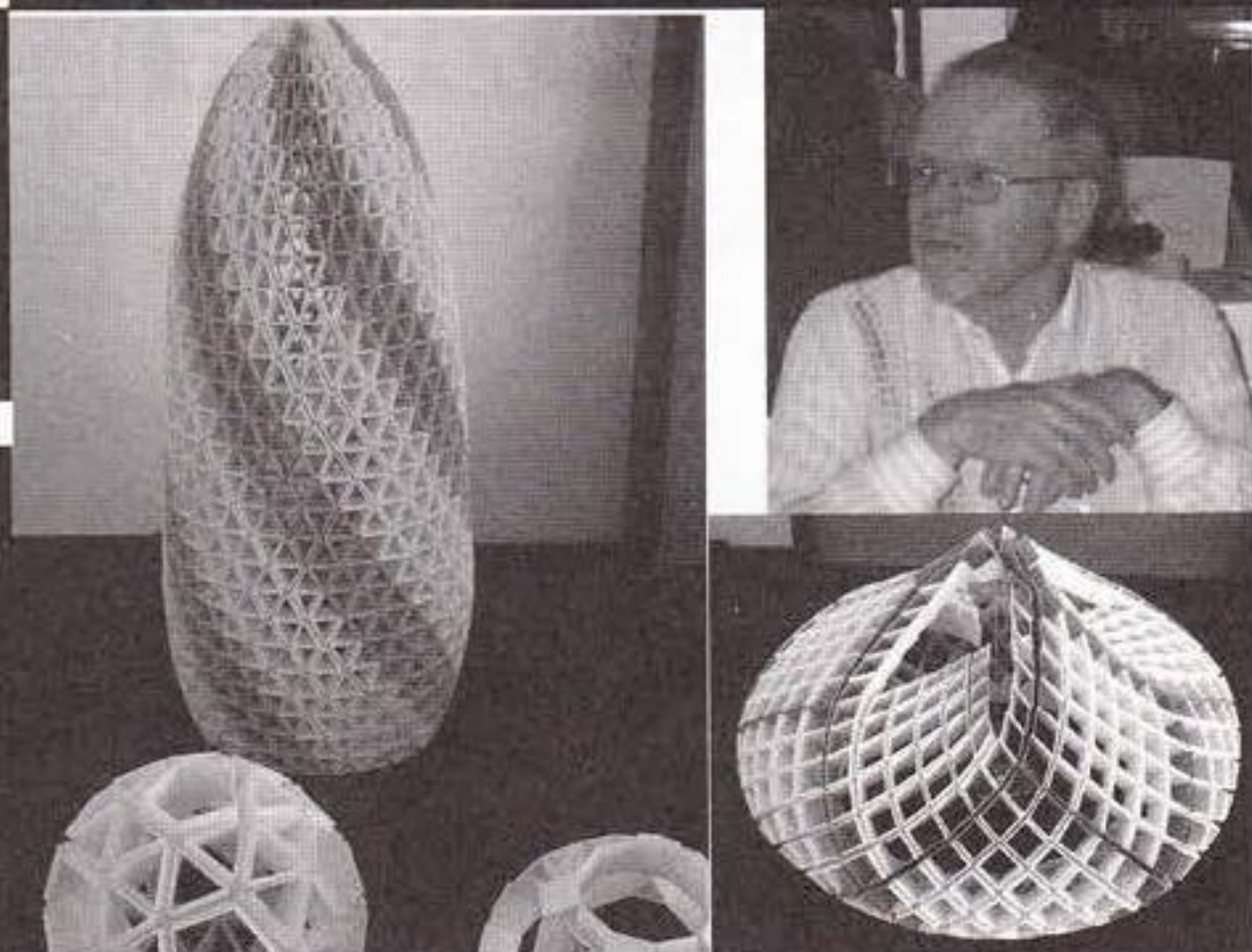
▲第8回名古屋コンベンションで「フレキシボール」の講習をするパルド氏



▲畳んだ状態の「フレキシボール」。透明な収納ケースも、折り紙できている。(カラー写真は本誌P.21に掲載)

Rabbit Ear つまみおり

Information



スペシャルゲストのハインツ・シュトロベル氏と作品

第13回 折紙探偵団 関西コンベンション開催決定! 参加者募集

2013年3月22日(金)・3月23日(土)
会場:神戸女学院大学文学館

昨年に引き続き、関西コンベンションは今年も3月末の開催に決定しました。海外招待作家は、ドイツのハインツ・シュトロベル氏。ユニークなユニット作品を得意としています。参加ご希望の方は、今号に同封の用紙にてお申し込みください。

◆主な日程:

○22日(金)

10:00 ~ 受付開始
11:00 ~ 講習受付開始
12:00 ~ 13:00 昼休み
13:00 ~ 13:30 全体会
13:30 ~ 17:20 講習1 ~ 4

○23日(土)

9:00 ~ 受付開始
9:30 ~ 講習受付開始

10:30 ~ 12:20 講習5 ~ 6
12:30 ~ 13:30 昼休み
13:30 ~ 15:20 講習7 ~ 8
15:30 ~ 17:00 講演会
17:00 ~ 17:30 全体会
19:30 ~ 21:30 懇親会

◆参加費

コンベンション

大人4,000円、子ども3,000円(2013年3月時点で中学生以下)

※中学生以下の方を対象に親子割引があります。詳細は別紙をご覧ください。

懇親会

大人5,000円、子ども3,000円

※一度参加申し込みをされてキャンセルの場合、キャンセル料として半額を請求致します。懇親会も同様です。

◆問い合わせ・参加及び講師申し込み先(同封の申し込み用紙をお使いください)

立石浩一(たていしこういち)(昼は居ない場合があります)

〒657-0015

神戸市灘区篠原伯母野山町1-1-2-811

電子メール

koichi.tateishi@minos.ocn.ne.jp

電話 090-7095-4728

申し込み締切

2013年3月4日(月、必着)

※原則として先着200名様までとさせていただきます。ご了承ください。

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

The Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims to support the exchange of ideas between the world's origami artists. Supported by contributions from Tanteidan members, the fund invites foreign folders to attend our conventions.

This year, we would like to invite two foreign origami artists to the 19th Tanteidan Convention in Tokyo, which will take place in August 2013.

We will be accepting applica-

tions from candidates until the end of the February. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will make their decision and announce in May, first to the winners directly, then in our magazine and on our web site.

The selected guests will be required to attend the 19th Convention and teach some models.

The Yoshino Issei Fund will offer each guest up to 200,000 yen for travel and lodging expenses.

We will also help arrange for accommodations.

Please send us an application including the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, email address, and some examples of the candidate's work (photographs of models, diagrams, books, etc.).

Yoshino Issei Fund

c/o Gallery Origami House

1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0001

JAPAN

Email: webman@origami.gr.jp

◆名古屋コンベンションレポート

今回で8回目となった名古屋コンベンション、東海のコンベンションとしては、開催地を静岡から移して通算で14回目となった。地方コンベンションとしては一番歴史が古く、すっかり独自のスタイルができあがり、運営も板についた感がある。

今回のスペシャルゲストは、今号の「ペーパーフォルダーの横顔」でも紹介しているホルヘ・パルド氏。彼のユニットは、丈夫で耐久力があるユニークなものが多く、YouTubeなどで世界へ向けて発信されている有名作品である。

昨年、スペインのAEPコンベンションに招待された、東海友の会代表の川畑文昭氏に対する答礼という形での来日。ゲスト紹介の場面では、今年開館予定のオリガミミュージアム(スペイン・サラゴサ)の計画も紹介された。このプロジェ

クトは、在スペイン日本大使館も積極的な援助をされていて、世界中を見ても他に類をみないものとなりそうである。

懇親会では、会場である名古屋芸術大学の学内において、アルコールが一切禁止となったためか、いつもより大人しい感じのものとなった。しかしその中で、マジックハンドを使ったコンペティションが、盛り上がりを見せていた。



◆スイスで開催したワークショップのレポート

三谷 純

スイスのスーパーマーケットチェーンMIGROSが運営するDIGITAL BRAINSTORMINGという組織から招待を受けて、9月29日にバーゼルで1回、30日にチューリヒで2回、計3回のワークショップを行ってきました。

参加者は各回20名程度。90分という時間のなかで、コンピュータを使った折紙の設計技法についての紹介と、曲線での折りを含む折紙体験をしてもらいました。参加者の皆さんは、私のつたない英語に熱心に耳を傾けてくださり、曲線折りやコンピュータでの設計についてたくさんの質問を寄せてくださいました。

スポンサーであるMIGROSは、利益の1%を芸術関係の活動の支援のために拠出しているとのこと。そのおかげで今



▲バーゼルでのワークショップの風景

◆創作折り紙コンテスト作品募集

第19回折紙探偵団コンベンションJOAS 創作折り紙コンテストは7回目となります。今回の特別テーマは「JOAS 公式キャラクター」。また、例年通り、干支部門もあります。おりがみはうす賞は「動く折り紙」です。

●JOAS 賞特別テーマ部門：JOAS 公式キャラクター

●JOAS 賞干支部門：馬

●おりがみはうす賞：動く折り紙

特別テーマは、長く皆さんに愛されるようなJOASの顔になるキャラクターを名前を含めて募集します。注意)応募作品は全てブログなどに未発表の創作作品に限ります。

*詳細は次号でお知らせします。

回このような貴重な機会をいただくことができました。この場を借りて感謝申し上げます。



▲ご準備いただいたパンフレット

◆第19回折紙探偵団コンベンション折り図集原稿大募集

夏のコンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集しています。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第19回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法

ダウンロード：折紙探偵団 HP の「コンベンション特設ページ」より可能です。

◆応募締め切り：2013年6月末日

Convention Book Vol.19

It is winter, but we are already excited at our starting preparation for the JOAS 19th Origami Tanteidan Convention.

As we do every year, we now call for diagrams from folders all over the world. In order for us to accept your diagrams, please observe the following requirements:

1) The diagrams you send cannot have been published already.

2) The diagrams you send must be in a digital form. We STRONGLY encourage sending editable vector diagrams, especially in either Adobe Illustrator or FreeHand formats.

If your diagrams are accepted for publication, we will send you one copy of the 19th Convention Book to express our gratitude. The official deadline for submission will be the end of June 2013, but again, we STRONGLY encourage you to submit your diagrams early. Please send your data to the following email address: conv19@origami.gr.jp

As always, we look forward to reviewing your unique and original diagrams.

◆第13回折り紙の科学・数学・教育研究集会レポート

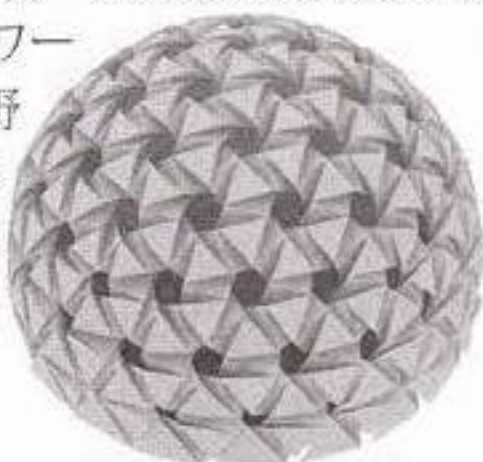
昨年12月16日に、第13回を数えることになった、折り紙の科学・数学・教育研究集会が、文京区白山のJOASホールで開催された。今回も、30人ほどの研究者・愛好家が集まり、ひとり約30分で7人8件の発表があった。この研究集会では、コンピュータを使った工学的な話題が多いのだが、今回は、次のような異色な発表もあった。

ひとつは、心理学者・丸山真名美さんによる『折り紙に関する心理学的研究』である。ふだんまったくといってよいほど折り紙に触れていないひとが折鶴を折る場合に、どこでつまづくのかという事例が、ビデオとしても紹介されたのだが、折り紙に馴れた者にとっては、それだけで手に汗握る映像になっていた。氏の研究はまだ緒についたばかりのようなので、今後の進展も楽しみである。

もうひとつの「変わった」題材は、羽

鳥公士郎さんの『ジョン・ケージ的な折り紙の可能性について』であった。ジョン・ケージは、演奏家が全く音を出さない作品『4分33秒』などによって知られる作曲家だが、彼の作品を紹介しつつ、ジョン・ケージ的な折り紙とはなにかを探るという試みであった。

このように、折り紙の研究はほんとうに幅が広い。むしろ、コンピュータを使った数学的工学的な研究にも新しいトピックが次々に生まれている(例:写真『多面体メッシュの半開テセレーション』館知宏さん)。今後にもこのように、「折り紙」をキーワードとして多分野の研究者たちが交流する場として期待したい。(前川)



開成学園折紙研究部春の展覧会

開成高校の折紙研究部の作品展が開かれる。主催者によると、展示内容は「他の折り紙作家の作品の模倣(折り図、展開図折りなど)を含みます。もちろん部員の考案した創作作品もあります。」との事。

名称:開成学園折紙研究部春の展覧会

場所:東京芸術劇場

開催期間:2013年3月22日~25日

10:00から16:00

対象入場者:一般

入場料:無料

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45)
●2月2日(土)/講師:松井英里香/作品:マトリョーシカ、講師:谷田尚之/作品:ネコ
●3月2日(土)/講師:小松英夫/作品:カタツムリ、講師:森末圭/作品:雪だるま

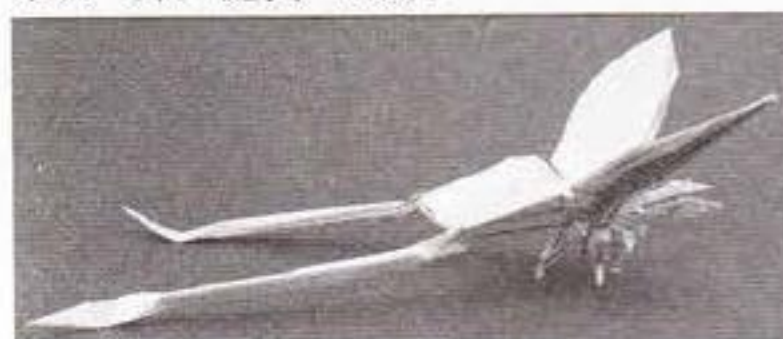
静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=10:30~15:00
※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

●2月3日(日)午前/講師:青島玲子/作品:ふじっぴー、午後/情報交換会等

◆「Jason Ku特別講習」

おりがみはうすに研修(主に日本語)で来日中のJason Ku氏の教室を開催。参加される皆さんは日本語で話しかけてあげてください。2月23日(土)/講師=Jason Ku/参加費=2,000円(材料費込み)/11:00~16:00/講習作品=Luna moth(オナガミズアオ)/定員=28名



東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30
●2月16日(土)/講師:未定/作品:未定
●3月16日(土)/講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●3月、4月はお休みです。
http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階/参加費=500円(中学生以下は100円)
●2月17日(日)/時間=13:00~16:00/会場=第5研修室/講師:山北克彦/作品:未定
●3月17日(日)/時間=13:00~16:00/会場=第3研修室B/講師:宮本真理子/作品:未定

JOASホール今後の予定

◆「実用折り紙教室」

2月13日(水)/講習作品=バラのコサージュ(山口真・作)講師=松浦英子(おりがみはうすスタッフ)/参加費=1,500円(材料費別)/13:00~16:00/定員=10名



◆「知子の部屋」

3月16日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00
アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「ある折り紙作家の教室」

4月7日(日)、14日(日)(2日とも同じ内容)/講師=神谷哲史/参加費=3,000円(材料費込み)/11:00~16:00/講習作品=ニワトリ/定員=各28名(定員になり次第締切)

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■今号から始まった笠原邦彦氏の連載、如何ですか。■興味深いお話が続くようです。■豊富な知識を紹介して頂ける連載です。■お楽しみに。■関西コンベンションスペシャルゲストのシュローベル氏。とても几帳面な方のような。■昨年、取材でお宅を訪ねた。■新築のお宅はとても素晴らしかった。■びっくりしたのは折り紙作品の整理だった。■口では説明できない。■私にはとてもじゃないが真似はできません。■整理法の特集でもどうか。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2013年1月25日発行 第23巻5号 通巻137号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18

日本折紙学会 編 / 2,200円 / 送料420円
B5判 / 全272頁 / 48作品収録

16P 増量!

ミルフィオリ：川村みゆき、チャボ：北條高史、にんじん：前川 淳、キリン：萩原 元、ヘラクレスオオカブト：神谷哲史、ミサゴ：クエンティン・トロリップ、オニオオハシ：ホアン・ティン・クエット、ピクセルユニットのきつね：マックス・ヒューム等、国内外の48作品を収録。



神谷哲史作品集2 NEW!

神谷哲史・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録

好評発売中!

コンプレックス折り紙界の最先端を走り続ける神谷氏の、約8年ぶりとなる作品集。描き下ろしの「フェニックス」をはじめ、レア度の高かった折り紙教室向けの折り図を含む16作品を収録。一層難易度を増した作品があなたの挑戦を待ち受ける!

小松英夫作品集

小松英夫・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録

折り図も一つの作品として捉え、常に新しい表現方法を追求する小松英夫氏の作品集が、満を持して登場! 「ライオン」「道化面2」など描き下ろし作品4点の他、過去に発表された作品もさまざまな形でリニューアル。シンプルからコンプレックスまで20作品を収録。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー	4,800円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

書籍2冊の送料は530円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙、Tシャツなどはそれぞれ別発送となります

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	1～2セット 440円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かな恐竜柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団』専用ファイル	750円	1冊250円 2冊350円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 雑誌『折紙探偵団』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
 〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
 TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
 E-mail: info@origamihouse.jp
 月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
 (株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
 ※本ページ商品は取り扱いっておりません。ご注意ください

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**
 加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
 ※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
 ※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
 ※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。
 ※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

ハーフサイズ
シリーズHalf Size
Series¥200
(税抜き)

ハーフサイズって？

● 15.0×7.5cm

15.0cm角のおりがみを半分にカットしたサイズのことだよ！

匏の中にちょこっと入るサイズだから！いつでもどこでもおりがみ！

うごかす！とばす！おりがみセット

飛ばしたり！
動かして対戦もできる！あそべるおりがみ！

●おりがみ 10色・20枚入 ●プリントおりがみ 10柄・10枚入

かわいい！オシャレ！おりがみセット

コスメ&アクセサリー！
ちょっと大人っぽく！

●おりがみ 10色・20枚入 ●プリントおりがみ 10柄・10枚入

リボンとハートのラッピング
飾りセットおしゃれで！ナチュラルな！
アンティーク調のデザイン！

●おりがみ 10色・20枚入 ●プリントおりがみ 10柄・10枚入

箸袋と箸置き
のおりがみセットかわいいネコの箸置き！
ちょっと面白い矢印の箸袋！
食卓が楽しくなるよ！

●おりがみ 10色・20枚入 ●プリントおりがみ 10柄・10枚入


株式会社トヨー
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所